

「八幡史学館」資料 第9シリーズ 平成26年










番号	表題	内容	実施日	講師	備考
		平成26年度八幡公民館主催事業一覧表			
1		「八幡史学館」第1回講座	平成26年7月8日	山岸弘明	
	◎	プロローグ 市原の近世城郭と八幡陣屋			
2		「八幡史学館」第2回講座	平成26年8月26日		
	◎	江戸時代の人々の暮らし 資料欠落		山岸弘明	
	◎	八幡と飯香岡八幡宮	客員講師	平澤牧人	
		飯香岡八幡宮最大の謎に迫る			
		八幡神の誕生、飯香岡八幡宮の創紀伝承、柳楯神事の謎に迫る、残されてい			
3		「八幡史学館」第3回講座	平成26年9月30日		
	◎	八幡のむかしの仕事	客員講師	石井 勇	
		海苔の養殖、農作業、潮干狩り、子供の遊び、山菜料理			
		飯香岡八幡宮 一の宮(浜本町)の山車について	客員講師	佐倉東雄	
		だし、やまぼこ			
		略図面、各部位銘部分写真 立川内匠門人鬼子郎俱貢 文久2年			
		立川富宣(信濃高島出身の彫刻師、宮大工=天明2年~安政3年)			
4		「八幡史学館」第4回講座	平成26年10月28日	山岸弘明	
	◎	市原の表玄関・八幡湊とと五大力船~市川本店文書を中心に②			

	八幡史学館郷土史スポット			
	ミニ写真展「旧菊間藩士岡田家所蔵写真と豊田尚一」、菊間北野町講内「うのとまつり」、草刈村名主中村家文書			
	房総と江戸・東京を結んだ五大力船			
	市原郡最大の貿易都市・八幡湊と五大力船、母港はいま雁田川・ペーシア裏、海とみおをはしけ船が結んだ			
	本株30艘当時12艘、総数と船名。売買できた船の権利、浜本町に船持船乗渡世の家が並んだ、出帆免状による積荷の明細			
	仕入れの酒や酢塩送り状、明治維新後旅客も乗船			
5	「八幡史学館」第5回講座	平成26年11月4日	山岸弘明	
◎	9時30分～10時15分 八幡地区巡見のみどころ			
	10時30分～12時00分 八幡南部地区巡見＝潮干狩りと海水浴場、南町みお、醤油造りの旧家、三山と富士信仰、八幡中学校			
	12時00分～13時00分 昼食休息			
	13時00分～15時00分 浜本地区巡見＝船だまりと縦みお、よこみお、浜本町の街並み、魚惣、宿通り、陣屋、八幡宮別当寺、八幡宮			
	八幡湊乗船名簿、今津朝山青木権兵衛家五大力船文書、			
6	辰巳公民館主催事業「歴史散歩」			
	①織豊系城郭と館山城	平成26年9月12日	山岸弘明	
	②悲劇の戦国大名里見氏の興亡			
	館山城現地見学＝濠を深くし、矢倉高く天にそびえる 資料欠落	平成26年10月日	山岸弘明	

平成26年度 八幡公民館 主催事業一覧表

☆募集のお知らせは、広報いちはらの毎月15日に掲載
☆申し込みは、18日朝8:30より窓口またはTEL(41-1984)にて受付開始

☆内容・期日は、変更になる場合があります。
平成26年 2月10日 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
3/18	1	ヨーガ教室	5	洪 寛太郎 ヨーガの歴史や効能を学び、心と体の活性と健康増進を図る。	18:00~20:00 一般成人・25名	6 13 20 24 30 日 日 日 木 水													
	2	子育てすくすく (前期)	5	千葉友の会、ピクニック、お話しボランティア、森久美子、八幡消防署 親同士の支え合う仲間づくりを目指す。	10:00~11:30 入園前幼児と保護者・20組	21 11 23 28 月 日 月 月	千葉友の会 ピクニック	21 11 23 28 月 日 月 月	23 月	3日体操 28 月	救命・救急 11 月							子育てについての 様々な事柄を学びながら、親同士の交流を深め、支え合える仲間づくりを目指します。	
	3	陶芸教室	7	根本正男 土に親しみながら、陶芸の基礎技術を身に付け、作品を作る。	13:30~15:00 一般成人・15名	25 23 20 11 25 8 22 金 金 金 金 金 金 金												作品は、公民館の文化祭で展示します。	
	4	上総国府	2	市原市埋蔵文化財調査センター 上総国府を通じて、地域に固有の歴史文化を学び、新しい発見につなげる。	9:30~11:30 一般成人・50名	29 13 火 火													
	5	野菜作り体験	6	仲村マチ子 野菜作りを体験しながら、収穫の喜びを味わい畑作業の意欲を高める。	8:30~11:00 一般成人・15人	3 31 28 26 30 土 土 土 土 土													家族や友達と一緒に野菜を育てましょう。
直接	6	お話し広場	20	お話しボランティア 絵本の読み聞かせを通じて、子どもの豊かな感性を育む。	10:00~10:40 幼児と小学生と保護者	5 19 17 7 21 5 19 土 土 土 土 土 土 土												文化祭 お楽しみ会	
	7	彩サロン	3	鳥居哲子、石井 勇、南郷真子 学習を通じてゆとりと意欲を持ち、より良い生活や社会貢献を目指す。	13:30~15:30 一般成人・30名 抽選	6 14 1 火 土 火	男女参画 バス	バス	料理										バス研修では、横浜の歴史博物館や資料館を見学します。
4/18	8	さわやか春の歌	1	両角八重子 春の歌や青春の歌をみんなで楽しく歌い、気分のリフレッシュを図る。	9:30~11:30 一般成人・40名	21 水													
	9	ハーブ茶とケーキ	3	南郷真子 ハーブの効能を生かしたお茶やケーキで茶話会を開く。	9:30~12:00 一般成人・30名	30 13 27 金 金 金													ハーブティーとケーキで想いのひと時をあじわいませんか。
	10	ステキな出会い(春)	1	公民館職員 体験活動や食事を楽しみながら、異性との交流を深める。	13:00~16:00 独身者・男女15名ずつ	1 日													夢が広がる新しい出会いの場に参加しませんか?
5/18	11	お元気体操(春)	3	地域包括支援センターたつみ・ナーシングピクニック 介護予防の知識を得たり、体操をして身体と気持ちの若返りを図る。	9:30~11:30 60歳以上・30名	2 9 16 月 月 月													
	12	男の簡単料理	1	大多喜ガス 簡単にできる料理を学び、家庭生活に活かす。	10:00~12:00 一般成人・20名	5 木													
6/18	13	八幡史学館	5	山岸弘明 地域の歴史を掘り起こし、その背景を学ぶことで地域への理解と愛着を深める。	9:30~11:30 一般成人・50名	8 26 30 28 4 火 火 火 火 火													
	14	伝統文化に親しむ	1	鈴木順一、大野由美 伝統文化の体験を通じて、日本古来の文化に興味関心をもつ。	10:00~12:00 小・中学生・20名	20 日													茶道や能楽の体験を通じて、日本の文化を学びます。
	15	パソコン人材育成	1	須田克雄 パソコンの講師やアシスタントとして、地域で活躍できる人材の育成を目指す。	9:30~11:30 一般成人・15名	24 木													
	16	パソコン初級教室	2	金澤祐一 ワードの基本操作を学び、ワードの活用方法を知って案内文を作る。	9:30~11:30 一般成人・20名 抽選	29 30 火 水													ワードで案内文やらしを作ります。(パソコンで文字入力ができる方)
7/18	17	英語で遊ぼう	4	倉丸香保果 体験を通じて英語に慣れ親しむ。旗草で外国人と国際交流を図る。	9:30~11:00 小学3年までと保護者 10組 抽選	3 10 17 24 日 日 日 日												外国人と触れ合い、英語の楽しさを体験を通じて学びます。	
	18	一日図書館員	1	清 清子 図書館司書の仕事を体験し、図書室やそこで働く人への理解を深める。	9:00~12:00 小学4~6年・6名 抽選	4 月													キャリア教育として、図書館司書の仕事を体験します。
	19	シニア携帯教室	1	NITドコモ 携帯電話の基本的な操作方法を学び、日々の生活に活かす。	10:00~12:00 60歳以上・30名	20 水													シニアのために、携帯電話の活用方法を学びます。
8/18	20	房総のひとこま	4	安藤一郎 埋もれた史跡や伝説を心に留め、現地学習を実施して、先人の偉業を偲ぶ。	13:30~15:30 一般成人・34名 抽選	28 25 17 27 木 木 金 木													
	21	ヒップホップ	7	レイヴダンススタジオ 簡単なヒップホップを練習し、仲間と共に文化祭での発表を目指す。	18:00~20:00 小・中学生・30名	31 日													簡単なヒップホップダンスをみんなで楽しく踊りましょう。文化祭で発表します。
	22	子育てすくすく (後期)	5	山口様子、ピクニック 秋葉寛子、保健センター、二階堂ゆうみ 親同士の支え合う仲間づくりを目指す。	10:00~11:30 入園前幼児と保護者・20組	22 26 17 15 25 月 日 月 月 日													子育ての様々な事柄を学ぶと共に 親同士の交流を深め 支え合える仲間づくりを目指します。

平成26年度 八幡公民館 主催事業一覧表

★募集のお知らせは、広報いちばら15日号に掲載
 ☆申し込みは、18日朝8:30より窓口または西(41-1984)にて受付開始

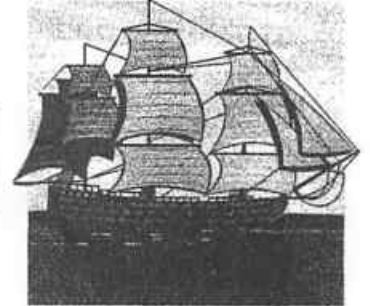
☆内容・期日は、変更になる場合があります。
 平成26年2月10日 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
9/18	23	家読	3	徳永隆彦 読書や読み聞かせを多角的に学び、 家での読書を勧める人材を育てる。	13:30~15:30 一般成人・34名 抽選					本の選び方や読み方を学びます。 バス研修では浦安の中央図書館を見学します。		紙芝居 9 木	読み方 13 木	バス 16 火							
	24	パソコン中級教室	2	稲田忠雄 インターネットを利用して、日常に役立つ 検索の仕方を学ぶ。	9:30~11:30 一般成人・20名 抽選							10 14 金 火									
	25	さわやか秋の歌	1	西角八重子 みんなで楽しく歌うことで、気分をリフ レッシュし活力を高める。	9:30~11:30 一般成人・40名								15 水								
	26	お元気体操(秋)	3	地域包括支援センター かつみ 眞巴台クリニック 介護予防の知識を得たり、体操をして 身体と気持ちの若返りを図る。	9:30~11:30 60歳以上・30名				毎日運動して、 いつまでも元気な体を作りましょう。				24 31 金 金	7 金							
	27	ステキな出会い(秋)	1	公民館職員 体験活動や食事を楽しみながら、異性 との交流を深める。	13:00~16:00 独身者・男女15名ずつ				夢広がる新しい出会いの場に参加しませんか?					2 日							
10/18	28	書道教室	2	南部記代子 年賀状作成に向けて、細筆で整った文字 が書けるようになる。	13:30~15:30 一般成人・15名					手書きの年賀状を送りませんか? 喜ばれることでしょう。			11 25 火 火								
	29	健康料理	1	千葉県栄養士会 健康に良い食材で料理を作り、日頃の 献立について関心を高める。	10:00~13:00 一般成人・25名				体に良い食材を知り、 普段の献立に活かしましょう。					20 木							
11/18	30	エコ掃除法	1	大多喜ガス 調理後、重曹やお茶を使ってキッチン や水回りをきれいにする方法を学ぶ。	13:30~15:30 一般成人・20名					環境に配慮した、エコな掃除の仕 方を身に付けましょう。											
	31	正月料理	1	木村みどり 手軽にできるおせち料理の作り方を学 びレパートリーを増やす。	9:30~12:00 一般成人・20名					おせち料理に、新しいレパートリーを 増やしてはいかがですか?					5 金						
	32	いきいき八幡塾	4	本吉正華 宮本早苗 眞巴包括支援 暮らしと地域の課題を学び、日々の生 活に活かす。	9:30~12:00 一般成人・34名 抽選					中華料理、バス研修(工場見学)、人権講座 介護教室など内容充実。					料理 10 水	人権 7 水	バス 5 木	介護 4 水			
	33	クリスマスリース	1	新崎鏡登 ブリザーブドフラワーでクリスマスリ ースを作る。	9:30~11:30 一般成人・10名 抽選					長持ちするお花のリースです。 お部屋が明るくなりますよ。					11 木						
12/18	34	書き初め教室	2	鍋島恵美子 県の書き初め展の課題を練習し、文字 や字配りの上達を目指す。	9:30~11:30 小学3~6年・20名					公民館で冬休みの課題である 書き初め練習に取り組みましょう。				22 24 月 水							
	35	エコ茶筌雛人形	3	川井麻智子 古布を使って雛人形を作り、リサイク ルへの関心やエコ意識を高める。	9:30~11:30 一般成人・20名					雛人形を作って、お子さんやお孫さんに プレゼントしてはいかがですか?					14 21 28 水 水 水						
	36	園芸プロの技	1	市原市農業センター プロが有している技術を学び、日常に 活かす。	9:30~11:30 一般成人・20名 抽選											20 火					
1/18	37	パッチワーク	3	上平法子 パッチワークの技法を学び、簡単な巾 着袋を作る。	9:30~11:30 一般成人・15名																
	38	親子パン作り教室	1	二階堂ゆうみ パン作りを通じて手作りの楽しさを味 わい、親子での触れ合いを図る。	9:30~13:00 小学生と保護者・10組																
	39	初級シニア卓球	2	寺尾素文 卓球の練習を通じて仲間とのコミュニ ケーションを図り、健康を増進させる。	13:30~15:30 60歳以上・20名					卓球で、いつまでも若く元気に過ご しましょう。											
	40	身体バランス運動	2	大嶋隆司 からだ全体を、健康な状態に整え、痛 みの早期回復を目指す。	13:30~15:30 一般成人・30名																
2/18	41	太巻き寿司	1	上田悦子 郷土料理である祭り寿司の作り方を学 び、習得した技を生活に活かす。	13:00~15:30 一般成人・16名																
募集なし	42	福寿大学	6	千葉労災病院 様々な学習を通じて親睦を図り、健康 で生き甲斐のある生活を目指す。	13:30~15:30 シニア会員・100名			ゴルフ	講話		演芸会		健康講座		お楽しみ会						
	43	子ども盆踊り	1	篠田希代鼓 みんなで踊る楽しさを実感し、地域の 盆踊りに参加しようとする心を育む。	9:30~11:00 八幡小・学童・38名							1 金									

八幡史学館

講師 郷土史研究家 山岸 弘明 氏

会場 八幡公民館 視聴覚室 50名募集



回	月/日	時間	内 容
1	7/8 (火)	9:30~11:30	プロローグ 市原の近世城郭と八幡陣屋
2	8/26 (火)	9:30~11:40	江戸時代の人々の暮らし ~八幡村を中心に~ 八幡と飯香岡八幡宮 客員講師 平澤 牧人氏
3	9/30 (火)	9:30~11:40	八幡のむかしの仕事 客員講師 石井 勇氏 八幡宮一宮の山車 客員講師 佐倉東雄氏
4	10/28 (火)	9:30~11:30	八幡の五大力船 ~市川本店文書から~
5	11/4 (火)	9:00~15:00 (昼食)	教室講座 八幡地区巡見の見どころ 現地巡見 (午前中) 八幡南部地区 " (午後) 浜本町、八幡海岸の名残

参加費 無料

*欠席する場合は八幡公民館 (41-1984) までご連絡をお願いします。
担当 河島・鎌滝



八公運委 第4-1号
平成26年5月2日

山岸弘明 様

市原市立八幡公民館
館長 地引 英樹



八幡公民館主催事業の講師について(依頼)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素、公民館事業に格別なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当公民館主催事業「八幡史学館」を下記のとおり開催いたします。

ご多用の折恐縮ですが、事業の講師としてご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

記

- 1. 事業名 八幡史学館
- 2. 依頼日時 平成26年 7月 8日 (火) 9:30~11:30
8月26日 (火) 〃
(9月30日 (火) 〃)
10月28日 (火) 〃
11月 4日 (火) 〃
- 3. 場 所 八幡公民館 視聴覚室、
- 4. 内 容 八幡、市原地区の歴史
- 5. 受講対象者 一般成人 50名
- 6. その他
 - ・受講者への配布資料や公民館で用意するものにつきましては、事前にご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。
 - ・当日、印鑑をご持参ください。

〒290-0062
市原市八幡1050-1
TEL 0436-41-1984
FAX 0436-43-745
担当 河島玲子 鎌滝裕美

飯香岡八幡宮最大の謎に迫る

飯香岡八幡宮禰宜 平澤 牧人

一、八幡神の誕生

- 1、神の定義
- 2、神社の分類
- 3、八幡信仰の流れ

二、飯香岡八幡宮の創祀伝承から謎に迫る

- 1、御影説
- 2、市原説
- 3、藤瀧岡説
- 4、石塚説
- 5、創祀伝承から見えてくること

四、残されている建造物から謎に迫る

- 1、やしろからみやへ
- 2、山宮と里宮と御旅所
- 3、飯香岡八幡宮本殿

五、むすび

三、柳楯神事から謎に迫る

- 1、柳楯神事の流れ
- 2、柳楯とは何か

【資料】

— 11

本居宣長『古事記伝』

迦微と申す名義未ダ思と得ず。凡て迦微とは、古御典等に見えたる諸の神たちを始めて、其を祀る社に坐ス御靈をも申し、又人はさらにも云ハズ、鳥獸木草のたぐひ海山など、其餘何にまれ、尋常ならずすぐれたる徳のありて可畏き物を迦微とは云ふなり。

— 12

産土型：血縁・地縁組織に基づき氏族

統合の神である氏神や地主神などが祀られてきた神社。五穀豊穣や共同体の繁栄を主に祈願する共同祭祀が中心である。人が生まれたときから、氏神とのつながりは運命づけられ、氏人として神に仕え、共同して神の恩頼をうけることを旨とした。

勸請型：平安時代以降、個人意識が

顕在化し、仏教信仰における個人救済などの影響もあつて、靈威のある神々が地域を越えて信仰されるようになり、各地域に勸請され新たに祀られてくるようになった。外からやつてくる神は靈威のある大神と意識され、地域の神は大神のもとで小神となり、合祀されたり末社となつて存続するが、社名は靈威のある流行神に変更されることが多かった。

— 13

一、宇佐神宮の成立

宇佐神宮の成立背景には、様々な祭祀氏族の権力闘争の上に発生してきた歴史がある。八幡信仰における八幡神のとらえ方や系統も複雑であるのは、宇佐の成立の背景によるとも言えるであろう。

① 比売大神

宇佐神宮二之御殿に奉祀される比売大神（多岐津姫・市杵嶋姫・多紀理姫 宗像三女神と呼ぶ）は、天照大神の生んだ三柱の女神で、日本書紀一書によると葦原中津国の宇佐嶋に天降つたと伝えられている。宇佐国造家ではこの比売大神を祭祀した。天平五年（七三三）に二之御殿に祀られた。

② 八幡神

八幡宇佐宮御託宣集や豊前国風土記に、渡來の神があつた記事があり、八幡神が異国の神であつたことや、また新羅の神が降臨した事を伝承する。新羅の神を祀る渡來氏族の辛島氏が、八幡神を日本の神として祀つた。

③ 応神天皇

日本書紀によると欽明天皇三十二年二月初卯の日、「菅田天皇広幡八幡麻呂」が宇佐宮の菱形池に出現した。神

龜二年（七二五）に御殿を造立し一之御殿とした。それによって宇佐神宮が成立した。

祭祀一族は大御家であり、応神天皇出現及び祭祀の始まりには、九州の一氏族の神であった八幡神（当時の名称は不明・仮に八幡神とする）を、国家神として顕現させるために、中央の大和国大神神社の祭祀氏族であった大神氏の力を借り、新羅神に応神天皇靈を付与させた背景があった。

④神功皇后

日本書紀によると、神功皇后は香椎の地で、天神地祇の教えを仰ぎ熊襲を平定した後、皇祖の神助を得て、新羅出兵を成し遂げた。弘化十四年（八二二）に三之御殿にお祀りした。

四つの過程を概観すると、在地勢力であった宇佐国造家と渡来氏族辛島氏

の祭祀権を巡る勢力争いの中に、更に大神氏が加わって行き、その背景で八幡神及び宗像三女神を比売大神として祭祀したとが見えてくる。やがて、大神氏の力の影響で八幡神が応神天皇として成立し国家神へと発展してゆき、平安期には大陸との交渉に関与した神功皇后が増祀されていったと考えられる。

国家神として発展してゆくきっかけは、養老三年（七一九）の大隅・日向の隼人の叛乱鎮圧の為に八幡神が出御したこと、また奈良東大寺大仏殿建立への協力、更には和氣清麻呂の神託などに八幡神が関与したことが大きい。

二、加速する八幡神の国家神化

天平十三年（七四〇）年、聖武天皇は諸国に国分寺・国分尼寺の建立を命じ、国家仏教の力を借りて鎮護国家を

実現しようとした。同十五年十月その施策は大仏建立の詔へと結実し大仏建立を推進してゆくも、国内は疲弊し地方農村の衰退は著しかった。大仏建立が進まない中、聖武天皇は退位し、藤原仲麻呂が紫微中台に就き国家権力を掌握していった。

天平二十年（七四八）、八幡神を国家神化することを目指していた大神氏の大神杜女・大神田麻呂らが、天神地祇を率いて大仏建立を助けるといふ趣旨の八幡神の託宣を携えて入京した。

この託宣によって、孝謙天皇は八幡神に一品、比売大神に二品という皇族に与える位階を授けられた。この宇佐神宮の神託は大仏建立を完遂したいという聖武太上天皇及び孝謙天皇の意志を強く反映し、そこへ国家神への発展を願う宇佐神宮側の思惑が重なった行為であった。

やがて、聖武太上天皇崩御や孝謙天皇退位により、更に権力を強めた仲麻呂は、恵美押勝と称し一層権勢を極めていく。そこに、天平勝宝六年（七五四）薬師寺の僧行信と宇佐神宮の大神田麻呂らの厭魅事件（人を呪詛しようとした）が発覚し、行信と田麻呂は流刑に処されることになった。この呪詛の対象は不明であるが、恵美押勝に対する呪詛である可能性は高い。

天平勝宝八年（七六四）恵美押勝は孝謙太上天皇に討たれ、孝謙太上天皇は重祚して称徳天皇となった。孝謙天皇は僧である弓削道鏡の導きで出家しており尼僧の身での即位及び大嘗祭を行うことになったがこれは異例なことであった。やがて、称徳天皇は道鏡に法王の位を与え皇位を譲ることを画策した。

しかし、道鏡の即位は、宇佐神宮に

派遣された和氣清麻呂が持ち帰ったとされる神託により阻止されることになり、称徳天皇は翌年崩御した。称徳天皇の後を光仁天皇が継ぎ、皇統も天武・聖武天皇系から天智天皇系へと引き継がれることになった。

この道鏡阻止の神託の成果によって、代々の天皇は八幡神の蓋威を以て皇位継承の正当性を得認されるようになり、八幡神は国家仏教との繋がりを一層深め、桓武天皇の頃には八幡大菩薩と号されるようになっていった。

三、石清水八幡宮の成立

天安二年（八五八）に清和天皇が即位したが、幼帝であったために外祖父藤原良房が権力を握った。良房は貞観元年（八五九）に大安寺の僧行教を宇佐に派遣し勤行させ幼帝の安泰を祈らせた。これは、外戚である藤原氏の権

力安定の為の祈願でもあり、ここに藤原氏と八幡神は一致して繁栄に向かつてゆく。行教が帰京の後、貞観二年（八六〇）、石清水八幡宮が男山に鎮座した。それ以降王城鎮護の神として崇敬され、伊勢神宮に次ぐ国家の宗廟として地位を固め、その末社が全国に勧請されてゆくことになる。

四、若宮の発生について

若宮という神は、八幡神に限られた神ではないが、八幡神においては天長元年（八二四）に公式に祀られなければ崇りを起こすと託宣して出現したと記録される。その託宣を受けて、仁寿二年（八五二）宇佐神宮に若宮が建てられた。

若宮は、本来祀られることを求め崇りを起こす荒々しくも若々しい力を持つ神であったが、宇佐御託宣集などの

成立によって応神天皇と比売大神の間に生まれた御子神であると位置づけられてゆく。荒々しい力はエネルギーに満ち、新しい力を持つ神として広く信仰されてゆく。その信仰が発展してゆく途中で、「若宮四所権現」と号し、若宮・若姫・宇礼・久礼の四神として祀られ、また仏教との習合の過程で観音・勢至・文殊・普賢の四菩薩、また多聞・持国・增長・広目の四天王と同一の神であると説かれてゆく。

二一1

御影説

景行天皇の御代に日本武尊が東征した。その際に、この地に軍を休め、社人が進めた飯の芳しさを賞されてこの地を飯香岡と名付けた。

天武天皇白鳳四年三月十五日に、勅使藤原季満・奉幣使菅原時春の下向を

受けて鎮座したと伝承する。夫婦銀杏がこの時の記念植樹であるという。その後、天平勝宝三年に、勅命により一国一社の八幡宮とされ、国府総社と称した。

二一2

市原説

神亀元年九月十二日、僧行基が十二神将の助けを受けて一夜に作り上げた薬師如来を本尊に祀った寺院が光善寺薬師堂である。

行基が、この寺の前で説法を行っていると、毎朝戴冠の異人があらわれ、石の上に座っていた。行基がその異人に誰かと尋ねると「われ八幡大神なり。説法を聞くため、また病氣や飢餓に悩む人々を救おうとする薬師如来の誓いを手助けするために、毎朝此の石上に来る」と答えた。行基は、これを大変

喜び、麦の飯と柳の箸を捧げたい。それより、氏子たちは八幡宮の祭礼には柳桶を捧げるようになった。



二一3

藤瀧岡説

白鳳二年の事、中村・麻野・中嶋の

三名は花見をしながら、都の古社への参拝、更には筑紫へと足を伸ばそうという話で盛り上がった。三人は旅の神である阿須波神社に詣で、道中の安全を祈り旅に出発し、筑前の宮崎八幡宮に参拝し、その靈験に故郷に是非勧請したいと考えた。参拝の夜夢の中で八幡大神が出現し神前に捧げられていた神璽と楯を授けられ、はやくこの地を立ち去るよう言われた。これこそ神の教えだと感じ入った三人は、柳で作った楯を筏にして、夢の中で神に授けられた神璽と神宝を乗せ袖ヶ浦の手長の浜に流れ着くようにと祈念し海に流した。

三人は帰路を急ぎ上総国に帰り、再び阿須波神社にお礼参りをして海へと急ぐと、蒼野が原の芦が繁茂する入り江に光り輝く物が見えたので、近寄って確かめると筑前で海に流した神璽と

神宝であった。この神璽と神宝を藤瀨岡に祀った。その後現在の社地に日高弾正正忠の寄進で社殿を遷座した。

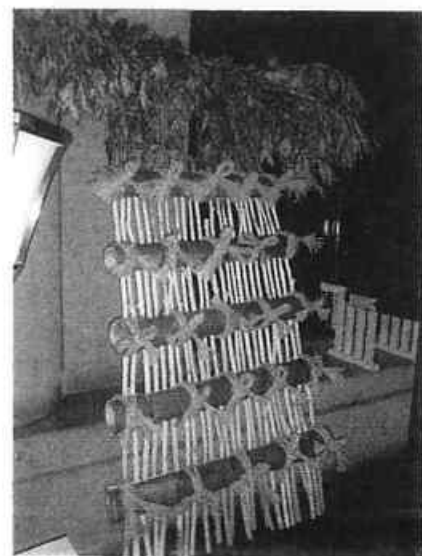
二―4

石塚説

石塚の里人の間では、飯香岡八幡宮はかつて石塚に鎮座し、石の祠を営んでいたという伝承がある。その石の祠に由来して石塚と名乗ったという。この祠は現在の石塚公園内の庚申神社であるとされる。

三―2

柳とは：語源「矢の木」「弥長」「斎の木」等の転。中国では、邪気を払う呪力を持つ植物とされ、清明節に軒先につけるなどした。また柳の霊力によって旅人が無事に戻るとされ、道中で疲れ魂を失わないようにつなぎ止める意



味があるとされる。我が国では、正月に枝に餅花を結んだり柳箸を使用したりして豊作や無病を祈る。またこの世と異界との境界を示す象徴と考えられている。

柳筥やなぎばこ：柳の細枝を編んだ箱。また、

柳の木を細長く三角に削って寄せ並べ、生糸やこよりで編んだ蓋きの箱。古来神に供え物をささげる際に容器として用いられ、神聖視されてきた。

楯とは：古墳時代には盾持人墳輪たてもちひとばらわが古墳の周囲に配置され、悪霊・邪気から

古墳を守る呪器として考えられていた。文武天皇の大嘗（六九八）に、大楯を奉る儀式が行われ、以降大嘗宮には大楯を備えることが慣例となった。

また、『日本書紀』一書には、高皇産靈尊は国譲りに応じた大己貴神に、「汝の住処となる『天日隅宮』を、千尋もある縄を使い、柱を高く太く、板を厚く広くして造り、百八十縫の白盾を作り、天穗日命をに祀らせよう」と述べた事が記されている。

『神道名目類聚抄』

神代口訣に言はく、白盾は必神社にありて神幸の時以て囿とす

『日本書紀』成務天皇五年

国郡に造長を立てて縣邑に稲置を置き並びに楯矛を賜て以て表と為す

三一四

總社：国司にとって、着任後最初の仕

事は赴任国内の神社を巡って参拝することであった。総社の制度は律令制当初からあったわけではなく平安時代になって国府の近くに総社を設け、そこを詣でることで巡回を省くことが広まった。そのため総社は一般に国府の近くに置かれた。

放生：魚や鳥獸を野に放し、殺生を戒める儀式である。仏教の戒律である「殺生戒」を元とし、日本では神仏習合によって神道にも取り入れられた。養老四年の大隅、日向両国の隼人の反乱を契機として、滅された隼人の慰霊と滅罪を欲した八幡神の託宣により宇佐神宮で放生会を行ったのが最初。

六所神社：六柱の神を祭神とすることによる。創建当初から六柱を祭神としていた場合、都合により六つの神社を合祀した場合などがある。

令制国の総社の中には「六所神社（六

所宮）」という社名のものがいくつもある。これはその国の一宮から六宮までの祭神を勧請して総社としたことによるものである。このことから、歴史学者吉田東伍は、「六所」とは「六か所」という意味だけではなく、管内の神社を登録・管理し統括する「録所」の意味でもあるとしている。民俗学者中山太郎は、「録所」は墓地の意味であるという説を唱えている。

国府とのつながりを示す資料

市原八幡五月会馬野軍四村配分帳（応安五年・一三七二）

資料中にある「御目代殿」「駄所目代」「権介殿」「御厨」「調所」「檜物師」「田所」「修理所」「行事所」「土器器」「惣社」などの言葉から、国府官人や工房などの関係者が市原八幡宮（飯香岡八幡宮）の祭祀（五月会）の費用を負担していたことが記されている

る。

市原八幡宮国役庄役注進案（応安八年・一三七五）

市原八幡宮の造営に関する所役分担を記し、市原庄と国衙領が共同で負担して造営がなされていたことが分かる。国府が負担する国役に関しては、一國平均課役として徴収されており、一四世紀後期には、飯香岡八幡宮が国府を通じて、一國レベルで祭祀・造営に費用の負担を課せられるべき神社として位置していたことがわかる。

これら、両資料の前、応安四年（一三七一）の室町幕府管領細川頼之奉書によると、八幡宮の神事が守護代の社無職・社領の横領によって行われなくなり、社領の横領によって行われなくなったことが記されており、社殿の破損もあったようだ。この事態を受けて、室町幕府によって造営が指示されており、応安八年の注進案はこの造

営に関する資料、応安八年の配分帳は退廃した神事の再興に関する資料であることが考えられる。

胎藏界大日如来像懸仏（所在不明）：藤井村の守公神に応永九年（一四〇二）に、上総府中国庁国日代日高弾正朝光によって懸仏が奉納された。この時期に、市原・府中・郡本・藤井周辺に国府の機能が残っていたことを示す。

四―1

やしろからみやへ：一般的に神社の原初形態は必ずしも社殿を伴わず、むしろ年数回の祭りのたびに霊地として神聖視される場所、山や川、泉のほとり、森などに神籠ひしやまや岩座いわくらを設けて神霊を迎える屋代（やしろ）であった。後に仏教の伝来などに影響されて、常在の社殿である御屋（みや）を築くように変化していったとされる。それとともに

に、神々の信仰も祭礼のつど降神させる信仰から、社殿に神が鎮座するといふ信仰に変化していった。

四―2

山上にある山宮または奥宮に対して、村里にある宮を里宮という。参拝の便宜のために後に里宮を設けられた場合と、里宮が先に成立し、のち山上に宮を設けた場合とがある。

御旅所・お仮屋とは、神幸の中継地

および目的地となる場所。神霊は神社の神座から神輿に遷され、氏子区域を巡幸して御旅所で祭祀が営まれる。

四―3

『飯香岡八幡宮由緒本記』には、社殿造営の記事が多くあるが、長祿の絵造営の記事から、内容がきわめて具体的に特徴的になるのが特徴。

五

徳川光圀『甲寅紀行』

市原郡八幡とて社あり、社僧が云く、勧請の年は白鳳二年なり、一説に至徳二年とも云、又は古の社壇類破し、至徳年中に改め作るとも云、神領百五十石なり、御朱印有、別当並に供僧十二坊、祀官十二家あるとなり。

三-1 柳楯神事のながれ

第一日目

- 8:00 市原の柳楯司家で調製が始まる
 2.5メートルぐらいの柳の木の下分3分の2程度の枝葉をとる
 柳の枝の下5分の3程度の皮をはぐ
 皮をむき終わった枝から上質な物25本を選び、それを並べて縄で組む
 縄の最後は「えぼい結び」（米俵を縛る結び方）で結ぶ
 縄は5段になるように組む
 楯の両面にある縄の上を青竹で包み隠す
- 12:00 完成した柳楯を司家の座敷に安置し、米・酒・塩が供えられる

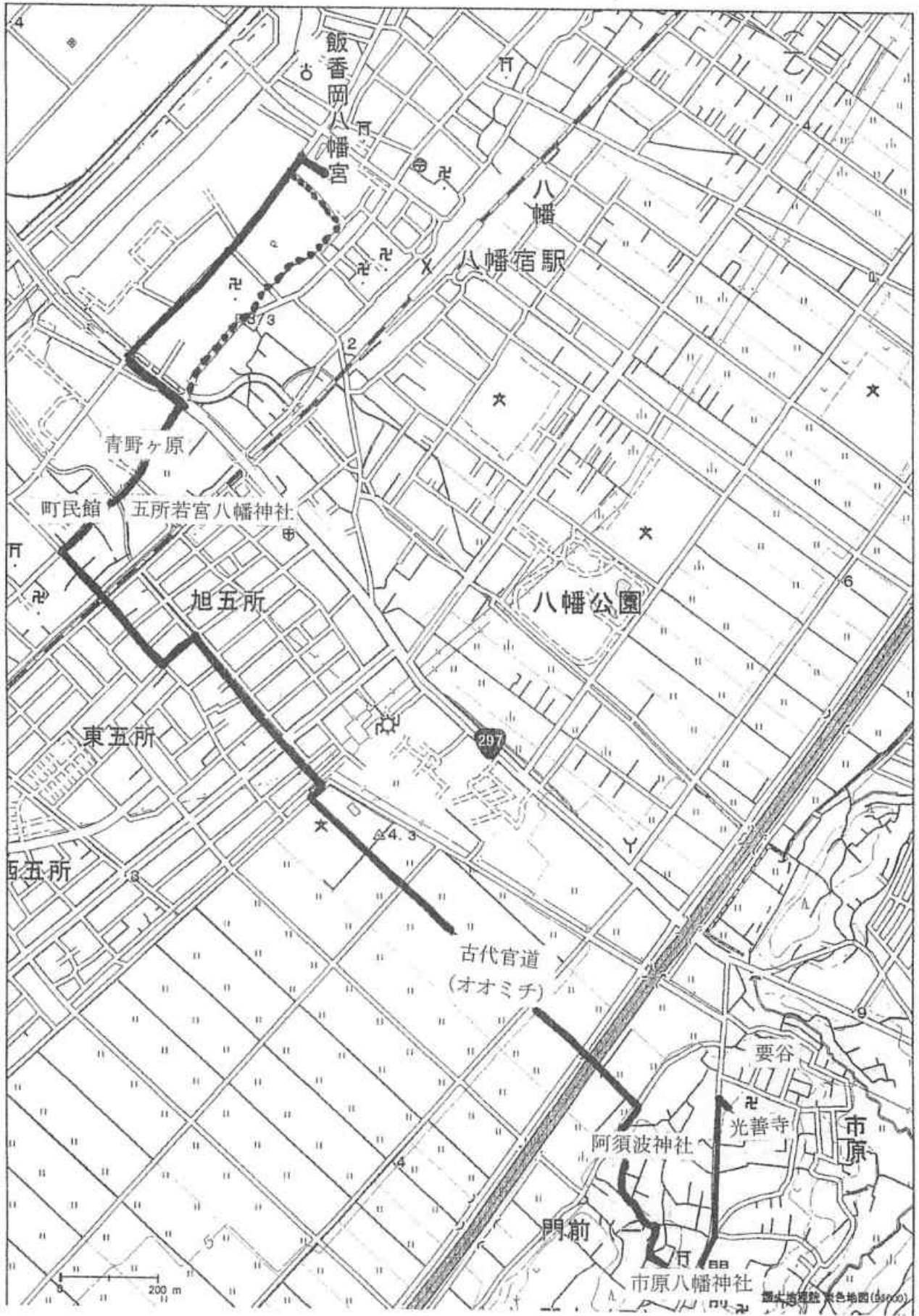
第2日目

- 13:30 司家を出発した柳楯は白丁姿の担夫によって担がれ光善寺へ向かう
 柳楯の前後には袴姿の司家が供奉する
- 14:00 光善寺内の市原町会館に到着し、氏子が集まり出振舞が行われる
- 15:30 柳楯出御。会館から市原八幡神社に向かう
- 15:40 市原八幡宮拝礼
- 15:50 阿須波神社拝礼
- 16:00 古代官道を通り五所へ向かう
- 16:30 五所御三家・氏子総代が旧五所村境（五所小学校正門）で出迎える
 五所御三家・氏子総代・柳楯司家らに警護され、五所町民館に到着する
- 16:40 五所町民館で引渡式が行われ、直会が始まる

第3日目（旧・8月15日）

- 7:30 五所町民館で出振舞が行われる
- 8:15 柳楯出御 花笠軽参・金棒に続き白丁によって担がれた柳楯が続く
- 8:30 五所橋にて一の宮の出迎えを受け、一の宮の先導で八幡宮へ向かう
- 8:40 柳楯が八幡宮に到着する
- 8:50 修祓
- 9:00 例祭・柳楯は一の宮の神輿の前に供えられる
 例祭終了後、5社の神輿とともに全体渡御（神幸祭）
- 9:20 柳楯出御、以降神輿出御
- 12:00 柳楯八幡宮到着
- 12:10 奉幣の儀
 奉幣の儀の後、各神輿は町内渡御。柳楯は本殿内に安置
- 13:00 放生の儀
- 18:10 一の宮宮入 以降順次宮入
- 20:30 還御祭

後日 1月14日 鎮火祭後のお飾り炊きによって、柳楯が炊き上げられる



八幡公民館主催事業
八幡史学「第9シリーズ」第3回資料
平成26年9月30日(火) 午前10時40分
～11時40分

飯香岡八幡宮大祭

一の宮(浜本町)の山車について

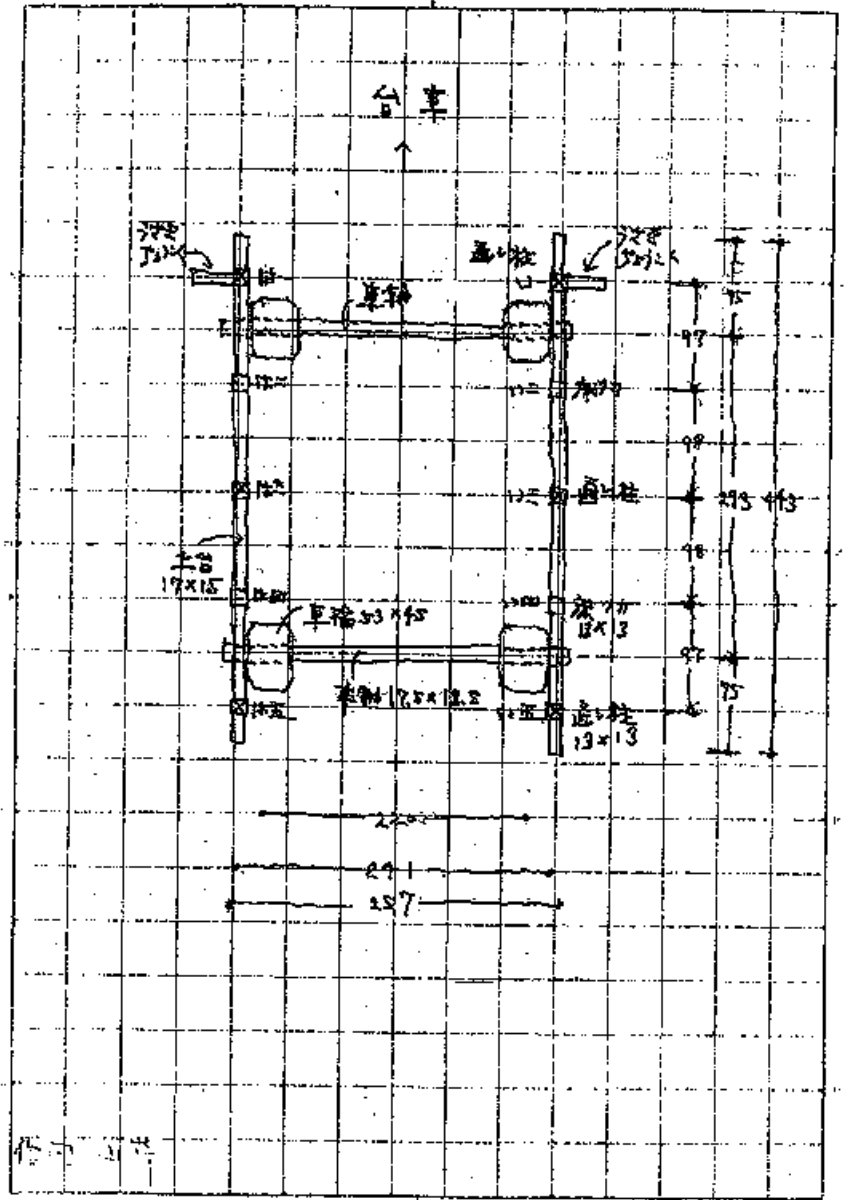
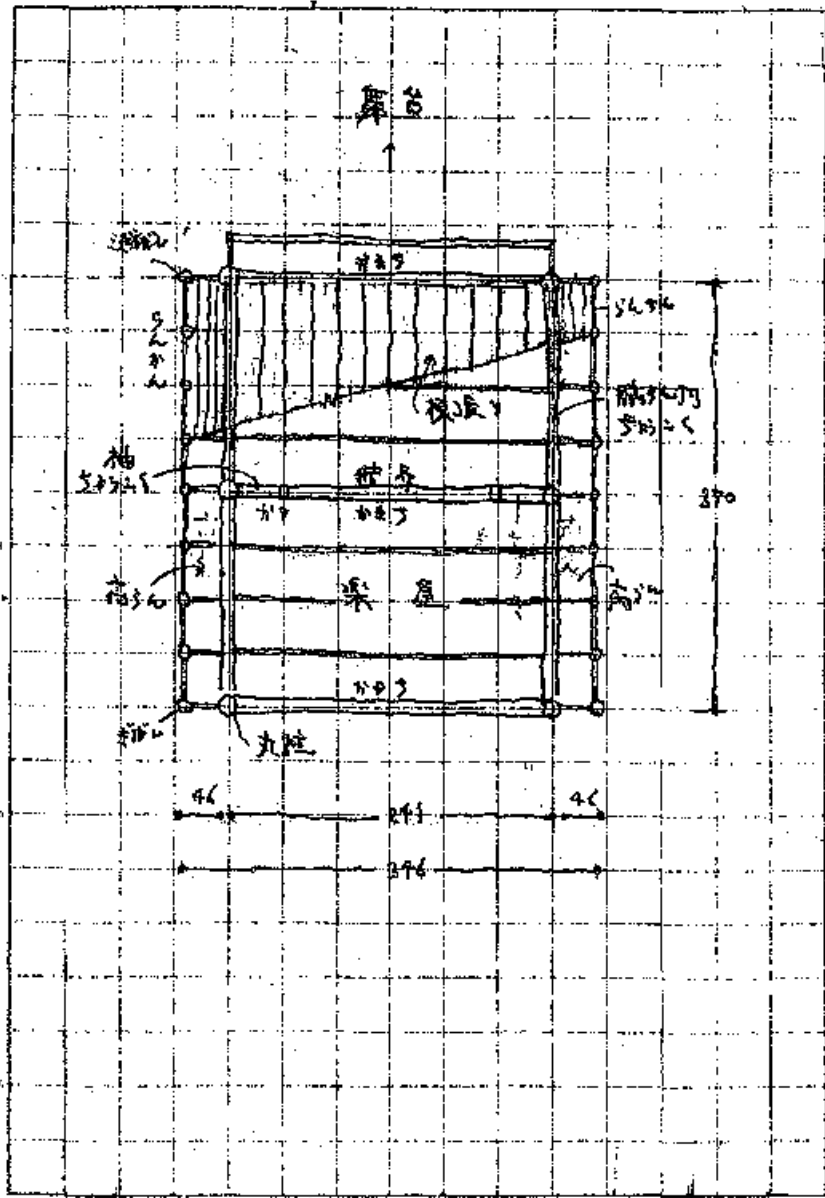


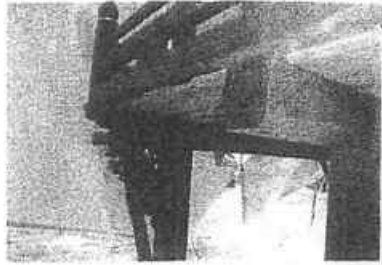
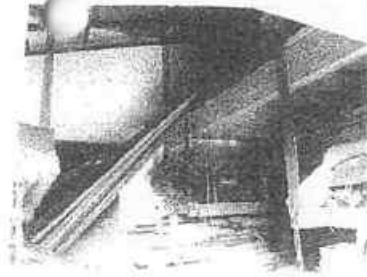
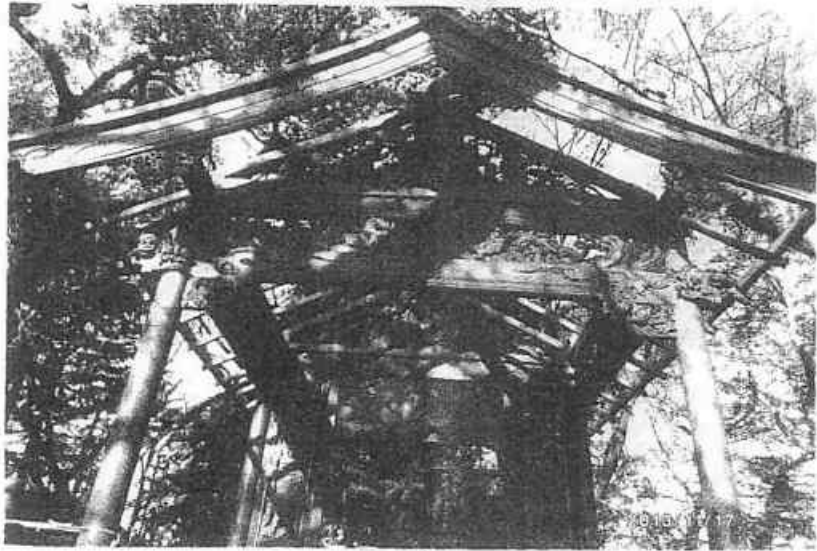
木鼻

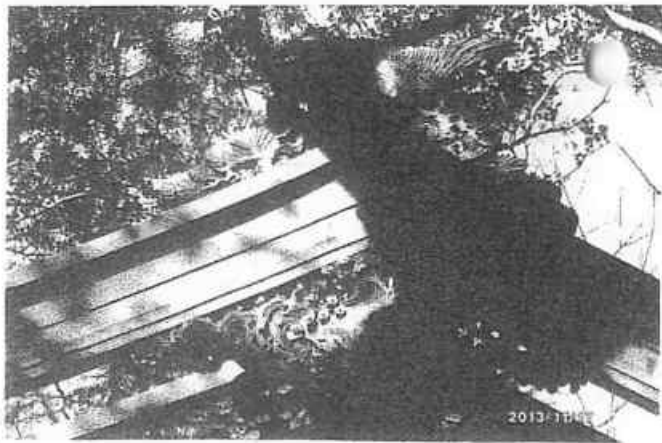
唐獅子と牡丹

講師 八幡史学館会員
佐倉東雄

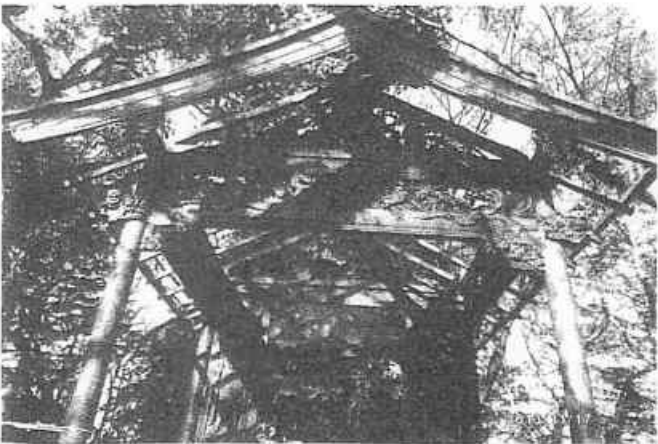




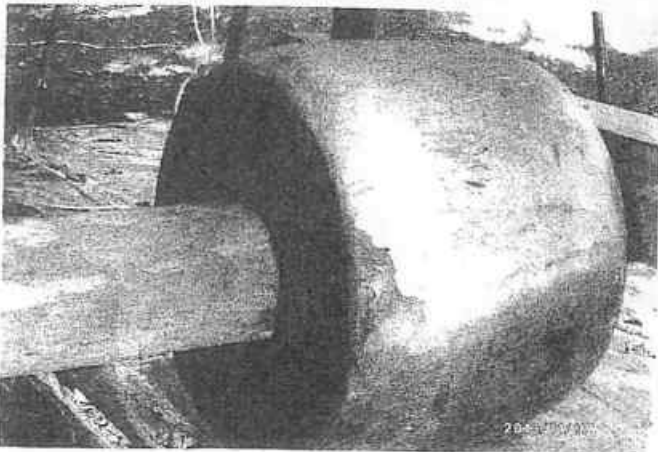




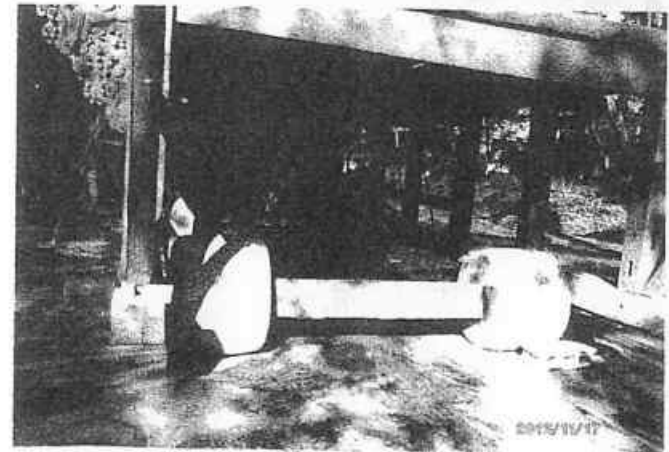
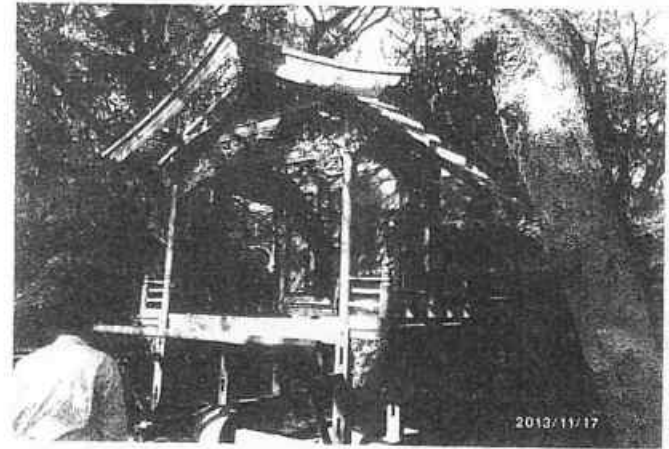
破風飾り
鬼板 鶴と松
懸魚 龍と波
左栴隠し 竹
右栴隠し 松



虹梁 龍と波

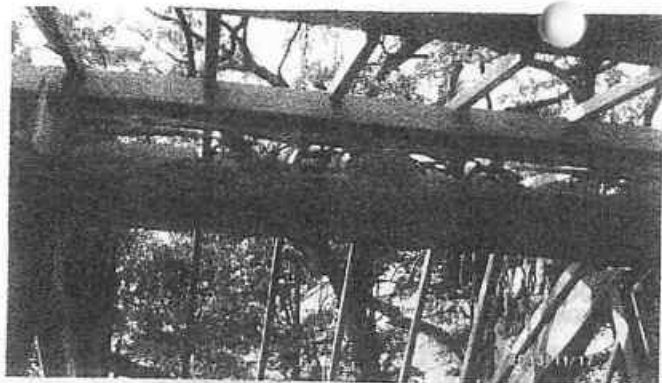


拡大

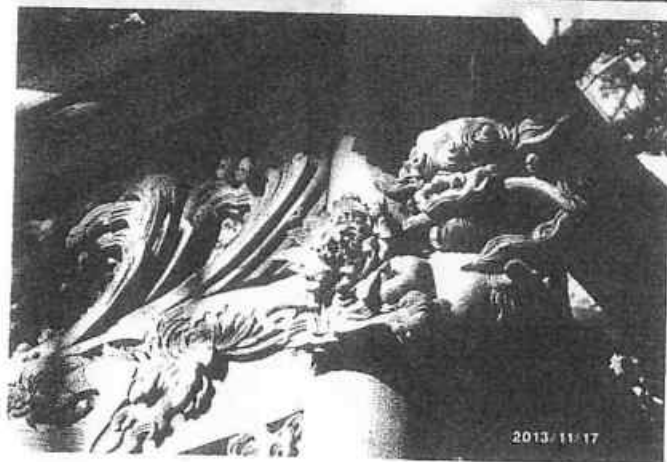


山車全体像 (完全な組み立てではない)

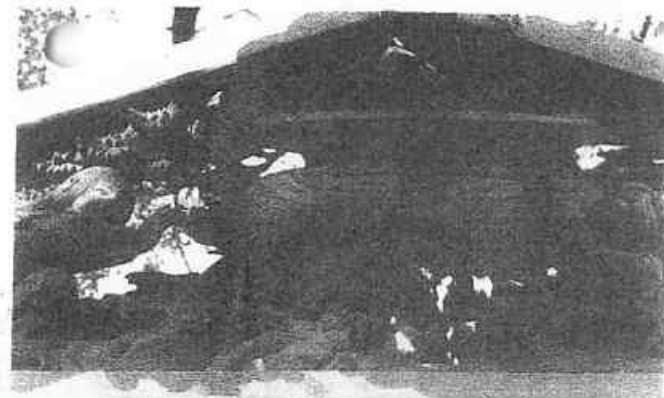
中央結界部
庭欄間
鳥と棠



木鼻
唐獅子と牡丹

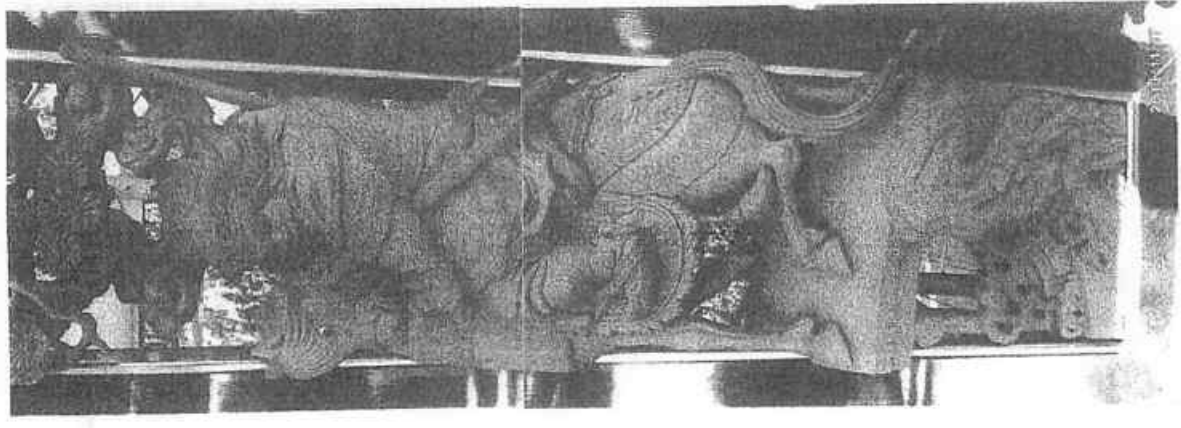


先頭

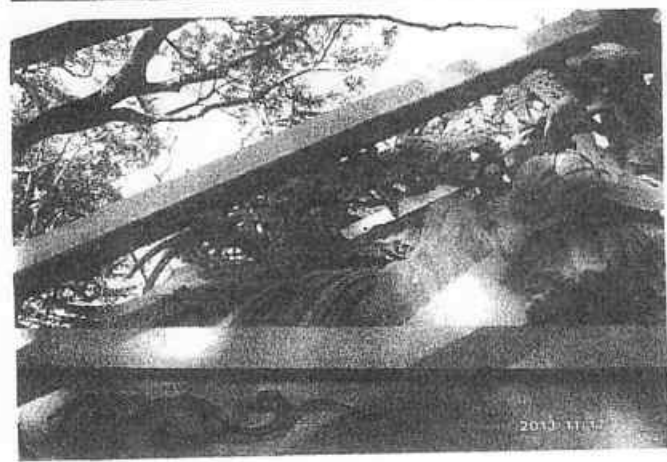
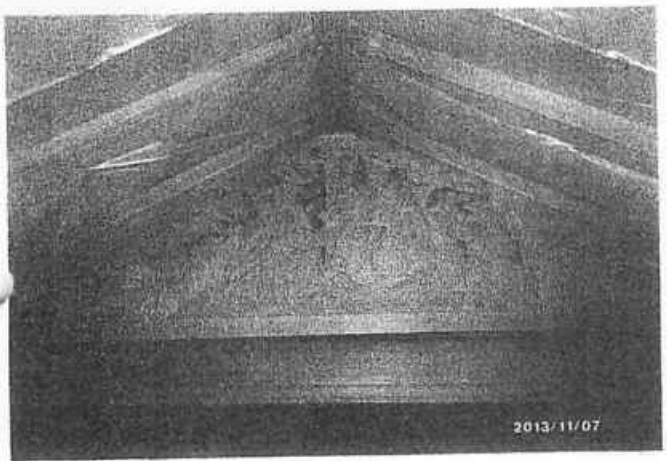
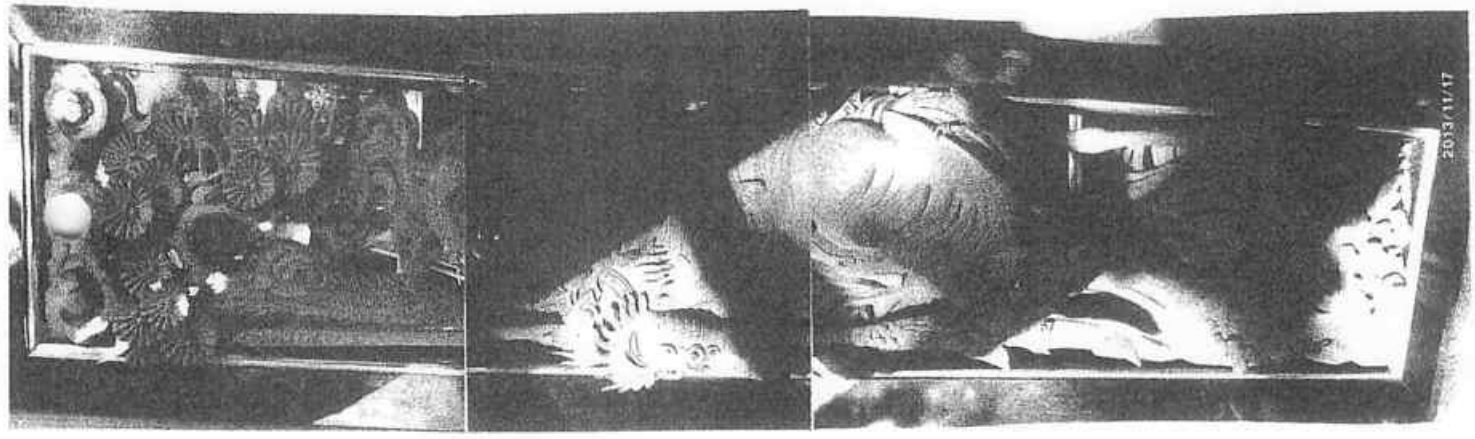


妻飾り「二十四孝」の郭巨
虹梁 龍と波
木鼻 唐獅子と牡丹
鳥と波
虎と波





「三国志」=関羽と張飛



妻飾り

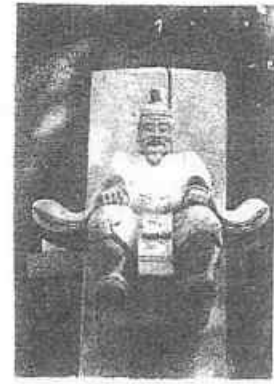
不明(中国の故事から)



隨身像

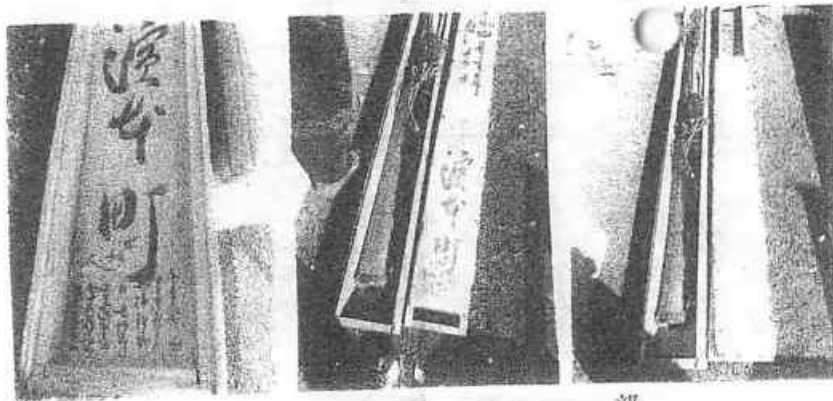


隨身像



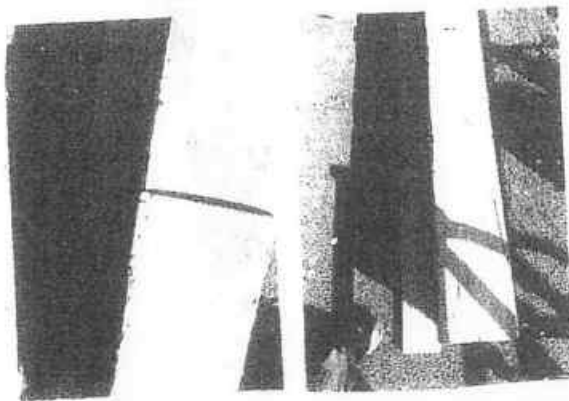
② 隨身像





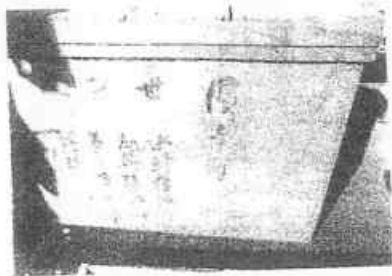
部材収納箱書き

※奉納奉る□□御康入箱
 嘉永四辛亥年八月吉日
 浜本町、世話人
 白鳥寅七
 かざりや庄衛門
 北嶋伊助
 同七治郎
 宮原六郎兵衛
 加藤辰治郎
 角や吉左衛門



部材収納箱書き

※脇欄間二枚
 文久二年閏八月
 浜本町



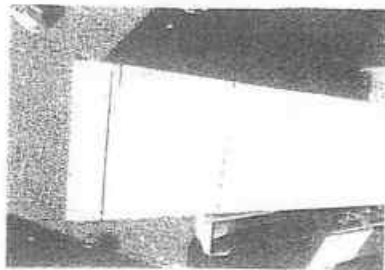
部材収納箱書き

浜本町
 世 永野権治郎
 話 石橋清治郎
 人 木口辰五郎
 伊藤源治郎

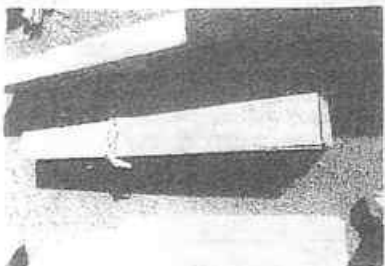
各ヶ所並大



25

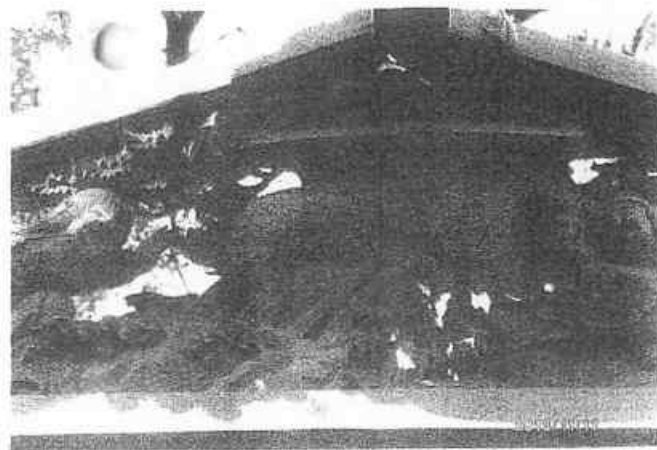


部材収納箱箱書き
 文久二年壬戌八月吉日
 鬼板懸魚持贈入り



部材収納箱箱書き
 文久二年壬戌年、獅子口

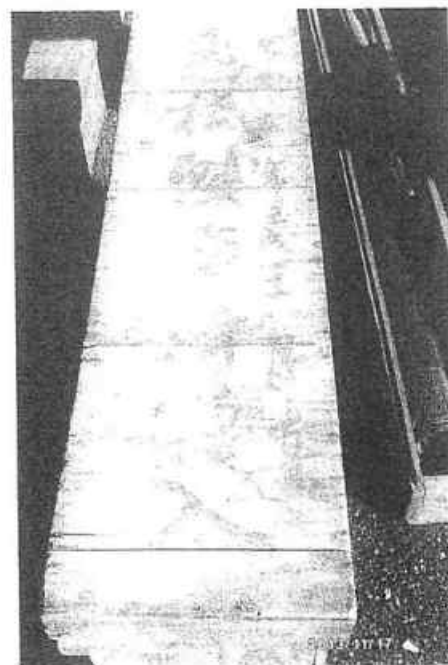
部材収納箱箱書き
 ※表欄間子持ち籠入り
 文久二年壬戌八月
 浜本町「以下判読不能」
 部材収納箱箱書き
 □□御□□入り箱
 浜本町



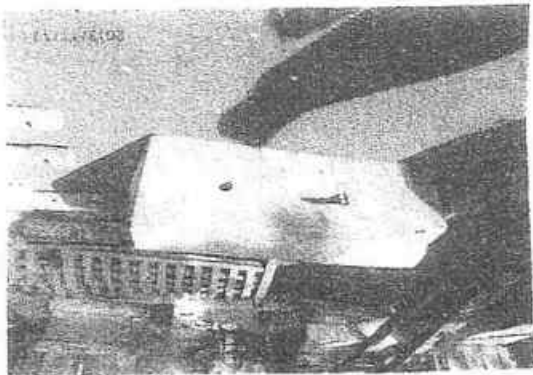
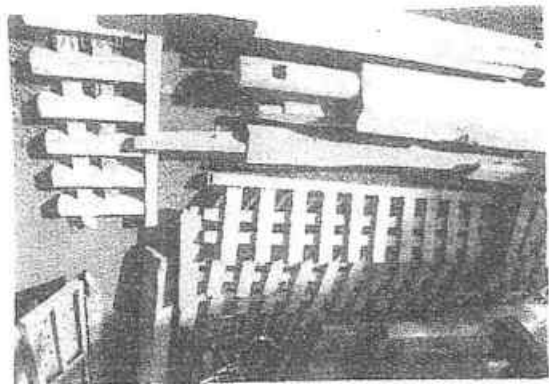
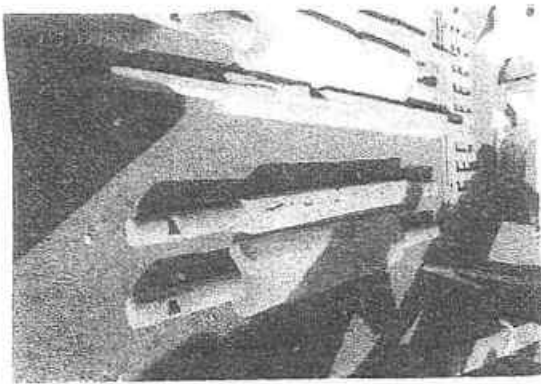
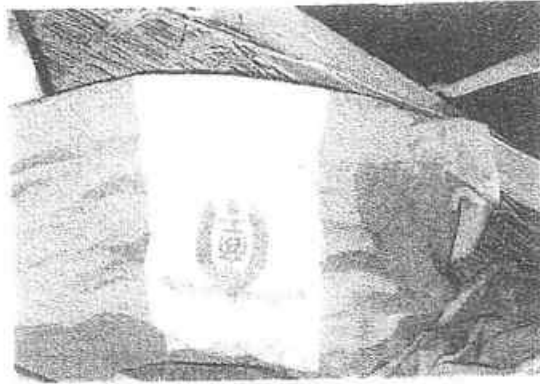
妻飾り 「二十四孝」の郭巨

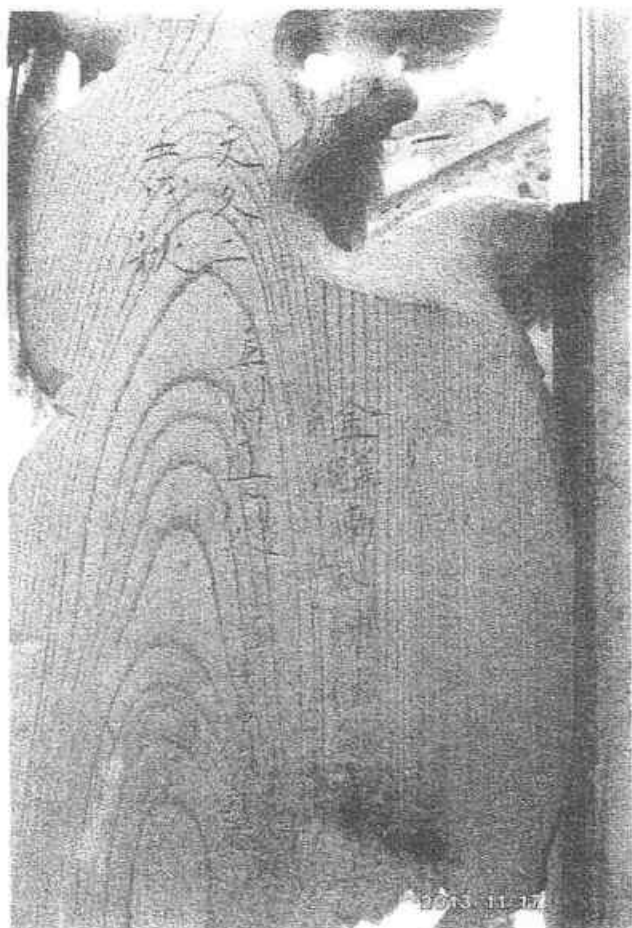
※ 郭巨……二十四孝の一人。後漢の孝子。貧しさから、老母が自分の食を減らし、三歳になる彼の子に与えるのを見て、老母をあわれみその子を土に埋めようとして地を掘ったところ、黄金が五斗も出てその上に、「天、孝子郭巨に賜う」と刻んであったという。

※ 二十四孝=中国で、古今の孝子24人を選定したもの。



部材収納箱箱書き
 文久二年壬戌八月吉日
 鬼板懸魚持贈入り





※右側裏面

金鱗南衣ヶ浦住人

立川内匠門人 鬼子郎俱貢(押)

文久二壬戌秋

(1862年)

※中央結界部袖左側裏面

文久二壬戌年

世話人 大工棟梁

権治郎 勘六

源治郎 忠兵衛

清治郎 三治郎

辰治郎

信州立川内匠正富昌門人

彫刻文四良(郎) 估武(花押)

立川富昌（たてかわとみまさ） 天明2年～安政3年（1872～1856）

彫刻師・宮大工

諏訪郡下桑原村（現・諏訪市）に和四郎富棟の長男として生まれる。父について寺社建築を習い、大隅流、立川流の建築法を身につけた。はじめ和藏富興といい、建築よりも宮彫りを得意とし、ウズラにくりなどの量感豊かか技巧のすぐれた作品をつくり、立川流彫刻に円熟味を加え、その基礎を築いた。

文化7年（1810）に父とともに豊川稻荷社の拜殿を建て、7年後には筑摩郡下の平出矢彦神社本殿をはじめ、文政2年（1819）竜翔寺（飯田市）の六角堂、翌年には観音堂 小堂（下伊那郡豊丘村）、天保13年（1842）矢彦神社神楽殿（塩尻市）、弘化3年（1846）浄林寺鐘堂（松本市）、安政3年（1856）坂北安養寺須弥壇、坂井安養寺須弥壇（東筑摩郡）、永福寺観音堂（塩尻市）などのほか、下総国や京都御所などまで出かけて仕事をした。

父が死んだあとは内匠和四郎富昌と称し、高島藩主因幡守忠肅から名字帯刀を許されている。弟の治右衛門富保も宮大工だったし、弟子も米山為太郎、今井常八、石井佐兵衛、立木音四郎ら多数おり、それぞれ独立して各地で棟梁となり、立川流は繁栄をみた。

立川富棟（たてかわとみむね） 延享1年～文化4年（1744～1807）

宮大工・彫刻師

高島藩出入りの桶屋（おけや）の二男として諏訪郡下桑原村（現・諏訪市）に生まれる。

13歳で江戸に出、幕府用達の宮大工の棟梁立川小兵衛富房の弟子となり、寺社建築を学んで21歳のとき帰郷、大工をはじめたが、ふたたび上京して宮彫りの名工中沢五兵衛について彫刻を学び、明和5年（1768）諏訪郡上諏訪（現・諏訪市）に帰り、中沢屋和四郎と称して建築業をはじめた。

諏訪地方には諏訪大社がある関係で、古くから宮大工がいて勢力を競っていた。当時は平ノ内大隅守の流れをくむといわれる大隅流の伊藤儀左衛門、柴宮長左衛門の兄弟が棟梁として地盤を固めていた。

和四郎は宮大工に加え彫刻もできることから、これらに対抗し、白岩観音院（茅野市塚原）の本堂を手はじめに、栗沢観音堂（茅野市玉川）、さらに諏訪大社下社を建築して名を高め、後世になって立川流とよばれる彫刻付きの基礎を築いた。

長男の和藏富昌も父の技術を継承し、父を助けて諏訪大社上社や幕府直営の秋葉神社（静岡県）、浅間神社、豊川稻荷（愛知県）などを建て、和四郎は工匠として高島藩から帯刀を許され、扶持を受けた。

富棟・富昌父子2代によって基礎ができた立川流は、富昌の長男和四郎富重が30歳で死んだあと、二男の専四郎富種琢斎が3代目を継承し、円熟した富昌の技術をさらに高めた。ひな型の様式手法を継承するのが普通であった時代なので、造形の創造性には乏しいが、切れ味のよい絵画的彫刻に腕を振るい、多くの作品を残した。

四代目は富種の娘松代が継ぎ、さらに義清がこれを継いだ。諏訪中学、東京美術学校彫塑科を出て日展に出品している義清は6代目である。

立川流彫刻を習った宮坂昌敬の子一湖は彫金に転じ、その流れをくむ彫金家が現存する。立川流の建築、彫刻は各地に多い。

『長野県百科事典』より・発行所 信濃毎日新聞社・昭和49年1月20日発行

山車の語源などについて

だし〔山車・花車〕

祭礼のとき、人形や花など種々の飾り物をつけて、引いたりかついだりする屋台。花などを入れた竹かごの編み残しの部分を大きく垂れ下げて出してあったところからの名称。語源説①飾り物に出すところからダシグルマ（出車）の略。語源説②屋外にして神を招き寄せるもので、（出物）の義。

『日本国語大辞典』（小学館）

山鉾（やまぼこ）・山・鉾・檀尻（だんじり）とも。祭礼の際、台上に山水・鳥獣・草木・人物など種々の飾り物を作り練り物としてひく屋台。ダシとは屋台にとりつけられた御幣（ごへい）など神霊のつく依代（よりしろ）をさし、古代の大嘗祭（だいじょうさい）で作られた標山（しめやま）に起源があるといわれている。平安時代に京都の祇園会（ぎおんえ）登場した山車は、中世以降風流（ふうりゅう）の影響を受けて装飾性を増した。室町中期以降、各地の祭礼にも祇園会の影響を受けて山車が登場するようになったといわれ、芸術的価値の高いものも多い。神霊を招く目印であるから大きなことも重要な要素で、石川県七尾市の大地神社の青柏（せいぱく）祭では、歌舞伎人形を飾った高さ15足の扇形の山車がひかれる。

『日本史広辞典』（山川出版社）

（ダシは「出し物」の意で、神の依代として突き出した飾りに由来するという）祭礼の時、種々の飾り物などをして引き出す車。屋台。だんじり・やまぼこ・やまがさ。

『広辞苑』（岩波書店）

※ 依代（よりしろ）……神霊が出現するときの媒体となるもの。神霊の寄りつくもの。正月の年神の依代としての門松などのような特定の枝葉や花・樹木・岩石、あるいは形代（かたしろ）・よりましなど、きわめて種類が多い。

『日本国語大辞典』

（小学館）

八幡地区にみる昔の仕事

八幡史学館 石井 勇

市原市は、古くは上総の要衝として栄え、海・河・緑豊かに恵まれた町であり、古代から居住に適したことは、数多くの貝塚が物語っています。

市原市は、首都圏東京から約50km圏内で千葉県のはぼ中央部に位置し東西22km南北36kmにもおよび、近年ではゴルフ場も多く作られ、横浜市に次ぐ広域都市です。八幡町は温暖な土地で、生活は半農半漁の生活は昭和32年で幕を閉じ京葉コンビナートへと変わった。

八幡五所漁業協同組合の記念碑は、飯香岡八幡宮境内の神楽殿右側に設置されている海苔の養殖は明治35年11月宮吉長五郎氏他9名の発起により、779名により漁業権面積164万坪その生産額は主として年間1億数千万をほこったと記載している。昭和31年総合開発計画が発表され、最初の交渉地が八幡五所地域であった。11月に漁業組合に対し県は八幡沖の埋め立てを提示した。

海を埋め立てるといふ突然の県の方針に当初は全員が反対、海苔や貝に頼る将来の不安と雇用を期待し、漁業放棄し埋め立て工事はすぐに始まった。

漁業 海苔の作業

漁業を通して一年の作業を見てみますと、8月下旬海苔の作付け面積を決めるくじ引きでその年の海苔収穫量が決定した、9月に海苔網はり用のひび立て(竹の棒)を行い、10月網はり種付けの準備を行い海苔の収穫は海苔の成長を確認し11月から4月頃まで続く、収穫は満潮か中潮の時期に海苔網に付いた海苔を手で収穫する。自宅に持ち帰り海苔専用の包丁で叩いて切った海苔専用の桶に入れ水と切った海苔を攪拌後に海苔すき升にすくい均等に杓に流し込み、一枚の海苔となり水切り後に、干し杓の大阪干か、台簀干に横に並べてめぐして刺して乾燥させ剥がし板で剥がし海苔が完成する。昭和25年頃から海苔切り機が普及すると作業も格段と早くなってきた。

当時海苔の収穫は作付け面積は1作に2枚から3枚張ることにより年間の収穫が大きく変わった、他に岸に流れ着く海苔を拾い海苔といった。

海苔棒にフジツボが付着すると収穫に影響したり怪我の原因でもあった、翌年5月に浦掃除といって折れた海苔棒を全員で抜きとる作業を夏に向けて行った。

夏の作業は海苔網・海苔す編み

毎年海苔簀を補うために6月に葦を刈り取り乾燥し子供が編むのが仕事であった、男人は海苔網の廃分をみこんで海苔編を作ったり補修をしていた、当時は棕櫚繩(しゆ)を使用していた、一反25m余りであった。その後ナイロン糸が普及してきた頃には海苔養殖は終りになっていった。

農作業

3月から4月下旬まで田お越し、海苔の収穫に合わせて農作業を平行して行い。畔作り、代掻きと田植えは6月までつづいた、その間夏野菜の種まき、麦狩りを行っていた。

大豆の作付け面積を増やすために畝に大豆を植えつけた。夏場に収穫し枝豆とし残りは味噌を作った農作業は手作業から耕運機、トラクターに秋の稲刈りは手作業から機械刈りのバインダーに、おだ掛け乾燥から脱穀にハーベスター(移動式脱穀機)に変わりコンバインが出現により作業も刈り取りから脱穀機までスピードアップした。自宅に運び入れ乾燥から刷り計量までが自動化された。

秋に種まきタマネギは10月頃から11月頃植え付、麦は秋に種まきし新芽がのびた所を麦踏みして、新芽の浮き上がりを防ぐ作業があった。ネギの種蒔きは3月中旬から5月まで行った。

ジャガイモの植え付けは3月中旬まで、さといもの種芋植え付は2月中旬までに籾がら床に植え付、葉7から8枚でた所切り、4月中旬から5月までに植え付けた、里芋・ナス、キュウリ、トマト・南瓜・スイカ・瓜・トウモロコシ・キビ・大豆、小豆等でキャベツ等は自給出来る物はすべて作付けした。

潮干狩り

漁業組合から浅網取りの漁業権を購入し木札を所持し貝を取り生活の費用にした。潮干狩り客は東京・近隣の町から大勢バスで訪れ八幡の海は潮干狩り客と賛立て遊びも盛んに行われ取れた魚・貝は調理してくれ残った魚等は持ちかえり1日楽しんでいた。当日券を購入した人は貝を網で計量し自宅に持ちかえった。地元の人には自宅に持ち帰り、その都度刺連・ザラ干に加工して冬の保存とした。

又、浦安から買付けにきており取ったその場で現金にしまった。

貝は篩にかけて大・小に選別し量るのは一斗升が基準であり1杯で1枚を漁業組合で買取り養殖場に放流と潮干狩り客用に海全体に蒔いていた後日、現金に払い戻され、蛤は一升研で量り現金取引であった。浅網は当時海苔舟1艘は取れ、ジョレンという鉄の籠で取りその他は熊手であった。

浅網取りのこつ、あさりの目を見つけて掘る、貝類は吸水管と排水管があり2つ穴がある場所を目印にしみつからない場合は足で柔らかい場所を探がし当てる、1箇所につき約30個程が採取できた、潮が引く時間を待たずに取る場合は足でさがす。

バカ貝(青柳)潮吹き貝は自宅に持ち帰り湯がき佃煮・刺連・ザラ干・加工品にし又、食事のおり食べた。赤貝・ニシカンボは地元の人には匂いが強いのと加工に手間がかかり食べなかった。

(湯がき醤油で佃煮にしていた。)

貝の収穫は、親指程の穴を見つけたらスコップで平らにし塩を穴に蒔くと自然に出てくるのを素早く引き抜く。味噌汁の具か煮つけにした。

シャコの収穫は、大きめの穴を見つけ筆を穴に差し込むとシャコが敵と間違い挟ん押し上げてくるのを素早く引き抜く。味噌汁の具か大量の場合は近所に配ったりおやつで食べた。

石ガニとワタリガニの捕獲は干潟の塩水が溜まっている場所を足で探し、足袋を履いて怪我しないように上から押さえるようにした、井戸の石垣の回りを探し捕獲し自宅で味噌汁の具にした。

浅網の砂だしは採取した海水に浅網がひたる程度にし、砂だしの容器を暗くし1時間位置く。

余暇を楽しむ カンテラで魚を捕獲

秋の大潮の時期を見て、カンテラの光で魚を捕獲した、魚はハゼ・カレイ・車エビ・ワタリガニ、イシガニ等をやすで突き刺して捕獲した、車エビは跳ねるので専用のパッチンと言う道具で上から挟み込み捕獲又、中潮の時にはワタリガニ(ガザミ)を取りに夜船を出し海面に泳いでいるワタリガニを網ですくい取り朝食又は昼食の食材やおやつにして食した。

子供の遊び

☆ ナゴを取りは秋の稲刈りの時期に袋は手拭いを両端を縫い口に竹を10cm位に切り紐で結び捕獲したイナゴを生物か湯に入れ湯がき加工すると高く買い取ってくれた。

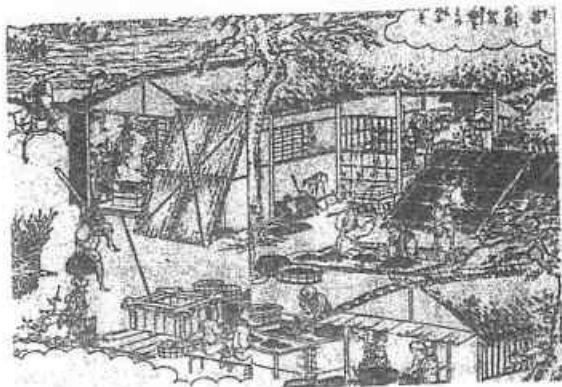
ウナギ稚魚を大人は編みですくいとっていたが私は効率よくするために干潮時ゴカイを掘り針でゴカイを2本から3本を通し10本位の束を造り竹の先に取り付けて岸壁からたらし寄ってきたウナギの稚魚を玉編みですくい捕獲し売りにいった。ウナギ稚魚(カイヨン)は10cm位であった。

☆ くも合戦(ネコハエトリグモ)

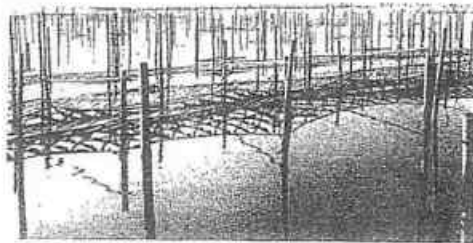
金グモ飼育箱に4~5匹をハエを捕まえて与えるか、マッチ棒の先で唾を与えた、人それぞれ秘策があった。飼育箱は自分で作るのが原則で箱の出来ばえも競いあった、出来ない人はマッチ箱を使用した。金グモの時期は飼育箱に4~5匹持ち歩いて30cm位の棒の上やマッチ箱の上で戦わせ逃げた方が負けで、負けた金グモはその場で逃がした。

富津市くも合戦(ネコハエトリグモ)

富津市八坂神社で現在捕獲し飼育した戦わせている、富津市では、40センチ四方の台の上でオスグモ2匹を戦わせる、前脚をひろげて相手を威嚇し合い相撲のように組み合うて戦わせ台が逃げた方が負け。



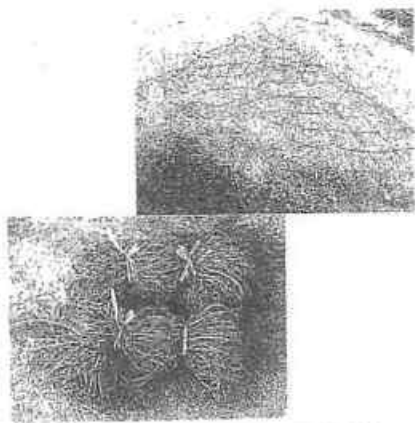
海苔を採っているところ ③



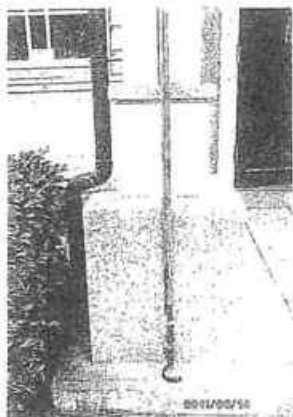
のり籠の風景 ②



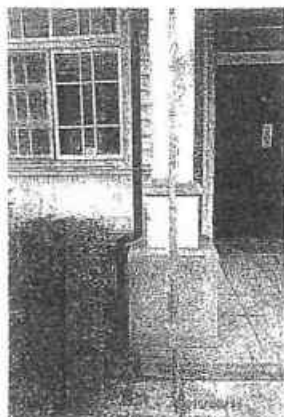
舟に架がれた海苔採り舟



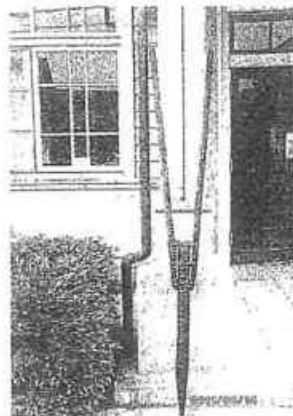
海苔網 (化学繊維)



せーぼとし (フラツボ落とし)



竹ひび (湯げが付いている)



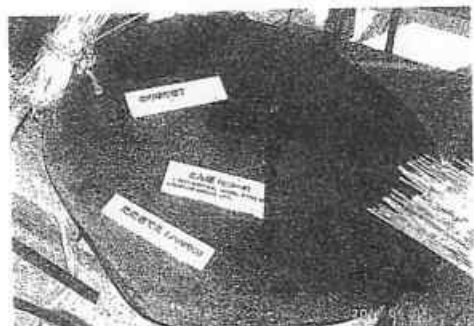
振り棒 ①



糟を押し込んでいるところ ①



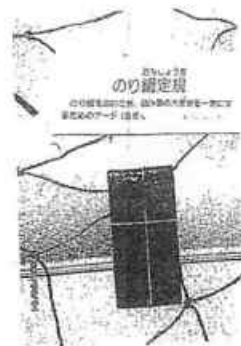
海苔質



海苔の叩き台 (まな板・包丁・とんぼ (包丁)) ④

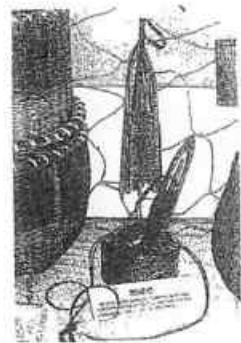


拾い海苔に行くところ



海苔網定規

3

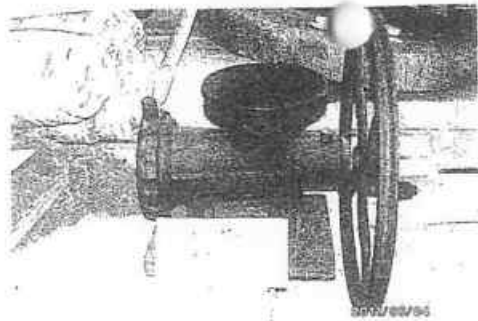


あばり (海苔網を編む道具)

33



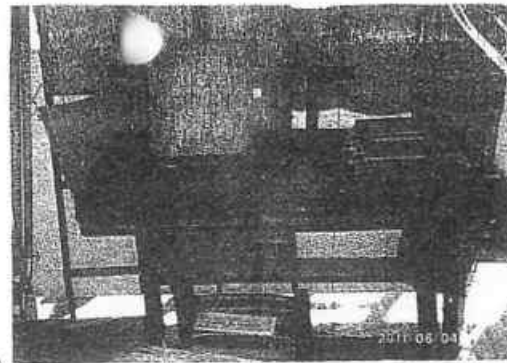
油取り



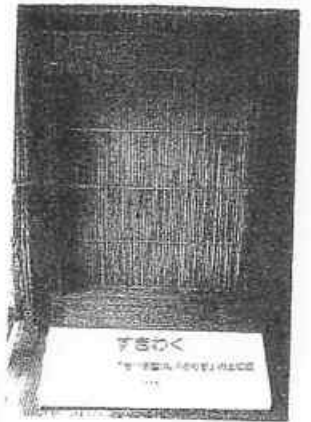
海苔切り機 ⑤



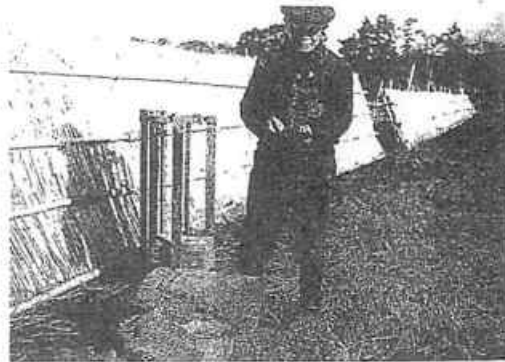
箱（葉を整理して入れておくもの）



海苔を置く台



海苔の置き枠 ⑦



海苔の葉を片づけているところ

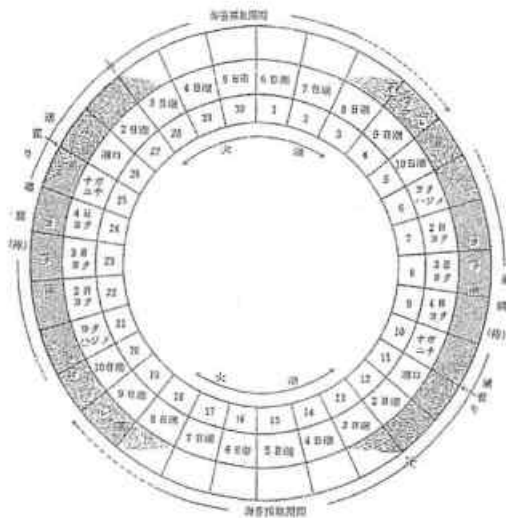


図5 1ヶ月間の採取と葉の調湿（真昼時中）本原市産物所より

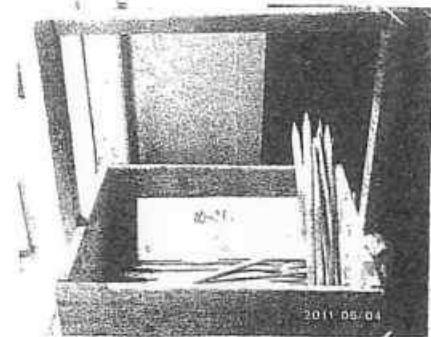
海苔の採取期間



海苔を置く箱 ⑦



台置干しをしているところ ⑨



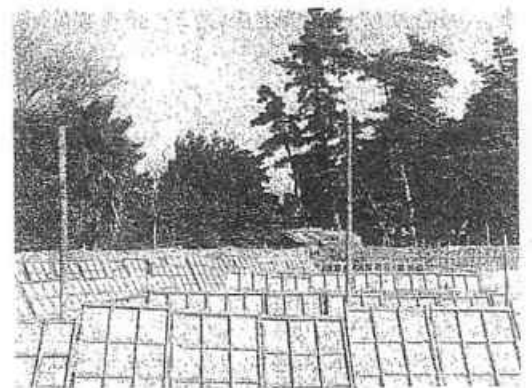
めくしとめくし箱



海苔を葉から割がす板



干し上がった海苔を葉から割がしているところ

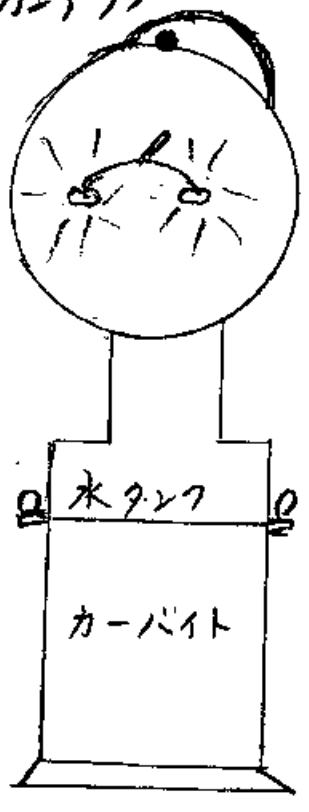


大板干し（障子干し・棒干し）

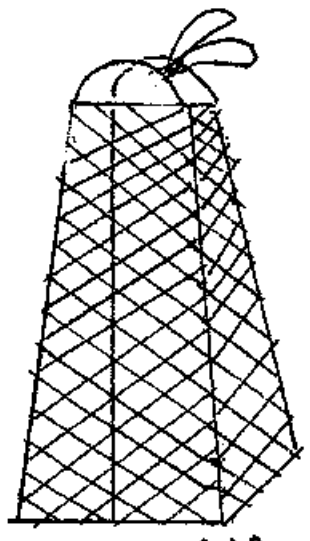
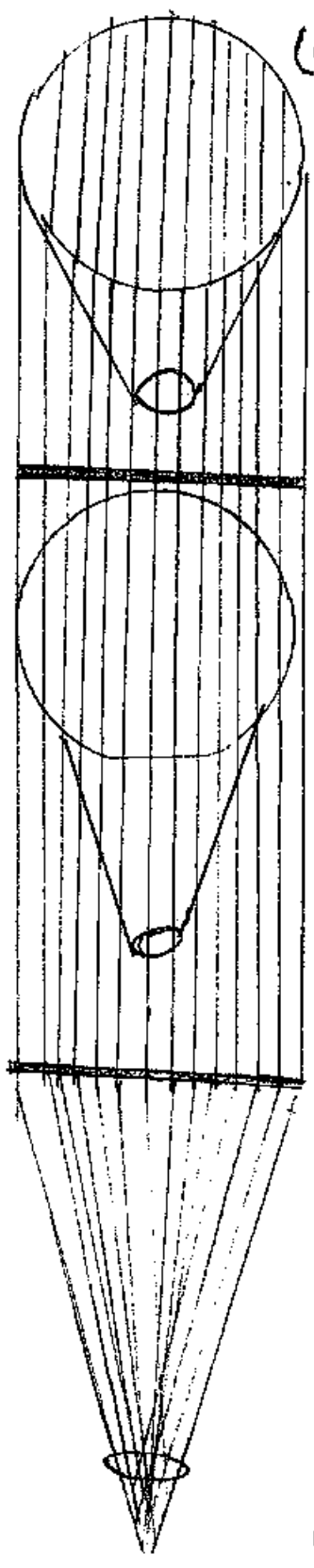
⑧

4

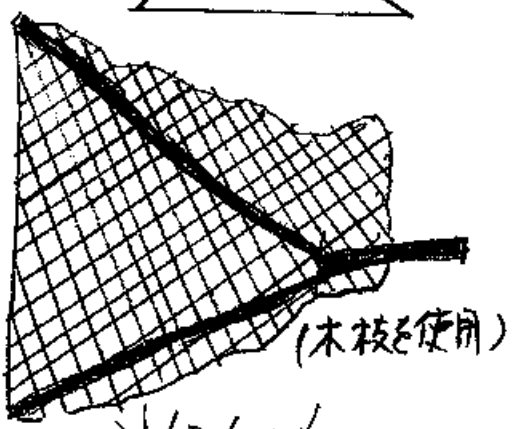
(カマテラ)



(ど) 雑魚



(パツチン)



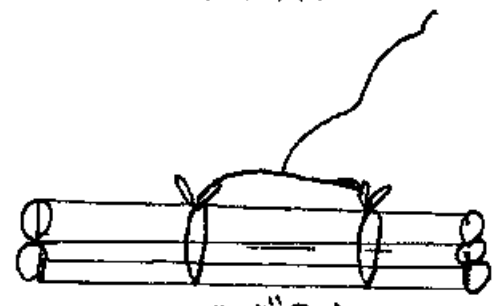
(木枝を使用)

(やす)

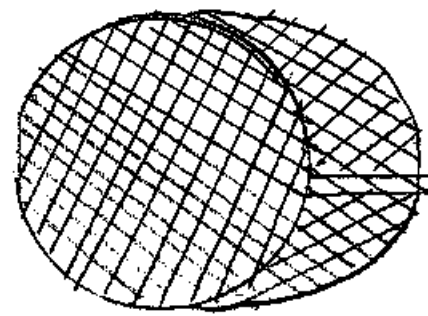


(柴付魚)

(竹、木枝を使用)



(ろなき用)



(玉系用)

山菜 料理

山菜

春の七草 スズナ・スズシロ・セリ・ナズナ・ホトケノザ・オギョウ・ハコベ

☆ ゼンマイ
ゼンマイ科
収穫4月か
収穫3月下旬から5月
おしたし・煮物・油いため

☆ 山ふき
山ふき科
☆ ヤマフキ科
☆ 秋田ふき
☆ 愛知ふき (改良品種)
☆ ラワンふき (北海道)
収穫3月から6月 各種料理にむく。

☆ コゴミ
コゴミ科
収穫4月から5月
おしたし・煮物・油いため

☆ ツクシ・スギナ
ツクシ科
収穫2月から4月
あえ物・天ぷら・
揚げゆでて油いため

☆ ヨモギ
ヨモギ科
収穫3月から4月
ヨモギだんご・油いため
酢味噌和え

☆ ウコギ
ウコギ科
ウコギ科
ウコギ科
粗漉し
収穫3月下旬から5月
酢の物・きんぴら・こまあえ
おしたし・てんぷら

☆ タラノメ
タラノメ科
収穫3月から5月
酢みそ和え・ふと豆腐の
味噌煮・味噌で食す

☆ カンゾウ
カンゾウ科
カンゾウ科
(ワズレ科)
収穫2月から4月
酢の物・天ぷら・あえ物

☆ ノビル
ノビル科
収穫3月から5月
葉・強壮・疲労回復
(ホワイトリカーで漬込み
ウコギ酒にする。)
おしたし・てんぷら・
生で食べる

☆ イタドリ
イタドリ科
(スズナ・コショウ)
収穫4月から5月
天ぷら・甘酢・サラダ

☆ サンショウ
サンショウ科
山サンショウ
朝倉サンショウ
ブドウサンショウ
収穫4月から5月
実は乾燥して粉にし使用
ウナギに使用
若葉は佃煮

☆ オオバコ (加バコ・オバコ・アバコ)
オオバコ科
収穫4月から10月
おしたし・あえ物

☆ ギンギシ (イヌバコ・ウズバコ)
ギンギシ科
スイバ
収穫4月から6月
各種あえ物・酢の物

☆ セリ
セリ科
セリ科
セリ科
収穫4月から5月
セリは毒の物があるので
自然のものは調べてから食
べること。

☆ タンポポ
タンポポ科
(クサ・ツツミ科)
収穫3月から6月
おしたし・あえ物・佃煮
サラダ・天ぷら・根はキンピラ
乾燥させ煎ってコーヒーの代用に。

☆ ミズ
ミズ科
収穫4月から6月
各種あえ物・酢の物・煮物

☆ ミヨウガ
ミヨウガ科
収穫3月から6月 茎
収穫7月から10月 花
酢の物・刺身の付け合わせ

海辺 ☆ ハマボウフ
ハマボウフ科
収穫2月から4月
酢味噌あえ・おしたし・酢の物
刺し身のつま

☆ ネマガリタケ
ネマガリタケ科
収穫4月から6月
各種あえ物・酢の物・煮物
焼いて食す

☆ ウド
ウド科
山ウド
赤ウド (改良品種)
収穫3月から5月
酢の物・あえ物・煮物・佃煮
酢の物は水にさらす。
あえ物は茹でる。

海辺 ☆ オカヒジキ
オカヒジキ科
収穫4月から6月
酢味噌あえ・おしたし・酢の物

☆ ツユクサ
ツユクサ科
収穫5月から10月
サラダ・天ぷら
あえ物・酢の物
すき焼きの青味として

市原の表玄関・八幡湊と五大力船

～市川本店文書を中心に②～

平成26—10—28 山岸弘明

変え注意

次回（最終回）のスケジュール

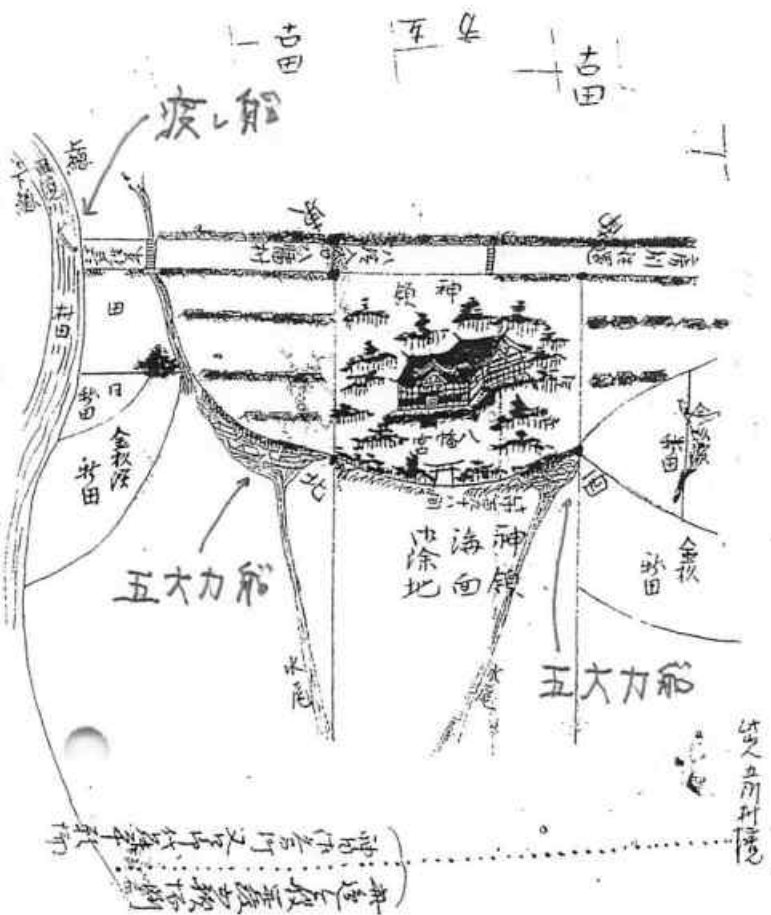
第5回（11月4日9時30分～15時00分）

- ① 9時30分～10時15分 八幡地区巡研のみどころ
- ② 10時30分～12時00分 八幡南部地区巡研
- ③ 12時00分～13時00分 昼食休憩（公民館調理室、近くの食堂利用も可）
- ④ 13時00分～15時00分 浜本町（はもと）地区巡研

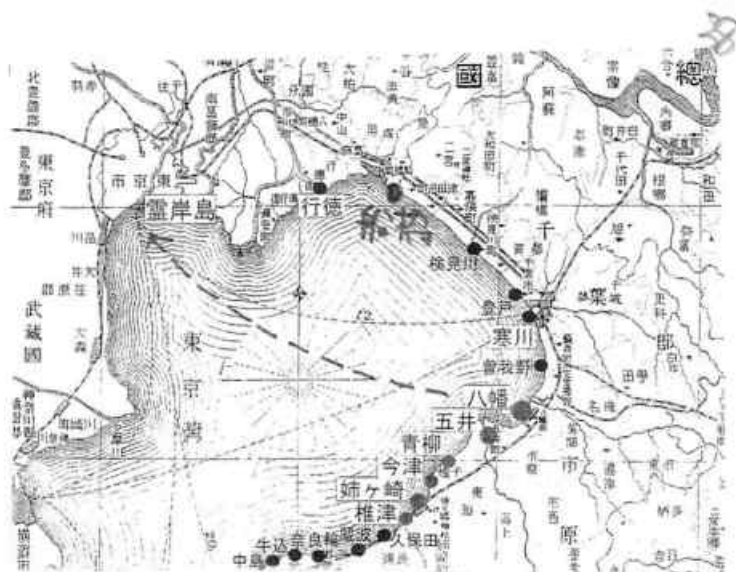
*コース図参照＝一部を変更することがあります

*雨天の場合、巡研を縮小または中止することがあります

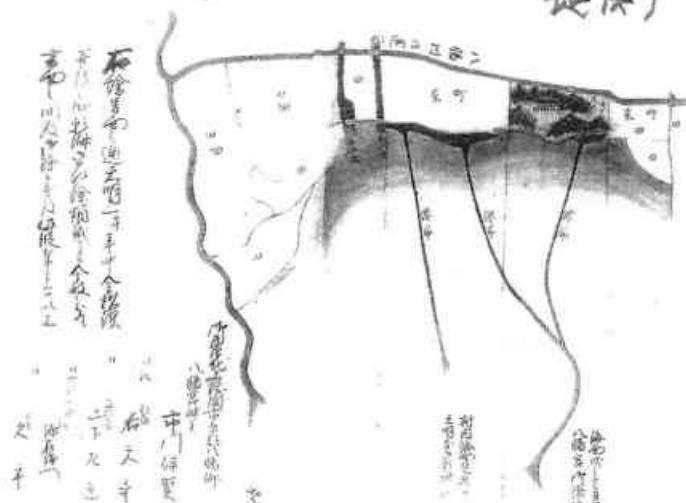




慶長元年八幡村略図



八幡宮と五大力船の略図 (宮本敏一氏 複製)



慶長2年みちの図



八幡村五大力船 船心3、大総導 銀香岡八幡宮所飛

八幡史学館郷土史スポット

1) 『市原の古文書研究*第6集』=市原の古文書研究会

- ①第1刷=10月1日発行、限定50部完売。第2刷=12月発行予定
- ②収載文書=八幡・市川本店文書、菊間・岡田家文書、五所・今井家文書、八幡・寺嶋家文書、飯香岡八幡宮文書、市原市教育センター文書
- *メンバー=秋葉平、赤城藤吉郎、今井公子、上田洋子、佐野彪、高澤恒子、代表・山岸弘明
- ③注目資料=
 - *江戸中後期八幡村、金杉浜新田、加茂村基本文書=天明7年八幡村村鑑明細帳、天保9年ほか差し出し書き上げ帳、加茂村明細帳、旗本松本兵庫頭地行所水帳、水野国之助、永井兼之助、佐野藤三郎各知行所八幡村年貢皆済目録、旗本南条太兵知行所定免割付、飯香岡八幡宮社領反別割付、金浜新田宗門人別帳、旗本村上三右衛門知行所高入り覚え、文化2年ほか先納金下知書、文久3年京都出張軍用金取り立て
 - *菊間藩、菊間県、木更津県関係資料=明治3年五井村年貢割付、同元年~4年八幡宿年貢割付・皆済目録、同4年元社寺上地分年貢皆済目録、同5年木更津県租税割賦、皆済帳、同3年藩庁触れ書
 - *菊間旧藩士・岡田家代々系図ならびに公私留、水野家系図、水野邸、初代千葉県庁舎古写真
 - *光善寺薬師如来縁起、寛文5年幕府諸社禰宜、神主法度、八幡浦塩浜開発留記
- ④飯香岡八幡宮御伝記後記、宝暦12年後留記に八幡浦図=五大力船母港示す(後出)
- ⑤シティライフ(10月4日号)、読売新聞千葉支局取材

2) 八幡公民館ミニ写真展『旧菊間藩士宅所蔵写真展』と旧菊間藩士豊田尚一

- ①菊間・岡田徹也家所蔵写真=菊間藩士岡田程八嫡男・寅三郎明治時代の古写真
旧藩士会、菊間村役場、菊間小学校、旧菊間藩士、岡田家家族写真など
- ②ガラス板写真=ポジ写真。ガラス板のまま額にする。背景は窓紙で見えなくなる。現像、定着が1回で済むので安価。明治19年後出豊田写真館値段10銭
- *湿式紙焼き写真=ネガを作り反転。明治19年豊田写真館値段3枚組30銭
「明治8年3月、12月千葉町においてこれを写す」=千葉の写真師・豊田尚一撮影
- ③千葉県で最初の写真館を開いた豊田尚一
- *弘化元年(1844)沼津藩士・豊田儀七長男として誕生、父は五泉陣屋勤務だが尚一の出生地は不詳。『水野藩寄留者明細短冊』は儀七を欠落、岡田寅三郎らが纏めた『旧菊間藩人名録』は明治6年「山木150、家禄20石、豊田儀七」、明治40年9月「千葉町市場町、写真師、豊田志け(尚一長女)」とする。



市原の古文書研究第6集

「昭ロビ-? 菊間藩士宅 古写真ミニ展」



豊田尚一横歩のガラス写真

* 尚一は廃藩置県後、横浜で写真を修業。明治7年千葉県誕生のころ県庁舎近くに豊田写真館を開業した。岡田家に明治8年尚一が撮影した湿式写真や明治中期のガラス板写真が現存するなど、旧藩士たちが尚一を積極的に支援したものと見られる。明治20年県内景勝地を撮影、第1回勸業博覧会に出品、同24年房総旅行で千葉を通った正岡子規が菅笠を手に記念写真を撮影したときのガラス写真が松山市立子規記念博物館に所蔵されている。尚一は明治32年逝去、55歳であった。

* 主要参考資料=千葉県で最初の「豊田写真館」の歩み (江波戸昌美=2012)

3) 菊間北野町講内「うのと祭り」かけ軸など調査

- ① 菊間の北野地区に「うのと祭り」として伝わった行事が廃止されたことにもなうかけ軸、什物、伝承などの調査。
- ② 若宮八幡宮、仁徳天皇御歌掛け軸 (卯の日祭り=八幡神の誕生日を祝う八幡宮の式日)
- * 二十三夜月待ち神掛け軸 (二十三夜講=二十三夜の月の出を待つ信仰)
- 富士講五行御身抜き掛け軸 (富士講=富士山を信仰する仲間の講社)
- 庚申三猿図掛け軸、小御岳石尊大権現掛け軸 (//)
- * 五行御身抜きは江戸後期、千葉県における富士講の代表的先達晃行照仲書
- ③ 貴重な信仰史料として市中央図書館資料室など、公的機関での保存を呼びかけている。

4) 旧草刈村名主・中村家の文書調査

- ① 元草刈村名主の旧家。酒造、商家。草刈村は享保11年から天保11年まで有馬藩領で、うち天明元年までが伊勢西条藩、天明元年に陣屋地を五井に移し五井藩を称した。以降、幕府直轄領、姉崎・鶴牧水野藩領をへて明治元年に菊間藩領、廃藩置県後は菊間県、木更津県、千葉県に編入された。
- ② 目玉史料は畳一枚強の「草刈村絵図」、旧中村家屋敷図など。
- ③ 総数およそ100点。現在調査、解説作業中
- 主要古文書類=寛文10年草刈村御縄打水帳 (幕府検地帳=全5刷)、享保12年、15年、18年草刈村改め出し検地帳 (五井藩検地帳)、享保19年有馬五井藩廻状留、安政3年鶴牧藩条目、安政3年ほか宗門人別帳、慶応3年関東取締出役仰せ渡され候書付、明治2年10か年正取り米石数書き上げ帳、同3年潤井戸村→村田村通船開設願、同年村議定書、同年菊間御役所取り米永ならびに延べ口書上げ帳、堰関係資料など



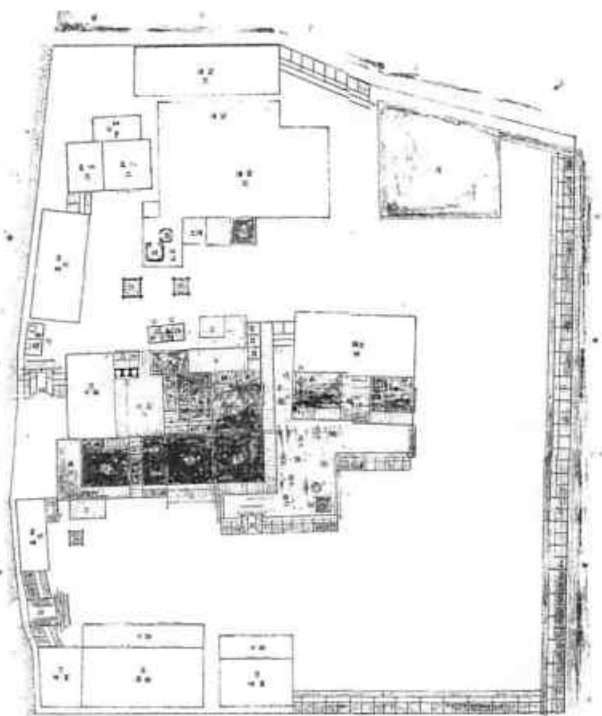
是行子五行御身抜き



うのと祭りアガケ軸など



村絵図↑と中村家屋敷図



房総と江戸・東京を結んだ五大力船

1) 市原郡最大の貿易都市・八幡湊と五大力船

①江戸時代から明治時代にかけて、市原には八幡、五井、姉が崎、青柳、今津、椎津の6か所に港が開かれていた。内陸部から運ばれた年貢米や薪炭、材木を五大力船で江戸に運び、帰り船で衣類、雑貨、酒、醤油などの生活物資と「江戸文化」を持ち帰った。文字どおり水陸交通の要衝として、当時市原最大都市であった「八幡」の繁栄は五大力船とともにあった。

②「五大力船」は江戸を中心に関東の海運に活躍した海川両用の小回し帆船で、全長10から20m、積載量は100石前後、主に米穀、薪炭、ほしかの輸送にあたり、江戸時代はじめから昭和初期まで使われた。中でも江戸～木更津を往復した荷客輸送の「木更津船」が有名であった。江戸市内の堀割りに乗り入れるため一般廻船より喫水が浅く、川筋での棹使いのため、舷の外側に「棹走り」を設けたことが最大の特徴である。江戸幕府では船手奉行・向井将監支配の川船役所が担当した。

③「五大力船」の名は、その力づよさから五大力菩薩から付けられたといわれる。

④これまで五大力船関係資料は全国的にもほとんどなかった。

今般「市川本店文書」の発見で、研究の大幅進展が期待される。

*市原の古文書研究会の趣旨は「郷土資料の掘り起しと活字化」であり、活用を期待している。

⑤昨年「八幡史学館」第4回講座

「八幡の五大力船～明治維新时期戸長文書を中心に～」に続く第2回
前回資料と合わせてご覧ください。

2) 五大力船母港はいま雁田川、ペーシア裏～海とみおとはしけ船でつないだ

①八幡湊はどこにあったのか

八幡村と海面を示す江戸時代の村絵図

*江戸後期か八幡村絵図（飯香岡八幡宮文書181＝八幡村分見古図の写し）

浜本町の沿岸に町並みがある。村が船間屋街を中心に発展している様子がみてとれる

*慶応元年八幡村絵図（＃71＝宝暦12年後留め記写し）

みお筋に船が描かれ、南町と浜本町船だまり湊を表している

*慶応2年八幡村海面みお筋絵図（＃＝無題絵図面）番号、書名確認

*嘉永2年八幡村海面絵図面（＃51A＝除地海面深さ絵図）

②八幡宮前は「かい立ち＝深さ2m」まで神領除地。干潟地はおよそ4km、その先は急深。

③干潟地に小川を拡張した3（2）本のみお筋を作り、航路とした。

④湊は飯香岡境内と浜本町の2か所にあった。

*飯香岡八幡宮みお（南町みお＝市原看護学校、小公園一帯）＝慶長19年、当時八幡村を所領とした本多正信、同正純、永井尚政3家の年貢米津出しみお、蔵屋敷用地とした。埋め立て工業地帯にかけて長さ480間、上幅12間、底幅8間の人工運河と八幡幼稚園、支所周辺に蔵屋敷を建造した。

*浜本町みおは民間の船間屋用に築かれたものだが構築年代は未詳。おおむね江戸中期といえる。

⑤干潟地と深海との境に目印の「ぼん木」をたて、五大力船の積み荷と荷下しは小型のはしけ船が行なった。五大力船は予め外海で喫水を上げた上で満潮時に入出航した。毎年船主たちは浅くなったみおの砂漕ぎを行なった。

*中西家大正 年五大力船写真に「ぼん木立て当番」の裏書がある

⑥明治30年代、南町みおは台風被害に対処するため町内深くみおを開いた。豎みお、横みおからなつたが海岸を埋め立てた昭和30年代に消滅した。

3) 本株30艘、当時12艘、残りは揚げ船~八幡の五大力船、総数と船名

①五大力船は何艘あったのか

天明7年市川本店文書「八幡村代官支配分村鑑明細帳」

*本株30艘、当時12艘(残り18艘は揚げ船か)

*安永2年、6年五大力船9艘(明和6年竹倉役所極印改め済み) **本府領のみ**

稼働している船=平兵衛船2艘→明和5年万右衛門(売却)、太右衛門船、長兵衛船

揚げ船=幸吉船→五郎右衛門、伝八船、源七船、与平次船→善兵衛

*天明7年書き足し分(前項の変更) 省略

②寛政6年飯香岡八幡宮大絵馬「八幡村五大力船船揃い図」13艘

観音丸、稲荷丸、飛鳥丸、ヤマ善、護念丸、仁徳丸、竜王丸、弁天丸、観音丸、山王丸、高砂丸、栄徳丸、天照丸

③「市原市史中巻」嘉永4年五大力船28艘

④文久3年、慶応4年、明治7年ほか市川本店文書「送り状」の五大力船名 後出参照

⑤明治6年市川本店文書(戸長文書)「木更津御県庁船印鑑連名帳、三十三区八幡宿」

*高砂丸140石 松田喜三次船 乗組み5人、沖船頭岩田万蔵

稲荷丸120石 松田豊吉船 乗組み5人、沖船頭渡辺伝十郎

神力丸120石 石井仲蔵船 乗組み4人、直乗り

長寿丸120石 宮原六郎平船 乗組み4人、直乗り

神在丸115石 斗城谷伴蔵船 乗組み3人、直乗り

太神丸100石 永野営五郎船 乗組み4人、沖船頭永野七太郎

〃 豊太郎船 明治6年営五郎病死につき書き替え改め

神徳丸100石 石橋清次郎船 乗組み4人、直乗り

千年丸100石 伊藤久次郎船 乗組み3人、直乗り

住吉丸100石 丸長次郎船 乗組み3人、沖船頭白鳥半次郎

水生丸100石 白鳥喜八船 乗組み4人

文久丸100石 白鳥喜一郎船 乗組み3人、沖船頭石井栄蔵
明治6年五井村薩摩太平へ譲渡

明宝丸 90石 藤本五郎治船 乗組み4人、直乗り

住吉丸 90石 雪本権次郎船 乗組み3人、直乗り

平寿丸 81石 北嶋巳之吉船 乗組み3人、直乗り

泉徳丸 80石 小林七次郎船 乗組み3人、直乗り

海世丸 80石 白鳥留次郎船 乗組み3人、直乗り

八幡丸 80石 木村善吉船 乗組み3人、直乗り

明王丸 60石 大宮常太郎船 乗組み2人、直乗り

*50石以下船

栄徳丸=茶船、鈴木与平次船。神明丸=茶船、萩原文三船。仙元丸=茶船、松田喜三次船。

押送船=北嶋巳之助。茶船=岡野延蔵(明治6年村田村~~岡~~から譲渡)

⑥明治7年市川本店文書(戸長文書)「御書上げ、第五大区二小区、八幡宿解下(はしけ)船所持の者」

*茶船6艘=松田喜三次、松田豊三、白鳥留次郎、根本磯吉、吉野清吉、永野豊太郎各1

平田船12艘=松田豊三、石井仲蔵、白鳥弥吉、宮原六郎平、伊藤辰五郎、鈴木与平次、城谷万蔵、石橋清次郎、白鳥喜八、宍倉伝七、永野豊太郎、白鳥喜一郎各1

肥藻取り船=中嶋彦七

船3艘=岩田万治郎、中西徳次郎、伊藤辰次郎各1

⑦年号欠落(大正時代か)個人蔵(所有者不詳)「船持ち仲間申し合わせ規約」押印氏名

神力丸作次郎、八幡丸清次郎、1号太神丸豊吉、2号太神丸善五郎、3号太神丸市蔵、明治丸与三郎、清正丸利七、大杉丸兼吉、神力丸辰次郎、稲荷丸藤吉、大宮丸常吉、浦吉丸甚蔵、太

木更津御縣廳船印鑑連名帳

明治六年四月

三十三區

八幡宿

神丸万吉、三社丸勘藏、大黒丸関太郎、文久丸藤吉、海寿丸吉五郎、水神丸兼吉、高砂丸秋太郎、永宝丸太吉、住吉丸重平、潤徳丸長藏、浦吉丸伊八、清正丸寿三郎（以下欠落）

⑧大正8年「山祇神社芳名碑」にある船名

浜本町五大力船乗子一同、小島はしけ部番船一同、村山番船一同、伊藤はしけ部、丸三はしけ部、江戸丸番船一同、（中略）五大力清次郎、神風丸卯之太郎、同新太郎、不動丸源太郎、白蛇丸善太郎、奈津丸留次郎、好応丸常太郎、水神丸多吉、松美丸久之助、永造丸久造、加竜丸金之助、弁天丸吉五郎、三鱗丸佐吉、同弥助、不動丸新藏、同与助、八幡丸金五郎、同仙太郎、神風丸栄太郎、丸通丸重五郎、同福太郎、同国太郎、同兵次郎、同留次郎、さ津ま丸第二十三号

鑑札

⑧天明7年「八幡村々鑑明細帳」にみえる本株30艘は幕府から正式な「極印」を受けた五大力船数であり、これらは株仲間＝組合として権利を継承したといえる。

うち半数は揚げ船となっている。浜に引き上げられて休業中の扱いだが、権利だけで船は実在しなかった可能性もある。なお検討の余地がある。

4) 江戸時代でも売買はできた～五大力船の権利

①前出「村鑑明細帳」参照。江戸時代でも中古五大力船の売買が行なわれている。揚げ船の売買は権利だけの取り引きであろうか。明治維新後では自由に売買が行なわれている。

②市川本店文書（旧戸長文書）、明治7年「船類諸願い届け」のうち

* 2月12日、書付をもって御届け申し上げ候＝肥藻取り船1艘、2円50銭。水間市太郎→氏名欠落

2月16日、書付をもって御願い申し上げ候＝鑑札付き五大力船1艘三つ度道具付き、ただし80石積み。村田村石橋伝蔵→北嶋与平

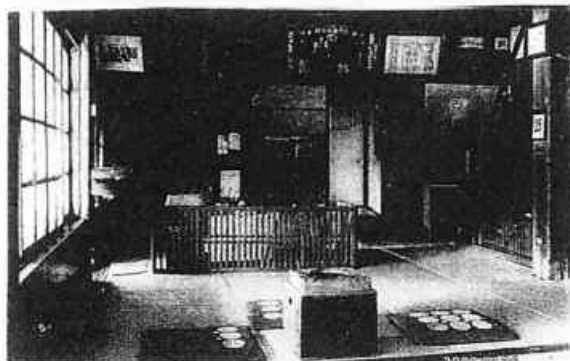
3月23日、書付をもって願い上げ候＝朝日丸、押し送り船1艘80石積み、50円。相州三浦郡横須賀村高田徳兵衛→小倉松五郎

4月8日、標題欠落＝船形欠落。伊藤久二郎→村田村増島清吉

4月26日、書付をもって願い上げ候＝茶船1艘。松田喜三次→村田村朽木平兵衛

9月19日、船譲り受け願い書＝茶船1艘極印付き、36両。村田村初芝吉郎兵衛→岡野延蔵
月日欠落、書付をもって御願い申し上げ候＝平寿丸鑑札付き、古五大力船1艘、ただし81石積み三つ道具付き。譲渡人欠落→村田村岩田万之助

本月12日、書付をもって申し上げ候＝鑑面、神仏丸80石積み、乗組み3人。城谷伴蔵→天羽郡花輪村近藤碩太郎



Handwritten Japanese text, likely a document or record, with several vertical columns of characters and some circular stamps or seals.

明治7年鑑札習之習之取

大正、五大力船文書が発見された市川本店

6) 出帆免状による積み荷の明細～前回概要紹介、詳細データ解析中、改めて報告します

①江戸幕府による川船政策

極印=鑑札焼印。公式の鑑札船。竹蔵役所での改め。幕府の税金
船運上(船永)=領主への税金。領主によって微妙に異なる。1艘につき100文、200文、なしもある。

*菊間藩の明治2年八幡宿皆済目録=船役運上永3貫860文、ほかに3艘が永200文、3艘が256文、1艘が267文(船長さ別か)

*菊間藩の明治3年五井村年貢割付=船運上永3貫500文、年々増減永1貫250文

*市原市史=嘉永4年船役銀30匁、安政6年~文久元年45匁

*詳細は不明な点が多い。順次説明してゆきたい。

②明治4年太政官「税制規則」

明治6年太政官布告「港内取締り規則」

*各管轄所で取り調べとくと見分、税金を納め鑑札を渡す。鑑札は航海中大切に所持
木更津船改め所、八幡宿(上総八幡宿船改め所)、宿役所船行事(八幡宿詰め所)
東京府船改め所、はしけ宿行事
神奈川県船改め所、横浜船改め所

③届け者(船主)→戸長「出帆届け」=船名、船主氏名、積み石、乗り組み人数、積み荷明細、船客、目的地、送り状数、提出月日、届け出者氏名印、戸長あて。免状代(管轄船以外は停泊税を支払う)

*役所「免状出帆控え」=台帳に受け付け、許可、割り印

*「出帆免状」発行=船頭が持参、目的地船改め所に提出、保管

*帰り船は東京府船改め所に届け、免状を八幡宿詰所に提出

④明治6年、7年市川本店文書積み荷明細付き「出帆免状」「同台帳」など

*八幡宿→東京府または神奈川県船改め所、月別推移

明治6年10月13件、11月50件、12月56件

明治7年1月48件、2月58件、3月52件、4月54件、5月43件、6月27件
7月35件、8月46件、9月46件、10月4日まで9件。合計413件

*東京府または神奈川県船改め所→八幡宿、月別推移

明治6年8月1件、10月一部8件、11月41件、12月52件

明治7年1月2件、2月50件、3月39件、4月11日まで39件(ほかは欠落)

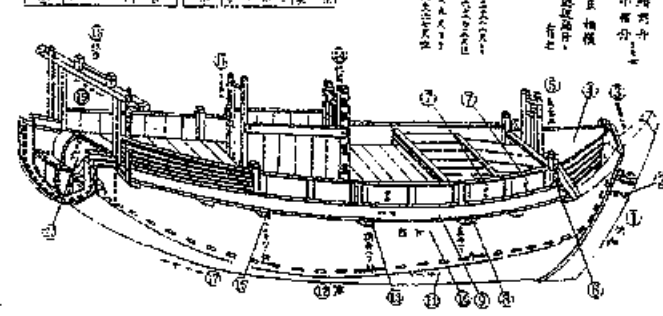
*船別出航状況、積み荷などの仮集計は前回資料を参照ください。統計的手法にもとづく正式な取りまとめ報告は「市原の古文書研究第7集」で発表します。

⑤明治新政府による川船政策はその後目まぐるしく変遷、積み荷明細の届出も廃止された。

出帆届書
泉徳丸 小林セツ子船
永 杉本徳一
古板 百か
送物 十通
市川基を船長
明治七年一月
市川本店文書

免状出帆控え

Table with columns for ship name, date, and cargo details. Includes a small diagram of a boat.



市川本店文書は
明治7年分を保存している

「船鑑」の五大力船

7) 仕入れの酒や酢、塩～市川本店の江戸後期「送り状」

① 帰り船の積み荷は？

一般に衣類や食料品、家具、日常雑貨などを運んだとされるがこれまで正確な資料はなかった。

* 文久3年、慶応4年ほか市川本店文書「送り状」

およそ10年分、各年度別はりがね綴じ込み100枚強、完全そろいとみられる。

1 商店、醸造所とはいえ、当時八幡屈指の本店の取引状況や五大力船の便名と帰り船の積み荷がわかる貴重な資料といえる。文久3年分を纏めた。

② * 仁太郎舟 贈(送)り状のこと

一酒七駄半、江戸一(酒銘柄)新五(樽)、江戸一古五(樽)

右のとおり積み送り申し候、入津のみぎり改めお請け取り成られべく候。以上

(文久3年) 正月十四日 南新堀一丁目真野庄兵衛(印=上久)

上総八幡町 吉田屋甚松殿行き

* 1月分5件、内4件船名あり(なしは省略)

14日仁太郎船=真野庄兵衛、酒7駄半

17日辰五郎船=米屋房太郎、酒20駄

29日仁太郎船=森田半兵衛、酢10樽

29日手船=徳島屋市郎兵衛、赤穂塩50俵

* 2月分12件、内9件船名あり

13日稻荷丸=山崎屋伊右衛門、坂水油1樽

15日高砂丸=徳島屋市郎兵衛、赤穂塩50俵

15日八幡番船=矢野伝兵衛、酒20大樽

15日高砂丸→稻荷丸=玉崎屋長右衛門、鏝節2樽

15日番船=中野屋幸七、酒味5駄

15日仁太郎船=中野屋啓助、ヤマ十次撰50本

29日番船=中野屋幸七、酒10駄

29日善五郎船=森田半兵衛、酢20樽

29日善五郎船=呑み口130本

* 3月分12件、内7件船名あり

14日稻荷丸=伊勢屋太郎兵衛、酒5駄

14日稻荷丸=玉崎屋長右衛門、鏝節2樽

19日番船=中野屋幸七、酒5駄

29日辰五郎船=矢野伝兵衛、酒25駄

29日仁太郎船=森田半兵衛、酢15樽

30日稻荷丸=伊勢屋利右衛門、布のり2俵

30日稻荷丸=伊勢屋利右衛門、布のり2俵

* 4月分16件、内11件船名あり

1日稻荷丸=伊勢屋太郎兵衛、酒10駄

11日八幡丸=徳島屋市郎兵衛、赤穂塩50俵

11日八幡丸、伴蔵船=清田屋恵蔵、?50本

12日番船伴蔵船=中野屋啓助ヤマ十撰100本

12日伴蔵船=伊勢屋利右衛門、醤油ほか

16日八幡丸=清田屋恵蔵、不詳

20日番船=米屋房太郎、酒味5駄

20日□□船=矢野儀兵衛、酒10駄

20日□□船=津田屋三治郎、白小口2斗

22日辰五郎船=上久、酒

22日辰五郎船=矢野伝兵衛、酒2樽

* 5月分11件、内6件船名あり

1日虎吉船=矢野伝兵衛、酒20駄

4日 清次郎船=森田半兵衛、酢20樽

10日辰五郎船=矢野伝兵衛、酒10駄

16日高砂丸金左衛門舟=米屋房太郎、酒21駄

19日番船=徳島屋市郎兵衛、赤穂塩50俵

19日丸長船=玉崎屋長右衛門、鏝節1樽

* 6月分15件、内8件船名あり

1日手舟仁太郎船=中野屋啓助、ヤマ十撰

6日番船=森田半兵衛、酢20樽

7日番船=近江屋太右衛門、酒17樽

7日勘之助船=玉崎屋長右衛門、鏝節1樽

12日巳太郎舟=津田屋三治郎、太糴

18日松太郎船=近江屋太右衛門、醤油9樽

26日清次郎船=玉崎屋長右衛門、鏝節1樽

27日清次郎船=伊勢屋伊兵衛、稀信?1樽

* 7月分23件、内9件船名あり(以降、日付順船名のみ記載)=巳太郎船、番船、番船、丸長船、番船、稻荷丸、番船、小松船、番船

* 8月分15件、内10件船名=伴蔵船、仁太郎船、市郎兵衛船、伴蔵船、五井成田丸、番船、成田丸、菅八船、番船、貞次郎船

* 9月分19件、内13件船名=高砂丸、仁太郎船、辰五郎船、番船、辰五郎船、番船、義三郎船、番船、高砂丸、番船、善兵衛船、伴蔵船、万蔵船

* 10月分13件、内8件船名=榮宝丸勘之助船、善五郎船、清次郎船、清太郎船、清二郎船、高砂丸、高砂丸、清次郎船

* 11月分12件、内6件船名=仁太郎船、勘之助船、稻荷丸、辰五郎船、丸長船、番船辰五郎船

* 12月分15件、内10件船名=清二郎船、六郎兵衛船、清二郎船、善五郎船、勘之助船、六郎兵衛船、勘之助船、番船、番船、伴蔵船

*日付欠落3件、内2件船名=高砂丸、高砂丸

③総数146件の内便名があるものは93件でおよそ3分の2にあたる。

すべてが八幡の帰り船で、うち当番船は21件、船名だけの船の多くも番船とみられる。

④船名では仁太郎船、辰五郎船、稲荷丸、八幡丸などが見える。

⑤荷送り人(市川本店の仕入れ先)は江戸壺岸島周辺の商店で、主に日本橋小網町との間を往復したとみられる。

⑥積み荷は酒、みりん、酢、油、塩、鯉節などであった。

⑦編年の送り状を解析することで五大力船の変遷などの新情報が期待できる。

8) 江戸時代は荷物専用、明治維新後貨客廻船に~明治はじめの乗船名簿

①江戸時代房総地区で船客が認められたのは木更津船と船橋宿、行徳河岸の3か所であった。

八幡湊など市原の五大力船は貨物専用とされた。商用などの江戸への旅行者は船橋か行徳まで歩いて船で、参勤交代の大名行列は陸路、千住を大回りして江戸に入った。

*五大力船に対する幕府川船役所の取り締まりは緩く、内緒での渡航も可能であったといわれている

②市川本店文書「明治7年船客名前留め、第5大区2小区市原郡八幡宿、宿役所船行事」

*1月17日善五郎船=船客3人、五井中西長之助、同車屋由蔵、八幡川上勘次郎

〃 丸長船=船客5人、八幡青木喜十郎、同永田孫太郎、茂原鈴木弥三郎、沼津駅磯部郎蔵、刑辺川崎文蔵

*1月18日石井仲蔵こと寅吉船=船客1人、菊間徳永山本新造

*1月19日、松田喜三次船=船客4人。八幡宿1人、五井村1人、市原郡1人、一の宮1人

〃 船橋より十兵衛船=なし

〃 21日、雪本権次郎船=船客10人。八幡宿2人、椎津村2人、千葉県1人、安房郡1人、東京4人

〃 23日、五郎次船=船客2人。菊間1人、東京1人

〃 24日、泉徳丸小林七次郎船=船客6人。八幡宿1人、菊間村1人、山木村1人、大厩村1人、長南宿2人

〃 25日、文久丸喜市郎船=船客7人。菊間村5人、茂原村1人、埴生郡1人

〃 26日、住吉丸丸長次郎船=船客4人。菊間1人、大坪村1人、東京2人(盲人と供=山木村の生家へ)

〃 27日、住吉丸雪本権次郎船=船客1人。埴生郡1人

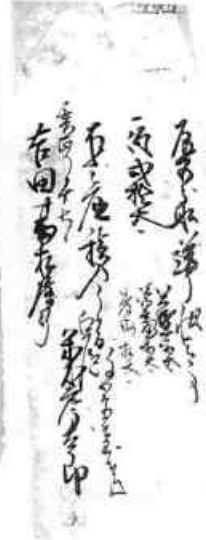
〃 29日、神徳丸石橋徳治郎船=船客3人。菊間村1人、東京2人

〃 31日、明宝丸藤本五郎次船=船客2人。菊間村1人、駿河国1人

③17日以降月末までを記録。合計47人。1日あたりおよそ3人。旧菊間藩士が多く、他は商用、供連れの盲人が生家へ行くも気がかり、当時障害を持つ人の旅行は大変なことだったろう。



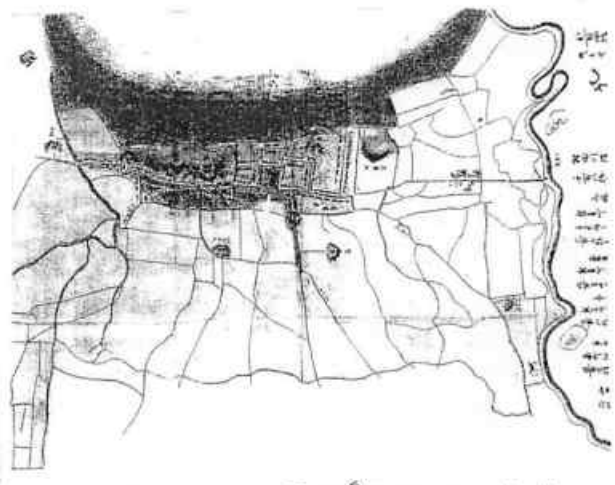
船名のある送り状



第5大区2小区
市原郡八幡宿
宿役所
船行事

船客名前留

明治七年
一月三日
船客名前留



江戸後期の八幡村図

9) 江戸への年貢津出し米は3%~その他の五大力船資料

* 今津朝山・青木源兵衛家文書、船賃米受取り (ほぼ同文3通)

覚え 一米2俵、4斗入り、右は当亥船賃米たしかに請け取り申し候。

亥11月10日 海保村御名主中 今津村新兵衛

* 市川本店文書「天明7年、八幡村村鑑明細帳」

御年貢津出し、当浦じかに船積み、江戸まで海路十里、運賃米100俵につき3分、うち1分1厘御上より下し置かれ、1分9厘は百姓より出し申し候

* 今津朝山・青木源兵衛家文書、津出し潮待ち書状

(前略) しからば御米御津出しの儀、仰せ付け下され候えども、この間は小汐ゆえ一向に荷役でき仕らず候、何分にも十日時分まで御待ち下されまじきや、ことに船も昨日出舟仕り候えばこれまた一兩日も間もこれあり候あいだ、何分二、三日中にこの方より御左右申し上げべく候あいだ、なにとぞ二、三日御待ち下されべく候よう、願い上げ奉り候。以上

十二月六日 海保村名主衆中貴下 今津村名主

その他の五大力船資料

① * 館山市立博物館分館、* 木更津市立郷土博物館「金の鈴」常設展示、高滝神社所蔵「五大力船模型」、ほかに個人が数点所蔵

② 飯香岡八幡宮所蔵「五大力船絵馬4点」

③ 個人蔵「五大力船写真」

④ * 五井小学校玄関展示「五大力船かじ」

⑤ * 八幡北町2丁目丸氏前展示「五大力船いかり」

⑥ 個人蔵「てび(帆の滑車)」船関係宅数軒が所蔵

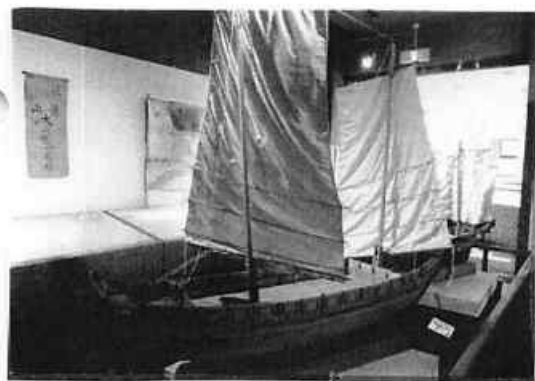
⑥ 個人蔵「五大力船印」

* 一般公開中

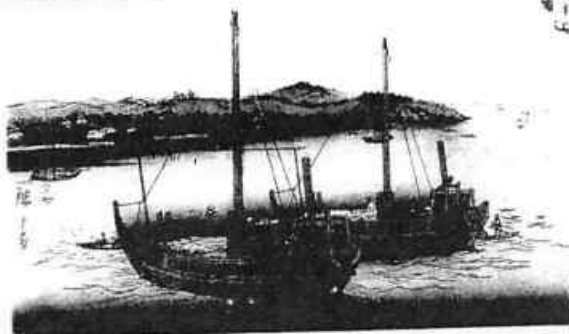
以上

お断り=本講座資料では新しい参加者のため前回講座資料の一部も重複紹介しています

解説、解析、考察などは未定稿です。本稿の直接引用はご遠慮ください。28年発行予定の「市原の古文書研究第7集」を参照ください。



← 館山市立博物館分館の五大力船模型



歌川広重が描く五大力船と木更津の町並み (県立上総博物館蔵)

Handwritten Japanese text, likely a transcription or commentary related to the boat models or historical documents mentioned in the text.

青木源兵衛家文書

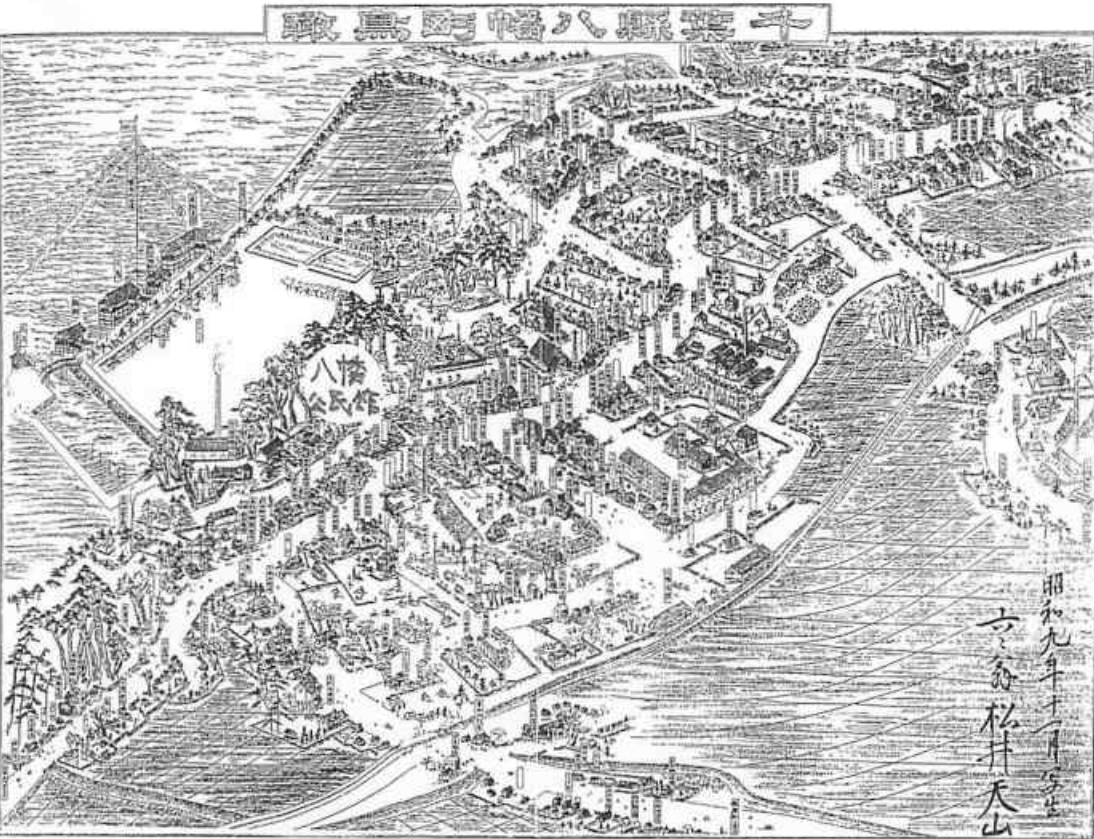
50年前まで八幡に海があった

海の町のなごりを訪ねて～八幡地区現地巡見

平成26-11-4 山岸弘明

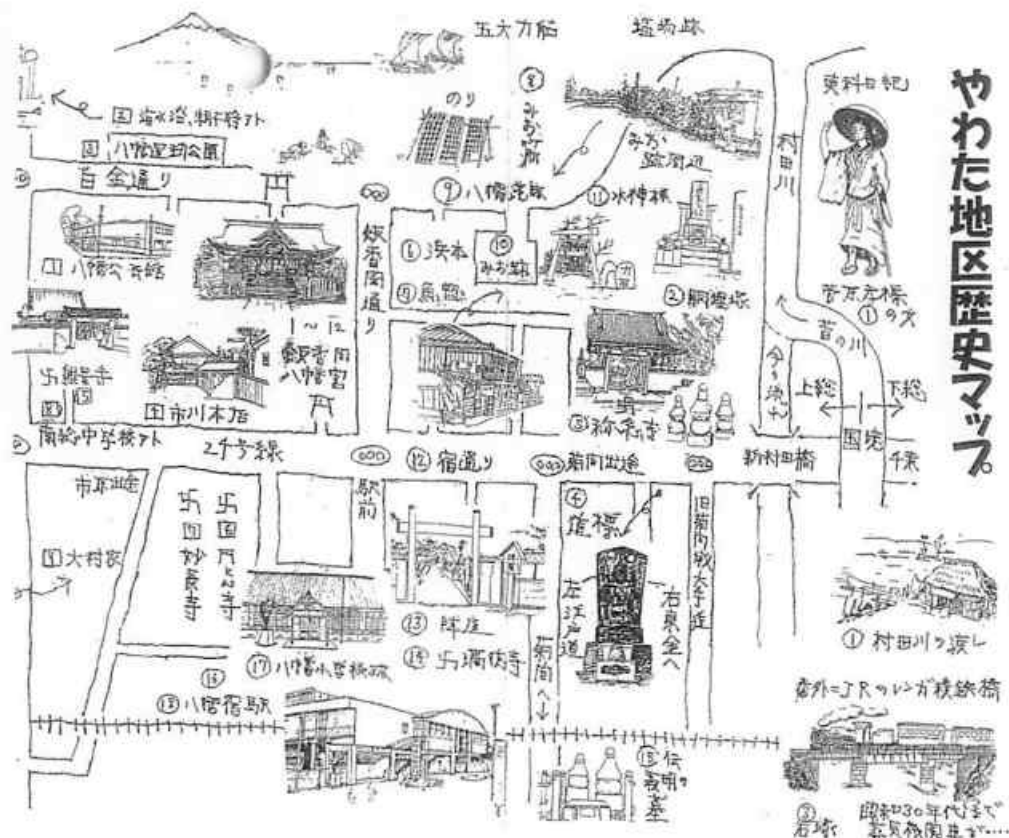
現地巡見の主要行程

- ① 9時30分～10時15分 「五大力船」前回り残りと八幡地区巡見のみどころ
 - ② 10時30分～12時00分 八幡南部地区巡見
 - ③ 12時00分～13時00分 昼食休憩（公民館調理室、近くの食堂利用も可）
 - ④ 13時00分～15時00分 浜本町（はもと）地区巡見、飯香岡八幡宮境内解散
- *コース図参照＝一部を変更することがあります
 †天の場合、巡見を縮小または中止することがあります



昭和九年十月
 山岸弘明
 天

「八幡町鳥瞰図」を伝へる察前



やわた地区歴史マップ



茶の八幡町図

やわた名所百選

八幡公民館歴史マップ
 上総国府ロマンの里と八幡さまの杜

八幡公民館歴史マップ

八幡地区の歴史マップ
 八幡公民館1階ロビーで展示中。自由にお持ち帰りください

本年度「八幡史学館」協力者＝ありがとうございました
 八幡公民館、八幡史学館名所100選チーム、市原の古文書研究会、
 飯香岡八幡宮、市川本店、魚惣、宮本敬一様、岡田徹也様、長谷川正雄、
 長谷川輝明様、中村芳博様、手島弘子様

「五大力船」～前回講座の残り資料

1) 明治維新直後の乗船名簿 (前回資料1 1 ページ市川本店文書参照)

①江戸時代房総地区で船客が認められたのは木更津と船橋、行徳の3か所のみであった。八幡など市原地区の五大力船は貨物専用とされたが、明治維新後船客が認められた。

②当初は船客、宿泊客、通行人の名前を記帳した。

「明治7年1月船客名前留め」第5大区2小区、市原郡八幡宿、宿役所船行事

「明治7年1月旅宿取り調べ控え帳」八幡宿役人

「明治7年1月旅人取り調べ帳」八幡宿見張り所

*県の指令に基づいたか、小区が独自に実施したかは不詳。1月17日から月末までの半月分が現存している

③「船客名前留め」まとめ=前回資料記載

④考察=14日間の合計47名、1日1便およそ3人

船客は菊間藩士が多く、ほかは商用。中に供連れ（お供）の盲人が含まれている。

特定の船でないことから貨物定期便の「番船」が船客を兼ねたとみられる。

2) 江戸後期の今津朝山・青木源兵衛家五大力船関係文書 (前回資料1 2 ページ市川本店文書参照)

①青木源兵衛 (幕末当時の当主) 家は元五大力船船主、名主とみられる

②海保村年貢津出し、船賃米受取り

海保村年貢津出し、潮待ち書状=原文別掲、解説は前回資料記載

③考察=海保村 (村高899石、旗本4給) 1知行所 (特定できない) の年貢津出しを担当。船賃米8斗とあり、3%として計算するとおよそ総津出し量は26石となる。

書状は潮待ちで津出しが遅れていることのわび状。小潮で荷積みできなかった、船は出たばかりでもう少し待つてほしい。実際のやりとりを記した貴重な五大力船資料といえる。



八幡村五大力船船橋之図

Handwritten notes and signatures in cursive Japanese, including names like '海保村' and '青木源兵衛'.

Four vertical columns of handwritten text, likely copies of the documents mentioned in the text above. The columns are titled: '船客名前留め', '宿役所 船行事', '旅宿取調控帳', and '八幡宿役人'.

市川本店文下

Large handwritten notes and signatures in cursive Japanese, including names like '青木源兵衛' and '今津朝山'.

青木源兵衛家文下

五大力船から潮干狩りへ、八幡はむかし海の町だった

午前の案内コース（10時30分～）

1) 潮干狩り場と海水浴場～八幡公民館から元岸壁まで100m

- ①八幡公民館＝終戦直後の昭和23年、当時八幡町町長だった菅野儀作氏の提唱で現在飯香岡通りの地に創建。木材は習志野の旧陸軍厩舎を取り壊した古材木を貰い受け、工事は職工組合を中心に町の人たち総出のボランティア作業で行なわれた。木造二階建て洋館、収容人員2千人。八幡の戦後町復興に貢献、全国初の「文部大臣賞」を受賞した。昭和47年老朽化と海岸埋め立てにともなう駅前整備事業のため現在地に移転。郷土の著名日本画家・山口達画伯の大天井絵「四季の花」、海の暮らしを描いた「海岸にて」、昔写真を集めた「やわたむかし写真展」などを常設展示している。
- ②八幡運動公園＝江戸時代は干潟地で、大正のころ八幡宮の祭礼で草競馬や競輪大会が開催された。戦後の学制改革で八幡中学校が誕生すると父兄の協力で校庭グラウンドとして整備され、八幡海岸が東京の小中学校潮干狩り地として人気を集めると駐車場となり、数十台の観光バスがグラウンドを埋めた。
- ③飯香八幡宮神領除地＝天正年間、徳川家康によって海面幅200間、汐干しかい立ち地をみこし渡御、汐ごり場として神領とされた。神社正面海中1kmほどに2の鳥居があった。
- ④海岸岸壁と八幡海岸（潮干狩り、海水浴場）＝大正6年の大潮被害の後築かれた岸壁。この先およそ4kmほど干潟地が続く遠浅の海岸で、夏は潮干狩り、海水浴場として賑わった。
- ⑤岸壁にせり出して海の家が立ち並んだ。青少年会館の先に「魚惣納涼台（海の家）」があった。

2) 慶長19年構築の南町みお＝人工運河が海と繋いだ

- ①慶長19年、八幡村相給の本多正信、同正純、永井尚政3領主年貢津出しのため人工運河のみお掘り割りを構築、みおは長さ480間、幅12間で、船着き場、荷揚げ場、年貢米を保管する蔵屋敷があった。
- ②寛文年間には永井豊前守、同式部少輔、酒井兵部少輔、堀三左衛門の4地行所津出し湊であった。
- ③江戸後期、蔵屋敷の一部が市川本店に貸し地され醤油醸造所となった。

3) 本尊は八幡海岸の海中から出現した阿弥陀如来～無量寺

- ①無量寺＝浄土宗、千葉大巖寺の末寺で白鳳元年石塚創建とされ、本尊を八幡浦に出現した「阿弥陀如来」とする。千葉氏ゆかり寺で村田川の戦いで敗死した伝千葉康胤一族供養塔、不動明王石像など石造物に見るべきものが多い。時間の都合で今回は寺内に立ち入らない。



← 八幡公民館



← 行方八幡海岸

→ 運動公園



→ 岸壁残る南町みお



東本+小学校バス場潮干狩

4) 昔ながらの佇まいを伝える醤油造りの旧家～五大力船文書の市川本店

- ①飯香岡八幡宮の元社家で、江戸後期から終戦後まで続いた醤油醸造、酒類販売を生業とした旧家。門や帳場、母屋、庭、蔵などが江戸時代の建物で当時の商家造りを伝えている。
- ②明治維新ころの当主甚太郎が明治6年千葉県成立時の民選選挙で戸長となり、自宅を戸長役場とした。明治7年制度改定で退任、同店には五大力船文書を含む引継ぎされなかった戸長文書が蔵隅などに保管された。また醤油醸造、酒類販売などの文書資料合計5万点ほどを所蔵されている。
- ③明治時代に石三、戦中戦後期の得三の2代に渡って八幡町長、県議会議員を勤め、実業家としても活躍した。

5) 市原最大規模の富士塚～三山と富士信仰

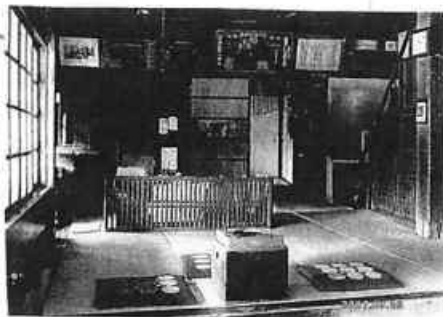
- ①富士信仰＝江戸中期に興隆した山岳信仰。シンボルの塚は大正2年富士山の溶岩を運んで築いた。山頂に浅間神社、七合目のひと穴に食行身祿像が祀られている。
- ②出羽三山信仰＝出羽三山は東国の修験道の中心として栄えた。八幡は昔から三山信仰が盛んで、江戸時代満徳寺の行屋で行なわれた「八日講」が現在に続いている。昔からの八幡の人たちは2つの講を兼ねる重複信仰で交互に両山を登拝した。

6) 戦後の教育改革で生まれた新制中学校～初代八幡中学校跡

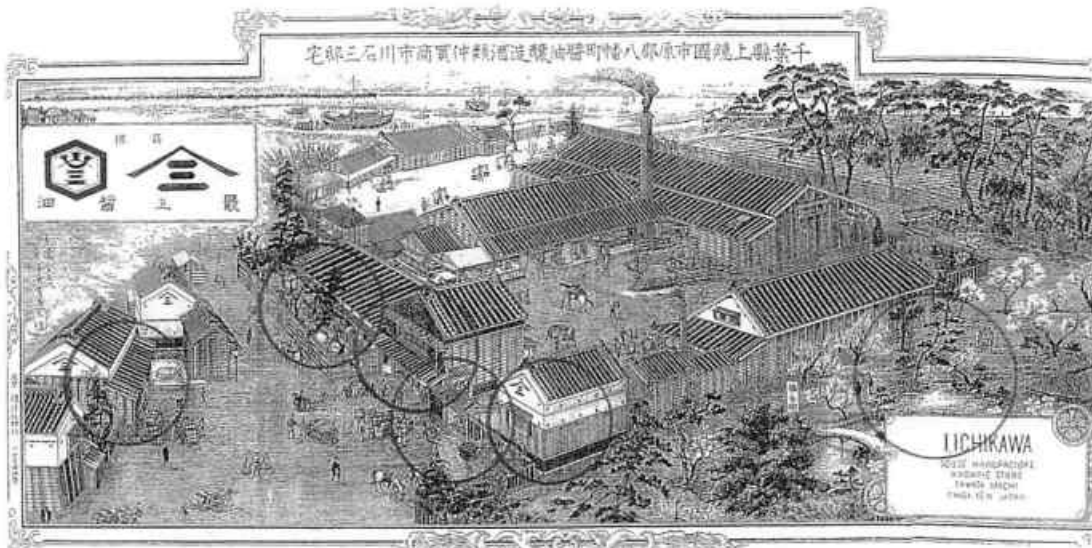
- ①昭和22年創立。学校はできたが校舎はない。小学校や役場庁舎、寺や武道館など間借りの一方で、八幡宮境内で新校舎建設工事を始める。物資欠乏の時代、貰い受けた旧習志野連隊の古材を運んで町、議会、父兄連携の勤労奉仕、生徒は授業もそこそこ古釘抜きなどの雑用に動員された。昭和30年代の人口増加で、新校舎、プレハブ校舎を相次いで増設したが、校地は狭く、老朽化が進んだことで昭和45年現在地に移転した。
- ②現在八幡幼稚園
幼稚園、八幡公民館横の道はいまより多少広く海水浴場に出入りする観光バスが出入りした。特定の船でないことから貨物定期便の「番船」が船客便を兼ねたとみられる。



市川本店



初代八幡中学校



富士信仰

←明治中期、市川本店の町政

4) かつて五大力船の宿場町＝浜本町の町並み

- ①江戸時代から明治、大正にかけて賑わった八幡河岸地。元は廻船船宿街で、碁盤目の町並みは湊町として賑わった当時を偲ばせる。
- ②船主、乗り組み員、はしけの人たち、商店、旅館、食べ物屋、町全体が湊町として発展した。

5) 菅原孝標の娘や源頼朝も通った古東海道＝房総往還宿通りと八幡陣屋

- ①旧往還バス通りは八幡宿陸路の中心街。平安の昔、古東海道で「更級日記」の作者・菅原孝標の娘や鎌倉に幕府を開いた源頼朝が通過、戦国戦乱期は関東の覇権をかけた安房里見氏と後北条氏の兵馬が駆け抜けた。
 - ②江戸時代は上総と安房6大名の参勤交代路で久留里藩や五井藩主らが威儀を正して通行した。
 - ③本陣は月当番（後期は年当番）で名主が持ち回り、継ぎ立ての伝馬所、旅籠屋木賃宿などが立ち並んだ。武道館前に高札場があった。
 - ④八幡陣屋跡＝屋号「陣屋」を名乗る鈴木家が文化6年、旗本3400石永井豊前守家から拝領した地方蔵屋敷陣屋跡で経緯を伝える絵図面を所有している。県や市は元禄時代に存在した堀八幡藩1万石、大久保八幡藩1万石陣屋地とするが裏付けできる根拠はない。
- *陣屋絵図面＝東西37間余、南北17間余の長方形。面積およそ600坪、周囲に竹山、川、溝を巡らせ、往還正面に高札場、引き込み道、虎口、庭池などがある

6) 八幡宮別当寺→神道中教院→八幡小学校と変遷＝JR八幡宿駅と駅前ロータリー

- ①満徳寺＝新義真言宗。明治維新の「廃仏毀釈」で廃寺となった飯香岡八幡宮別当寺・霊応寺の塔中首座。創建は不詳で古河公方2代足利政氏の次男で小弓公方を称した義明ゆかり地とされる。両親を従えて権勢を誇ったが天文7年小田原北条氏との「国府台の戦い」に敗死した。境外墓地御墓堂に伝義明夫妻の墓がある。
- * 1石六地藏、不動明王像
- ②霊応寺跡
- ③八幡小学校跡＝明治7年4月八幡・円頓寺で開校、称念寺をへた明治9年4月、元八幡宮別当寺・霊応寺跡の現在JR八幡宿駅前ロータリー周辺に移転、昭和41年海岸埋め立て工場誘致にともなう急激な人口増加に対応するためJR駅裏の現在地に再移転した。
- ④八幡宿村役場跡 ⑤初代八幡公民館跡



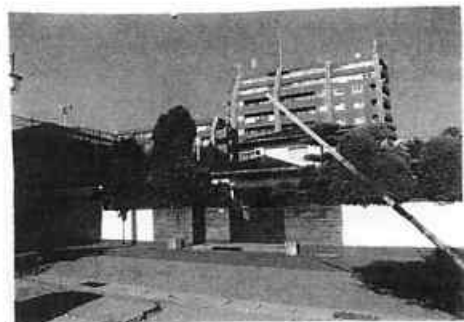
みお筋



旧房総街道



陣屋絵図



屋号「陣屋」名乗る鈴木家



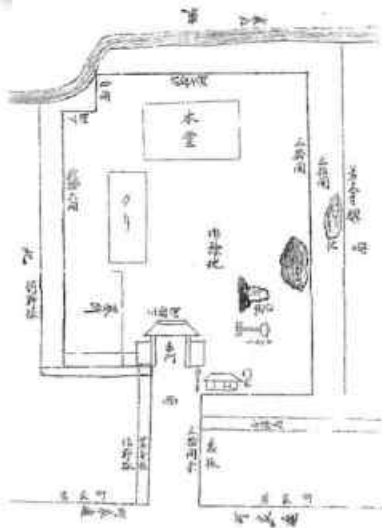
旧八幡小学校

7) 八幡宿の語源となった八幡さま=飯香岡八幡宮

来年度講座で平岡禰宜にご案内いただく予定のため通り抜け案内になります

- ①八幡の語源となった鎮守の神。白鳳時代「一国一社」、また天平時代「国府八幡宮」として創建ともいわれる。国府近く「うぶすな神」として誕生、鎌倉時代後期は市原八幡宮として朝武の尊崇を集めた。現地への移転時期は室町中期で鎌倉時代に遡る可能性もある。
- ②中世は関東の清和源氏武将が帰依し、江戸時代は徳川家康以下の歴代将軍が150石の社領を寄進した。祭神は誉田別尊（ほんだわけのみこと=八幡神）で弓矢の神様。子孫繁栄、交通安全などに霊験があらたか、毎年秋の例大祭は1万人近い見学者で賑わう。また祭りに先立って行なわれる「柳橋神事」は県の「有形民族文化財」に指定されている。
- ③本殿は室町中期建造の国指定重要文化財で正面3間、側面3間の入母屋造り銅板葺き、力づよく簡素、室町時代の特色が色濃い。拝殿は元禄4年建造で県指定文化財となっている。
- ④道標=市原出道、現在パチンコ店三叉路に建てられていた道案内の碑
 右側面=左かさもりへの道、右たかくらへのみち
 左側面=左、江戸への道、安政二巳十月吉日、願主8名
- ⑤さかさ银杏=源頼朝戦勝祈願伝説の神木
 夫婦いちょう=当社創設神話由来する神木

以上



満徳寺古地図

一、満徳寺
 二、小祠
 三、中庭
 四、後庭
 五、本堂
 六、山門
 七、石段
 八、石燈籠
 九、石鳥居
 十、石手水

一、善光寺
 二、法蓮院
 三、法通寺
 四、法鏡院
 五、法華院
 六、法華寺
 七、法華堂
 八、法華堂
 九、法華堂
 十、法華堂

本木辰



みなとまち 木更津400年

平成 26 年 10 月 4 日(土) ~ 12 月 27 日(土)

▼記念講演会

「木更津湊・木更津船・木更津河岸」

講師 落合 功氏 (南山学院大学教授)
 日時 平成 26 年 11 月 29 日(日)
 13:30 ~ 15:30 (受付 12:30 ~)
 会場 ロイヤルヒルズ木更津ビューホテル
 (木更津市太田 2-2-1) 博物館徒歩 5 分
 申込み 11 月 1 日(日) ~ 電話で博物館へ
 受付時間 9:00 ~ 17:00
 定員 200 名 (先着順)

休館日 月曜日 (祝日の場合は翌日)
 開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

特別展

▼観覧料 団体: 20 名以上
 一般 300 円 (団体 240 円)
 大・高校生 150 円 (団体 120 円)
 65 歳以上 無料
 中学生以下 無料
 障がい者とその付添者 1 名 無料

木更津市郷土博物館金のすず

〒292-0044
 千葉県木更津市太田 2-16-2 (太田山公園内)
 TEL 0438-23-0011 FAX 0438-23-2230
 Email kinnosuzu@city.kisarazu.lg.jp



御影山
 神のあでまし
 心しをかきて
 雲にのりて
 霞にのりて
 霞にのりて
 霞にのりて



国社
 飯香岡八幡宮の築
 千歳集作 飯香岡八幡宮



川崎史学館と
 支える名所100地
 4-1
 魚沼お掃除隊版

①織豊系城郭と館山城

②悲劇の戦国大名里見氏の興亡

平成26—9—12 山岸弘明

プロローグは信長、秀吉の天下統一と織豊系城郭

1) 織豊期、織豊系城郭とその時代—中世から近世へ、城郭史上の一大転換期

①織豊期=安土桃山時代。1573~1603の30年間のこと

織豊期、織豊系城郭=織田、豊臣政権下に築かれた城郭をいう

戦国時代の城は土を掘り積み上げた戦闘施設としての山城であったのに対して、織田信長の安土城に始まる織豊系城郭は領内統治と権勢誇示を目的とした見せるための城であった。城郭史上近世城郭への一大転換期となった。

②中世=前期武家政権

治承3年1179 平清盛=太政大臣、後白河法皇を幽閉、平氏政権樹立

文治元年1185 源頼朝=平氏滅亡させ鎌倉幕府成立、源氏3代、北条執権時代

元弘3年1333 後醍醐天皇=鎌倉幕府を倒し、建武の新政を敷く

延元元年、建武3年1336 足利尊氏=征夷大將軍に就任、室町幕府を開く

永享10年1438 足利6代義教=鎌倉府、永享の乱で関東の大乱始まる

応仁元年1467 足利8代義政=後継争いから応仁の乱始まる、全国で戦国時代に突入

天正元年1573 15代義昭=信長に降伏、室町幕府滅亡

③安土桃山時代、織田信長の天下統一事業=広辞苑は中世とし歴史教科書は近世とする

天正元年1573 信長「天下布武」へ前進

// 5年1577 信長安土城に移り、楽市、楽座の制布く

// 10年1582 信長本能寺の変で明智光秀に殺害される

④安土桃山時代、豊臣秀吉、信長の夢引き継ぎ天下統一

天正10年1582 秀吉山崎の戦いで光秀を破り、信長後継者となる

// 14年1586 秀吉太政大臣に任じられ、豊臣姓を与えられる

// 18年1590 秀吉小田原征伐で関東を平定、奥州服従、全国統一なる

文禄7年1598 秀吉没、幼い秀頼が豊臣家を継承

慶長5年1600 関が原の合戦で徳川家康勝利

④近世=後期武家政権、江戸時代はじまる

慶長8年1603 家康征夷大將軍に就任。江戸幕府成立

// 10年1605 家康隠居、徳川秀忠2代將軍就任。世襲はじまる

// 19年1614 家康大坂冬の陣、翌元和元年夏の陣で豊臣氏を滅亡させる

2) 安土城、大坂城、そして江戸城——信長、秀吉「天下布武の城」から家康「天下の覇城」へ

①織田信長の居城変遷 (平城→山城→平城)

- 1 勝幡城=天文3年父信秀居城で誕生
- 2 那古野城(名古屋)=天文6年信秀、信長を配す
- 3 清洲城=天文24年守護代織田家を倒して移り、尾張1国を支配
- 4 小牧山城=永禄6年岐阜攻撃拠点として城下ごと移す
- 5 岐阜城=永禄10年斎藤氏の稲葉山城を落とし、大改修して移る
- 6 安土城=天正4年「天下布武」の拠点として築城開始、国内初の本格的な天守出現、近世城下町はじまるが信長の死でわずか10年で終わる
- 7 大坂城=天正10年次期居城として築城工事を開始、未完の城は秀吉に引き継がれる

②豊臣秀吉の居城変遷

- 小谷城=天正元年信長から北近江12万石を与えられる
- 長浜城=天正2年築城
- 姫路城=天正8年信長軍団長として播磨を制圧した時、黒田孝高から献じられ移る。近世城郭に改造(大河ドラマ軍師官兵衛)
- 大坂城=天正11年信長を後継、大坂城を完成させて移る。ここを本拠に天下を平定
- 伏見城=文禄3年築城、晩年の居城、慶長3年城内で逝去

③徳川家康の居城変遷

- 三河岡崎城=天文11年誕生、織田、今川氏人質生活、永禄元年今川義元の死で復帰
- 遠江浜松城=元亀元年武田信玄と協定、領国拡大にともない進出
- 駿河駿府城=天正14年秀吉に臣礼を取り移る
- 江戸城=天正18年秀吉小田原征伐勝利で関東へ移封。関が原の合戦勝利で江戸幕府開設
- 駿府城=慶長12年秀忠に征夷大將軍を讓位。元和4年当地で逝去

織田信長の統一事業 137

詳日 第6章 1 p.149 ~ 151

1 織田信長の統一関係年表

年	事項
1534	尾張那古屋に生まれる
1551	父信秀の死去により家督を継ぐ(18歳)
1560	桶狭間の戦い①。今川義元を倒す
1565	三好義隆・松水入秀ら、將軍足利義輝を殺す
1566	足利義昭から幕府権威回復の命を受ける
1567	稲葉山城の戦い。斎藤義興の稲葉山城を落とし、同城に移り、岐阜と改名(34歳)②
1568	足利義昭を率じて入京③
1570	足利義昭、征夷大將軍となる
1570	碓氷川の戦い④。浅井長政・朝倉義景を破る
1571	石山戦争、はじまる(〜80)⑤
1571	比叡山延暦寺を焼打ち(38歳)⑥
1572	三方ヶ原の戦い。武田信玄、徳川家康を破る
1573	足利義昭を追放。室町幕府滅亡⑦
1574	伊勢長島の一戦を鎮圧⑧
1575	長篠合戦⑨。武田勝頼を破る
1576	越前の一戦を鎮圧
1576	安土城築城(79年完成)⑩
1577	安土城を居城とする
1577	根来・雑賀の一戦を鎮圧⑪
1577	安土城下を築市とする⑫⑬
1580	羽柴秀吉、中国攻め開始(〜82)⑭
1583	石山戦争、終結。顕如と和睦
1583	天目山の戦い。武田勝頼敗死⑮
1583	羽柴秀吉、備中高松城を水攻め
1582	本能寺の変。明智光秀に襲われ敗死(49歳)



◎◎織田信長(1534~82、左)と「天下布武」の印(下) 尾張の守護代の一族に生まれ、1560年桶狭間の戦いで今川氏を破って統一事業を進め、1567年の美濃征服後は「天下布武」の印印を用いた。1582年に本能寺の変で敗死。

2 信長の政策

伝統的な政治や経済の秩序・権威を克服し、新しい支配体制をつくることをめざす

- ### 政策
- 堺を直轄領とし、畿内の経済力を掌握(堺の商人より矢銭2万貫を集める)
 - 楽市令により自由な商業活動を促す(1567年美濃加納、1577年安土山下)
 - 撰銭令を出し、貨幣間の交換比率を定め撰銭を制限した(1569)
 - 関所を撤廃し、商品流通を盛んにする(1568)
 - 仏教勢力の弾圧(1571年延暦寺焼打ち、石山戦争で一戦を屈服させる)
 - 献金(1568)、御所建築(1670)

3 織田氏関係系図



4 信長の統一事業



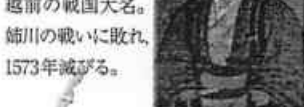
◎安土城復元(内藤藤氏復元) 5層7重の大天守を持つ安土城は、1579年、標高199mの安土山に完成。最上階は金の瓦に金の柱が飾られ、内部の障壁画は狩野永徳らが手がけた。

4-1 信長の統一事業要図

- 1 桶狭間の戦い(1560)
- 2 稲葉山城の戦い(1567)
- 3 足利義昭を幸じて入京(1568)
- 4 姉川の戦い(1570)



近江の戦国大名。夫人の市は信長の妹。姉川の戦いに敗れ、1573年自刃。



越前の戦国大名。姉川の戦いに敗れ、1573年滅びる。

- 6 延暦寺焼打ち(1571)
- 7 室町幕府滅亡(1573)
- 8 長島の一方向一揆鎮圧(1574)



9 長篠合戦(1575)

1575年織田・徳川連合軍は、鉄砲隊の威力で武田軍の騎馬隊を破った。

長篠合戦回屏風

10 安土城築城(1576~79)

11 根来・雑賀の一向一揆鎮圧(1577)

信長の領土拡張
 1560年(桶狭間の戦い)頃
 1572年(三方ヶ原の戦い)頃
 1575年(長篠合戦)頃
 1581年頃
 1582年(武田家旧領を併合)頃



9 石山戦争(1570~80)

本願寺11世。1570~80年に信長と石山戦争を展開、のち京都に寺地を得た。

12 中国攻め(1577~82)

13 天目山の戦い(1582)

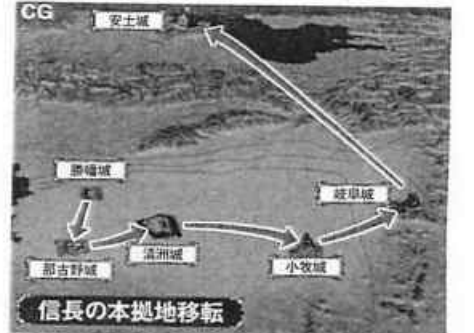
武田勝頼(1546~82)
 武田信玄の子。長篠合戦で大敗後、1582年、天目山の戦いに敗れて自刃。



信長にほろぼされた武将 反信長の勢力 親信長・信長配下の武将

一向一揆の軍旗
 「進むは往生極楽、退くは无(無)間地獄」と記され、石山戦争に加わった門徒の軍旗。

3 信長の本拠地移転



信長は版図を広げることに、その本拠地を移動しつづけた。生まれ育った尾張の勝幡城から天下布武を目前とした安土城まで、その変遷を追ってみたい。

4-3 安土城下町



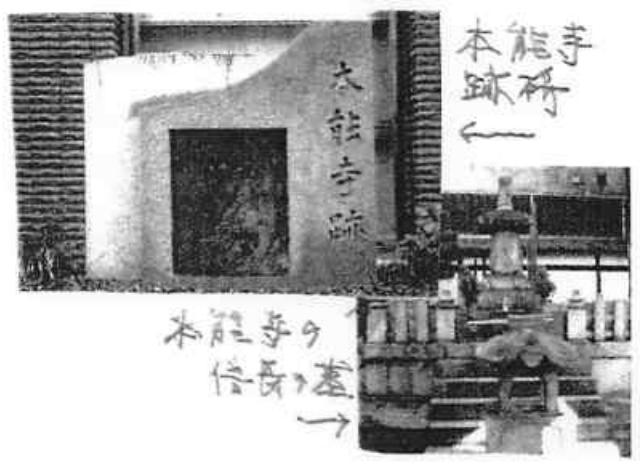
安土は水陸交通の要衝であり、信長は1577年、安土山下町に楽市令を出した。信長は、甲山道の商人の通行を止めて下街道(中山道)から分かれ、琵琶湖沿いに北上する道で、朝鮮人街道ともよばれた)を通らせ、商業の安土への集中をはかろうとした。

城名(現在地)	築城年	築地	標高	比高	堀	遺構	利用形態	備考
天王寺取出	天正八年	丘城	三三m	一九	○	礎石	将来の居城として着手	
勝龍寺城	天正二~八年	平城	二〇m	二	○	礎石		
古池田城	天正七年	丘城	五五m	二五	○	礎石		
山崎陣所	天正七年	山城	二七〇m	二四〇	○	礎石		
二条城	天正四年~六年	聖敷	四三m	〇	○	礎石		
安土城	天正四~九年	山城	一九六m	一〇六	○	礎石		
北之庄城	天正三年	平城	七m	〇	○	礎石		
佐和山城	天正二年	山城	二二二m	一四五	○	礎石		
吉田山(計画)	天正元年	山城	一一三	一一六	○	礎石		
武者小路邸	元龜三年	屋敷	四八m	〇	○	礎石		
山王山(計画)	元龜三年	山城	三八一m	二七九	○	礎石		
虎後前山城	元龜元年	山城	二二四m	一一九	○	礎石		
横山城	元龜元年	山城	三二二m	二六〇	○	礎石		
勝軍山城	永禄三年	山城	三〇一m	二九三	○	礎石		
宇佐山城	永禄二年	山城	三三五m	二二二	○	礎石		
足利義昭室町第	永禄十二年	館	四六m	〇	○	礎石		
紋卓城	永禄十一年	山城	三三八m	二九五	○	礎石		
小牧山城	永禄六年	丘城	七五m	五五	○	礎石		
二宮山(計画)	永禄五年頃	山城	一九三三	二六〇	○	礎石		
清洲城	天文二四年	館	五四五m	一五	○	礎石		
那古野城	天文六年頃	平城	十四m	二	○	礎石		
勝幡城	天文六年頃	平城	六m	〇	○	礎石		
城名(現在地)		遺地						

織田信長の築城



安土城
← ↑



本能寺跡
←

本能寺の信長墓 →

3) 丹羽長秀、黒田官兵衛、藤堂高虎——近世城郭縄張りの系譜

①織田信長の城作り

縄張り=奉行人・丹羽長秀

ゼネコン化職人集団、分業、専門職

番匠(大工頭)岡部又左衛門父子、熱田神宮宮大工

石切り、石工集団。近江の馬淵、岩倉、穴太(のちに公儀穴太で知られる)

瓦職人、屋根葺き、大鋸(おが)引き、鍛冶、畳

②豊臣秀吉の城作り

縄張り=豊臣秀吉、黒田官兵衛

桃山文化と天守建築

朝鮮出兵、現地に残る倭城

伏見城築城と慶長元年大地震崩壊、天下普請による石垣技術革新

③徳川家康の城作り

縄張り=藤堂高虎。丹羽流技術集団引き継ぐ

慶長後期、有力外様大名を中心に「築城ラッシュ」、大盛況期を迎える

徳川天下普請と豊臣包囲網

④城の終焉

「元和えん武」「一国一城令」「武家諸法度」による築城制限

明治6年「城郭存廃令」

昭和戦災による被災

4) 天守と石垣、水濠の巨城、城は革命的に進化した——織豊系城郭とその特徴

①山城から平城へ。たたかう城から政治の城へ。大都市と城のセット造営

権威の象徴としてのみせる城。高層天守と高石垣、広水濠の城の誕生

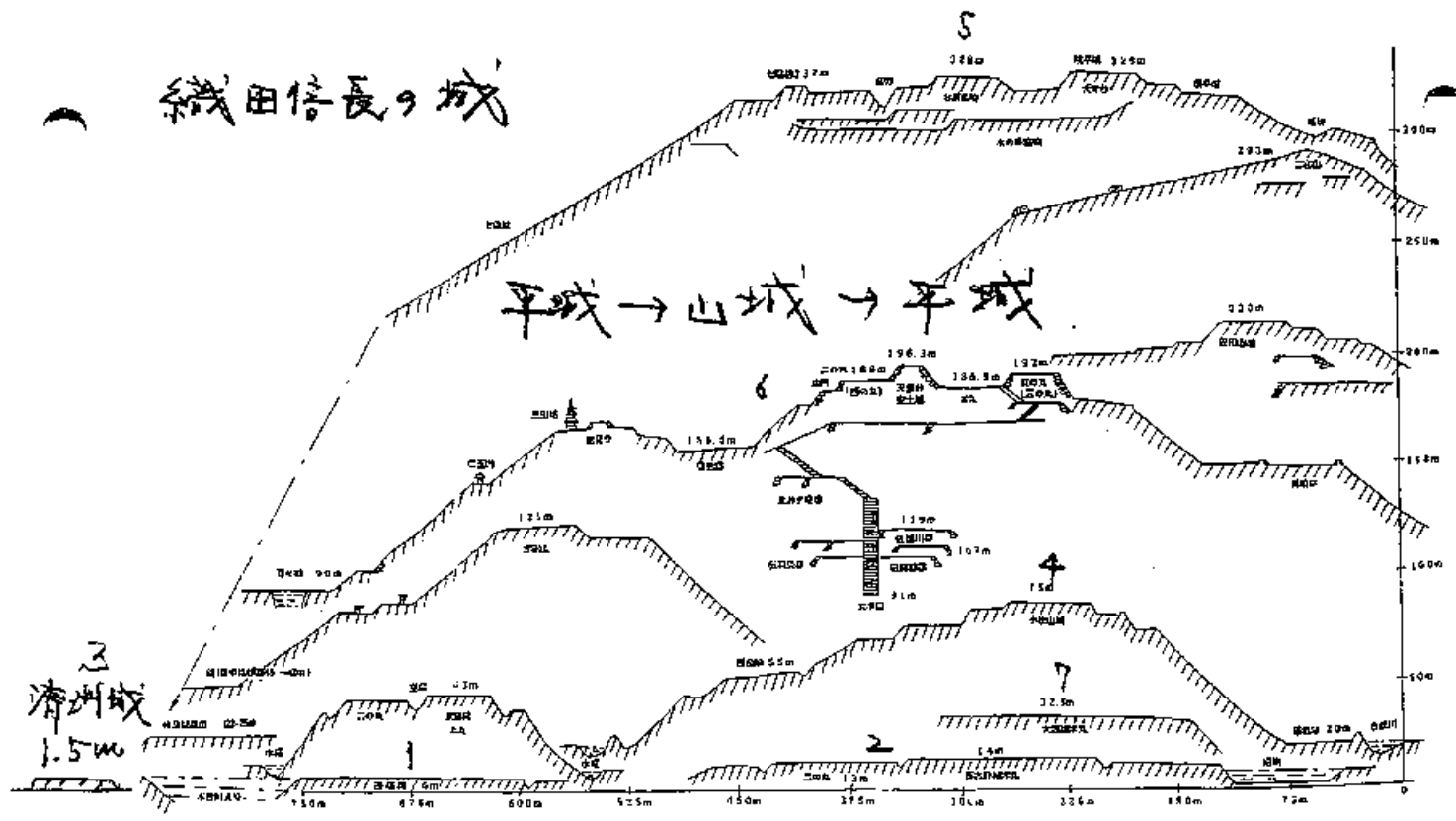
②城の大規模化。小さな城から巨城へ統合。中世在地領主の城は数万→近世は100分の1

③石垣技術の発達で高石垣登場、石垣上に重量建造物が可能になる

④石垣の高さ=戦国期1~2m→織豊期5m以上に。(江戸初期最盛期は10~20mへ)

織田信長の城

平城→山城→平城



138 豊臣秀吉の全国統一

詳日 第6章 1 p.151 ~ 152

1 豊臣秀吉の全国統一関係年表

- 1582 (天正10) 6 本能寺の変。毛利輝元と和睦①
山崎の合戦(明智光秀、滅亡)②。清洲会議③
- 7 太閤検地を開始(～98)
- 1583 (天正11) 4 賤ヶ岳の戦い(柴田勝家、敗死)④
- 8 大坂城築城開始(～88)⑤
- 1584 4 小牧・長久手の戦い(織田信雄・家康と和睦)⑥
- 1585 (天正13) 7 紀伊平定⑦。関白となる。四国平定(長宗我部元親、降伏)⑧。九州に惣無事令
- 1586 12 太政大臣となり、豊臣の姓を賜る
- 1587 (天正15) 5 九州平定(島津義久、降伏)⑨
6 パテレン追放令⑩
- 1588 7 刀狩令、海賊取締令
- 1590 (天正18) 7 小田原攻め(北条氏政、滅亡)⑪
奥州平定(伊達政宗を服属、全国統一)⑫

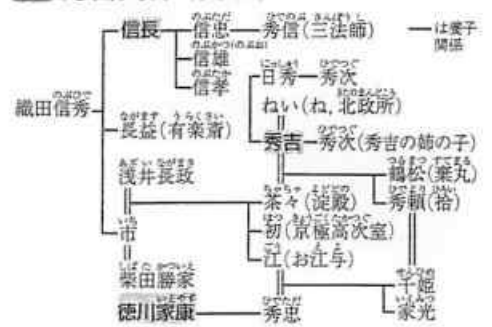


◎豊臣秀吉(1537～98) 尾張中村に地傳木下弥右衛門の子として誕生。今川氏の武將に仕え、のち織田信長に仕え、羽柴秀吉と名乗って近江長浜に居城。本能寺の変後に全国を統一し、太閤検地や刀狩などをおこなった。後滿成天皇より豊臣の姓を賜る。朝鮮侵略をおこない、1598年、病没。

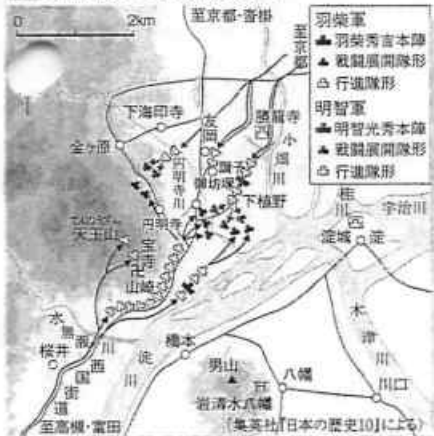


◎秀吉の馬印である十成細羅(左)と兜(右)

2 秀吉関係略系図



3 山崎の合戦関係図



5 大坂城



◎現在の大阪城(上)とモンタヌスの大阪城(下) 石山本願寺の跡地に、秀吉が1583年に築城。現在の天守は1931年に復興。下はモンタヌス編『東インド会社通日使節紀行』にある大阪城の前面図(記録をもとに描いた想像図)。

6 聚楽第

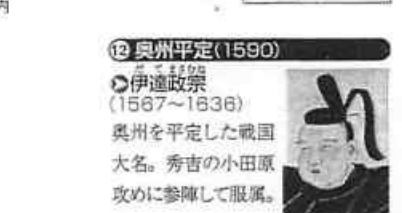


◎聚楽第(聚楽第図屏風) 秀吉が内裏跡に造営した城郭風の邸宅。1588年、後滿成天皇の行幸をおおいだ。1586年、秀吉は天皇より太政大臣に任じられ、豊臣の姓を賜った。

4 秀吉の全国統一関係図



- ① 毛利氏と和睦(1582) 明智光秀、敗死。
- ② 山崎の合戦(1582) 織田家部将による会議。信長の後継者に長男信忠の子秀信。
- ③ 清洲会議(1582) 織田家部将による会議。信長の後継者に長男信忠の子秀信。
- ④ 賤ヶ岳の戦い(1583) ◎柴田勝家(?～1583) 越前北庄に居城した信長の武將。信長死後、秀吉と対立し、賤ヶ岳の戦いに敗れ自害。
- ⑤ 大坂城築城(1583～88)
- ⑥ 小牧・長久手の戦い(1584)
- ⑦ 紀伊平定(1585) ◎長宗我部元親(1538～99) 四国を支配した戦国大名。のち秀吉に従い、土佐を支配。
- ⑧ 四国平定(1585) ◎九州平定(1587) 1587年、島津義久に圧迫された大友・伊東氏らの要請に応じて、秀吉が大軍を派遣。義久を降伏させ、九州を平定した。
- ⑨ 九州平定(1587) ◎パテレン追放令(1587) 布教を厳禁し、宣教師の国外追放を命じる。ただし貿易は奨励。
- ⑩ パテレン追放令(1587)
- ⑪ 小田原攻め(1590)
- ⑫ 奥州平定(1590) ◎伊達政宗(1567～1636) 奥州を平定した戦国大名。秀吉の小田原攻めに参陣して服属。



8 政治組織

五大老	五奉行	担当
徳川家康	淺野長政	検地
前田利家	石田三成	内政
宇喜多秀家	増田長盛	検地
毛利輝元	長束正家	財政
小早川隆景	前田玄以	京都市政
上杉景勝		

◎小早川隆景の死後から五大老とよばれた

石材＝人頭大自然石、あら割り石→矢穴による切り石へ。長辺1m超の大石が可能に
 石積み＝野づら積み→打ち込みハギ（間詰め石、裏ごめ石の活用＝江戸初期切り込みハギへ）
 初期の算木組はじまる＝コーナー部の強化で高石垣、高重建造物が可能に

- ⑤礎石建造物、桃山文化と建築＝御殿、櫓、高層天守が登場する。
- ⑥金箔瓦＝はじめ権威の象徴として織田一門のみ。秀吉時代に全国の大大名に広がる
- ⑦織豊系城郭は全国に数100城規模で築城された。江戸時代「元和一国一城令」などで廃城となったものに当時の面影をそっくり伝えているものがある。安土城、石垣山城、竹田城などはその代表的な遺跡である。
- ⑧江戸時代に引き継がれた城は大規模な改修が加えられた。姫路城や熊本城、甲府城などは織豊系と近世石垣が混在して城の歴史を垣間みせる。
- ⑨大坂城は信長、秀吉2代の総結集であったが、大坂夏の陣ですべてが焼き払われ、石垣も徳川秀忠によって埋没された。石材地表に一個も存在しないが地中深く保存された。

5) 安土城、大坂城、伏見城、肥前名護屋城――おもな織豊系城郭

①東北地方の城

白石城、若松城、二本松城、猪苗代城、神指城

②関東地方の城

唐沢山城、笠間城、箕輪城、沼田城、宇都宮城
 江戸城、館山城、小田原古城、山中城、八王子城、石垣山一夜城、

③甲信越地方の城

甲府城、新府城、上田城、小諸城、松本城、松代城
 北の庄城、越後福島城、

④東海、近畿地方の城

安土城、京都じゆ楽第、二条城、大坂城、伏見城、淀城、姫路城、岐阜城、犬山城、清洲城、
 駿府城、掛川城、浜松城、伊賀上野城、松阪城、

⑤中国地方の城

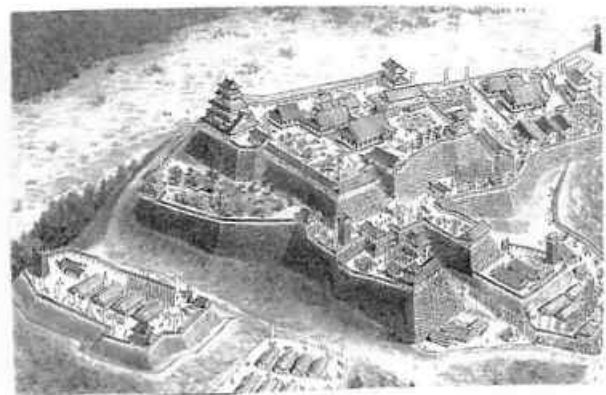
備中松山城、鳥取城、津和野城、岡山城、郡山城、広島城

⑥四国、九州地方の城

徳島城、高松城、宇和島城、名護屋城、人吉城、岡城



竹田城



小田原一夜城



大坂城

6) 圧倒的なスケールの石垣が累々と連なる――遺構が色濃く現存する織豊系城郭

- ①安土城＝織田信長が「天下統一」の拠点城として、琵琶湖湖畔の標高200mの安土山に天正4年から7年の歳月をかけて築城。大手道は幅6mの石段が一直線に伸び、両側は秀吉、家康などの家臣邸が並んだ。山上主郭は穴太積みとされる総石垣、金銀に彩られた7重の天主を上げたが「本能寺の変」で焼失した。大手道や穴太積みと称する主郭総石垣群は圧巻、近世城郭の扉を押し開いた信長総決算の城。
- ②竹田城＝信長の但馬進攻で秀吉に下って家臣となった赤松広秀築城。標高354mの城山山頂三方の尾根に鶴翼の縄張りで、南北累壁上400mに及ぶ総石垣や本丸天守台は見る者を圧倒する。近年「雲上の城」として一躍脚光、堅固な虎口と強烈な横矢、曲りくねった城内は人工の要塞で、現存織豊系城郭の最大傑作といえる。
- ③石垣山一夜城＝天正18年の小田原攻略で20万の兵力を動員した秀吉が陣城として築城。京都出陣の時5万6千を築城要員とし、近江から石工や城大工、瓦職人を同行させた。およそ2か月、小田原側の樹林が切り払われると一夜にして巨城が姿を現した。北条方は驚いて戦意を喪失、氏政は開城、切腹して北条氏が滅亡した。総石垣作り、天守を持つ本格的な城郭で関東大震災崩壊のままの本丸大手高石垣、旧状を伝える急がけ高石垣と算木角石、今も水を蓄える井戸曲輪など遺構が現存、小田原城俯瞰は秀吉の得意顔を彷彿させる。

7) 土にたよった北条氏の城――関東地方の織豊期城郭

- ①天正18年豊臣秀吉の小田原征伐当時北条氏
小田原城＝秀吉来攻に備え、伝統的な土の城を総郭とするなど大改修、徹底籠城で対決。秀吉の力を過小評価、天下の情勢を見誤る。
- ②山中城＝小田原城の前線基地として重視、岱崎出城を築き、城廻りに堀障子をめぐらせるが、わずか2時間で落城
八王子城＝氏政の弟氏照の城で小田原最大の支城。近世城郭を意識した総石垣天守曲輪に着手するが未完の内に攻められ落城
- ③有力支城（分国体制）＝浦賀城、小机城、江戸城、河越城、武蔵松山城、足柄城、岩附城、逆井城、鉢形城、
沼田城、忍城、栗橋城、佐倉城、松井田城、箕輪城、名胡桃城、唐沢山城
- ④当時、関西の緒城の多くは石垣造りの「近世的平城」や「近世的平山城」に移行していたが、関東地方は旧来の伝統的な「中世」の土の城が中心であった。
- ⑤天正18年小田原北条氏が滅亡、徳川家康に旧領関東6か国250万石が与えられる。家康は豊臣時代本格的な城郭建築を進めることはなかったが、関が原の合戦勝利、江戸に幕府を開くと江戸城を天下の覇城として、小田原城は江戸城西の守り城として本格的な近世城への大改造に着手する。
- ⑥その他の関東諸城には譜代大名が封じられたが、精々山城を廃して山麓に移した程度が多く、石垣や天守を構えた本格的な近世城郭が築かれることはなかった。



小田原古城



10代170年、悲劇の戦国大名・里見氏の興亡

1) 上野国から安房へー安房里見氏の誕生

- ①清和源氏新田氏流。義重の子義俊が上野（群馬県）碓氷郡の里見郷に住み、里見太郎を称したことにはじまる。
- ②鎌倉時代は將軍家の御家人として従い、南北朝の動乱で新田義貞に与して敗れたが室町時代に鎌倉公方・足利氏のもとで復活した。室町中期鎌倉足利持氏と將軍家・上杉管領家が対立して「永享の乱」が起こる。里美家基は足利持氏の遣子を奉じて結城城によったが上杉憲実が攻められて敗死し、持氏の末男義実が安房に逃れた。
- ③初代義実（よしざね）＝生没不詳。白浜城？、稲村城
義実が安房里見氏の初代となる。当時安房は安西、神余、丸、東条の4氏が割拠していた。義実はこの争いに乗じて力を付けて安房1国を統一、白浜城、稲村城を本拠にその勢力を着々と確立していった。
*近年の研究で安房里見氏を「永享の乱」と結びつけた考えは後期里見氏の歴史改ざんで、持氏の子で古河公方を名乗った成氏が安房に派遣した一族との考えが定着しつつある
- ④2代義成（よしなり＝成義とも）
*近年の研究でその存在が疑問視されている

2) 房総半島の大半を領有して小田原北条氏と争うー最盛期の里見氏

- ①3代義通（よしみち、成義とも）＝義実の子。生没不詳。稲村城→白浜城
古河公方足利政氏に仕え安房国主となる。上総の南部、小（大）多喜、久留里、小糸、佐貫城ラインを手中に収めるとともに、海を挟んだ対岸の小田原北条氏に対抗した。
- ②4代義豊（よしたか）＝義通の子。稲村城。？～天文3年卒
父義通代から外交面で活躍、交友が広がったとされる。小弓公方義明と通じて品川や鎌倉を攻めた。天文2年オイだが反対勢力の実亮を謀殺しその子義亮に攻め滅ぼされた。
- ③実亮（さねたか）＝義亮の子で義通の弟。？～天文2年卒
はじめ義豊を後見し、金谷城を拠点に里見水軍を押さえたが義豊と対立して殺害される。
- ④5代義亮（よしたか）＝実亮の子。永正4年生まれ、天正2年卒。稲村城→久留里城
父の仇義豊を討って宗家を継承、上総に進出して本拠を久留里城に移した。古河公方の次男で小弓公方を称していた足利義明に与して北条氏綱と市川の国府台に戦って敗れたが、その後も



種類	城名	所在地	築式
本城	安房国 固本之城	安房郡富浦町豊岡字要香	五城
番手城	安房国 たて山之城	鉾山町鉾山子板古壁	板古壁式 山城
支城	安房国 から山之城	安房郡富浦町下佐久間字水浦	海城
支城	上総国 つくろふみの城	富津市竹岡字城山	海城
支城	上総国 さぬきの城	富津市佐貫字小和田谷	台城
支城	上総国 小いとりの城	君津市清和市場字板古壁	山城
支城	上総国 くるりの城	君津市久留里字内山	山城
支城	上総国 かつらの城	勝浦市勝浦字乾内	山城
支城	上総国 おつ木の城	勝浦市勝浦字要香	海城
支城	上総国 おたきの城	夷隅郡大多喜町泉木字岡部台	板古壁式 山城



里見義亮



義成
印判
←



錦絵「三浦半島城ヶ島の北条軍を攻める里見水軍」

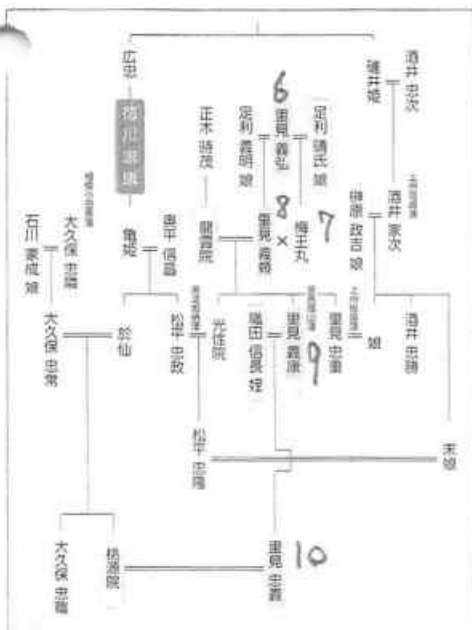


錦絵「国府台合戦の図」

- ③ 7月13日の論功行賞で家康は旧領五か国を収められ北条氏の旧領6か国240万石の所領と近江などに12万石の馬飼料が与えられた。
- ④ 徳川家康は8月1日江戸城に入り、榊原康政を総奉行として家臣の知行割りを行なった。旧里見領の小(大)多喜に本多忠勝10万石、久留里に大須賀忠政3万石、佐貫に内藤家長2万石等が入部、里見氏への防御ラインが構築された。
- ⑤ 家康の関東移封にともない、房総半島の所領形態は一新する。佐倉の千葉氏と小弓、臼井の原氏、小金の高城氏、長南の武田氏、土気、東金の両酒井氏、万木の土岐氏はことごとく城を明け渡して滅亡、旧里見領の小(大)多喜、勝浦の両正木氏は房州に帰り、里見氏の扶持を受けることになった。
- ⑥ 天正18年11月、義康は上洛して秀吉に謁見、翌19年3月従四位下、侍従、安房守に叙任、以後「安房侍従」を称した。
- ⑦ 天正19年6月、岡本城から本拠を館山城に移す。
中世山城の岡本城にくらべ館山は安房の最奥部に立地、海上交通の便がすぐれている。新天地で、近世大名として新たな領国体制の整備再編に着手する。
- ⑧ 天正20年1月、九州、四国、中国の諸大名に「朝鮮出兵」が命ぜられ、義康も徳川家康に従って肥前名護屋に出陣した。加藤清正、鍋島直茂らは朝鮮半島に渡海したが、義康は名護屋に留まった。翌文禄2年講和交渉が始まると帰国した。
- ⑨ 慶長2年石高制による「太閤検地」を実施。安房国は9万1139石となった。

4) 関が原の合戦は家康に従う一勝利で鹿島3万石を加増

- ① 慶長3年秀吉がなくなり、同4年遺児秀頼を補佐した前田利家が病死すると、家康と石田三成の対立は決定的となった。慶長5年3月家康は三成派の会津上杉景勝討伐のため兵を起すと呼応して三成も大坂で挙兵した。
- ② 義康は7月25日家康本陣での「小山評定」に参陣、結城秀康とともに会津押さえとして宇都宮に留まった。
- ③ 9月15日関が原の合戦、家康勝利。関が原の合戦論功行賞により義康は常陸国鹿島郡の内に3万石を加増され、関東の外様大名ながら12万石の国持ち大名となった。
- ④ 慶長8年家康、征夷大將軍に就任して江戸に幕府を開く。義康の幕府内での立場はひとまず良好であった。



岡本城 →

房総主要図
16世紀末 13

5) 忠義配流、倉吉に死す——里見家滅亡

- ① 10代忠義=義康の子。文禄3年生まれ、慶長8年相続、元和8年卒
 - ② 慶長11年將軍秀忠面前で元服、秀忠の一字を賜わり、従四位下、侍従、安房守に叙任、幕府に重んじられ譜代大名並みの扱いとされた。
 - ③ 慶長16年当時幕府宿老として権勢を誇った大久保忠隣の子孫むすめと結婚、このことが逆に破綻の一因となる。
 - ④ 慶長18年勘定奉行、佐渡金山奉行などの要職にあった大久保長安の死去後、私財を追及され、大久保忠隣と本多正信の抗争から一大疑獄に発展、長安家は改易、忠隣家も小田原城を没収されて忠隣が彦根藩に幽閉された。
 - ⑤ 忠義も忠隣の罪科に連座し、かつ館山城を補修して要害としたこと、浪人を召し抱え、家臣数が多すぎとして倉吉3万石に移された。真意は不明だが、幕府内の本多、大久保両派の政治的抗争で忠隣が敗れたこと、所領の館山が徳川家の喉先に当たって直後に控えた大坂豊臣家総攻撃に支障が生じかねないことなどが想定されている。
 - ⑥ 倉吉転封は改易を前提とした口実であった。わずか1000俵の扶持を与えられた事実上の配流で許された供もわずか、雪深い倉吉の神坂に住した。元和3年池田光政が鳥取に移封され因幡、伯耆2か国を領有するとこの地も取り上げられ、100人扶持で田中村に蟄居、堀村に移って最後の地となった。
 - ⑦ 元和8年卒28才。倉吉の大岳院に葬る。法号は雲晴院殿前拾遺心叟賢涼大居士といった。夫人は弟大久保忠季のもとに戻され明暦元年に没した。忠義は子なしとされ里見家は断絶した。
 - ⑧ この時8人の家臣が殉死、「南総里見八犬伝」はこの8人をモデルにした。
 - ⑨ 里見氏改易にともなう館山城受け取りは大多喜・本多忠朝、佐貫・内藤政長に、勤番は笠間・松平康長ら13大名が命じられた。城内には当初籠城意見もあったが、城主の安否もあいまいで動きがとれず、それぞれが思い思いに落ち行つた。
 - ⑩ 破却(城割り) = 本丸御殿や天守、櫓が払われ、水濠が埋められた。岡本城などの支城もこのとき破却された。
- * 堅牢な城郭にして火を放ちてこれをこわすもなお20日を要しぬ (本多家記録)

6) 「南総里見八犬伝」で八犬士が活躍——滝沢馬琴の名作

- ① 名将里見義実の家臣で妖犬八房に因縁する仁義礼智忠信孝悌8人の犬士の活躍を描いた大歴史小説。曲亭滝沢馬琴が48才から76才までの28年間をかけた大著作で、98巻、106冊からなる。
- ② 晩年失明し、後半は嫁ミチに字を習わせて口述筆記させた。



濠を深くし、矢倉高く天守天にそびえる

1) 中世根古屋式山城—館山城のはじまり

- ①館山城は天正15年(異説あり)里見義頼が築城工事を開始したが果たせぬままに亡くなり、義康に代わりした同18年に完成した。信長、秀吉の近世城郭を意識したとはいえまだまだ中世城郭の延長といえる。
- ②根古屋式山城=標高65m、比高50mの小山=通称・根古屋山を詰め城に山麓に居館と武士屋敷を備えた中世的城郭。当初の大手は根古屋側に置かれた。
- ③本城・岡本城=本拠地の海城。館山城移城後も水軍本拠となった
番手城(在番支城)・館山城=番城と同じ。特定の城主を置かず交代で在番させた城。副本拠地
支城=勝山、造海(百首)、佐貫、小糸、久留里、勝浦、小(大)多喜
孫城、枝城=ネットワーク
- ④守り(うしろ)堅固の城=館山湾を背に守る
*当初はややとがった城山=現況は平坦、第二次世界大戦時、高射砲陣地として改変されている
*城裏側を切り岸して急崖に仕上げる。樹木は必要に応じて切り払い攻撃の手がかりにならないようにした。博物館側2本の登り口は軍用新道と戦後新道で当時はなかった。
*最高所を削平して本丸とする。次の高所に広い曲輪(千畳敷)を作り兵の集結場とする。主郭部に帯曲輪を回す。兵の移動路であり守備陣となる
*根古屋側斜面は階郭式に曲輪を築く
*それぞれの曲輪ごとに空堀で区画し周囲に土塁を築く。虎口に櫓門を構え、土塁を屈曲させて横矢を構える

2) 近世城郭への大改造—天正19年7月岡本城から本拠を館山城に移す

- ①総構え城下町を整備=港町を兼ねた商家町で賑わう
廻船入港の奨励、城下経済の発展促す
商人の保護政策
- ②領国体制の整備=領国縮小にともなう引き締め再編
家臣団の知行割り=知行充行状
寺社領=寄進、安堵状の発給
- ③汐入り川を外堀に、水濠をめぐらす
- ④大手とからめ手
- ③館山城を織豊城郭に大改修=みせる城、権威の象徴の城へ
里見氏改易の理由=城郭を修理し、要害を構え
- ④天守=千帖敷きの南端に天守台の地名。「館山に三重の天守を建て候を見し候」(明智軍記)
安房12万石太守として当然建立されたといえるが規模などの詳細は不詳。
- ⑤義康御殿、新御殿=華麗な桃山殿舎を連ねたものと考えられる。
- ⑥浅間社下の石垣遺跡=高さ1~3m、長さおよそ100m、房州石の凝灰質砂岩か。戦後写真をみると野ヅラの変形亀甲または落とし込み積みで多少軍の補修跡はあるが里見時代のものと考えられる。
- ⑦通称お屋敷(館山陣屋跡)=里見氏内陣跡と伝わる

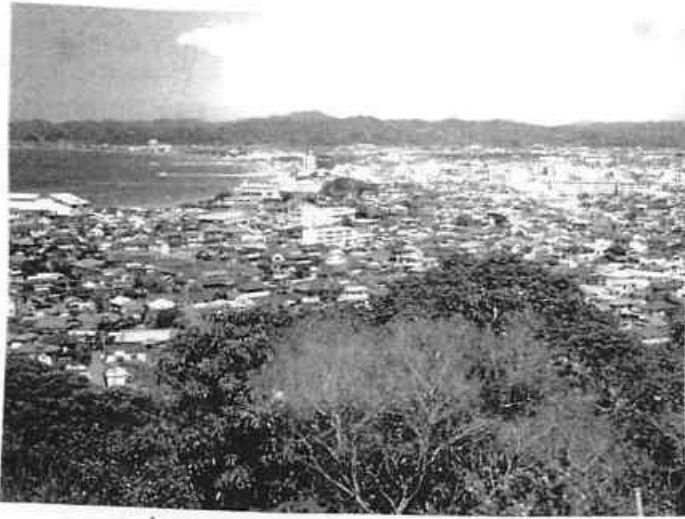
次回現地研修を楽しみにしてください。

資料は別作りしますが、念のためこの資料も持参してください。

ご案内コースは普通程度歩ける方を対象にしています。

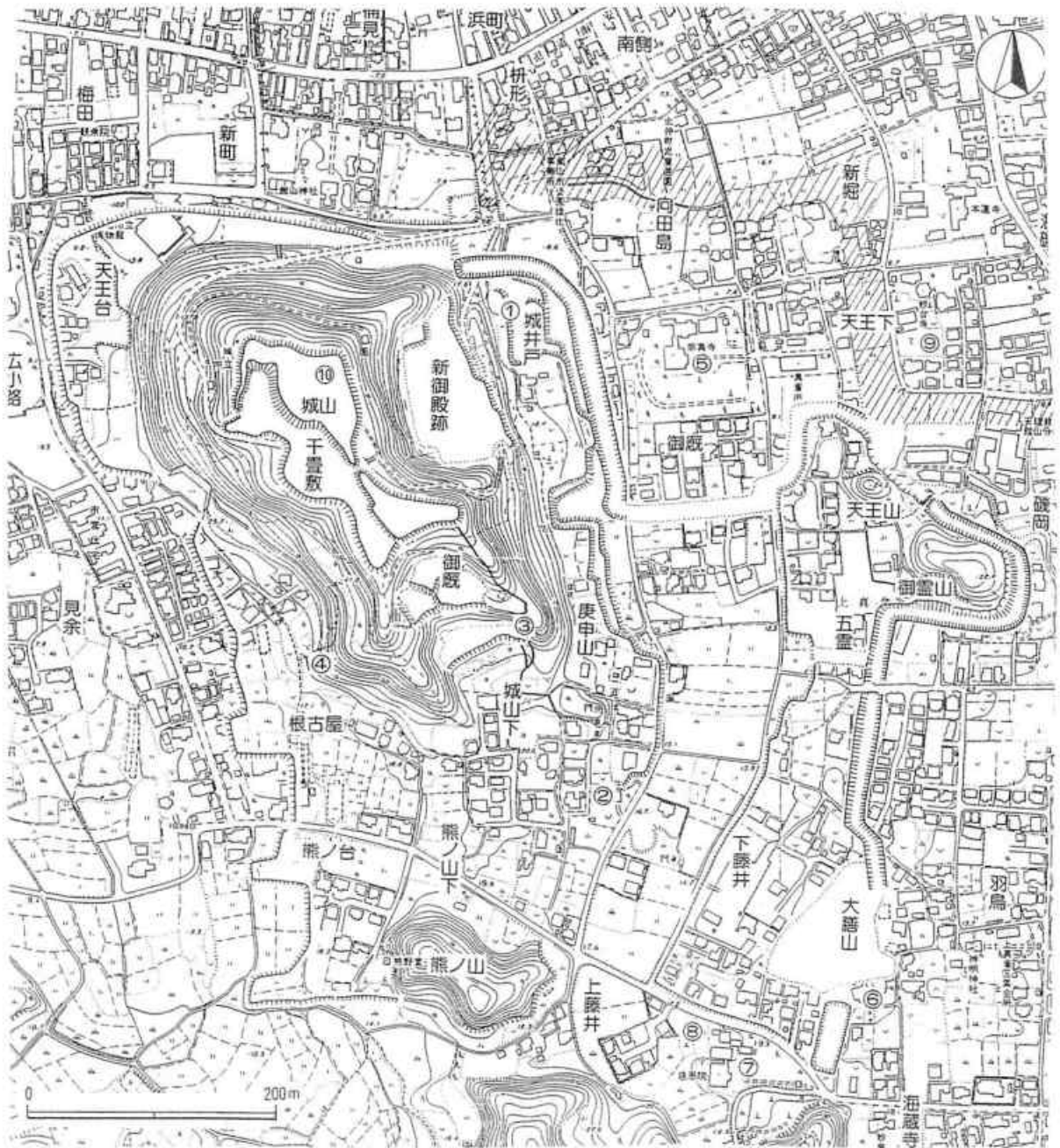
山登り15分、山上の城山公園は必須。以降のコースは急坂下りなど徒歩およそ1時間です。

自信のない方は楽々コースで下山します。

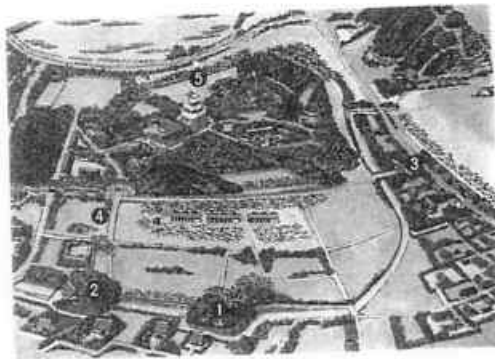
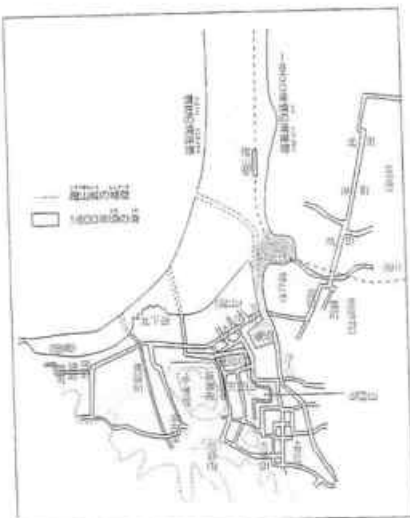
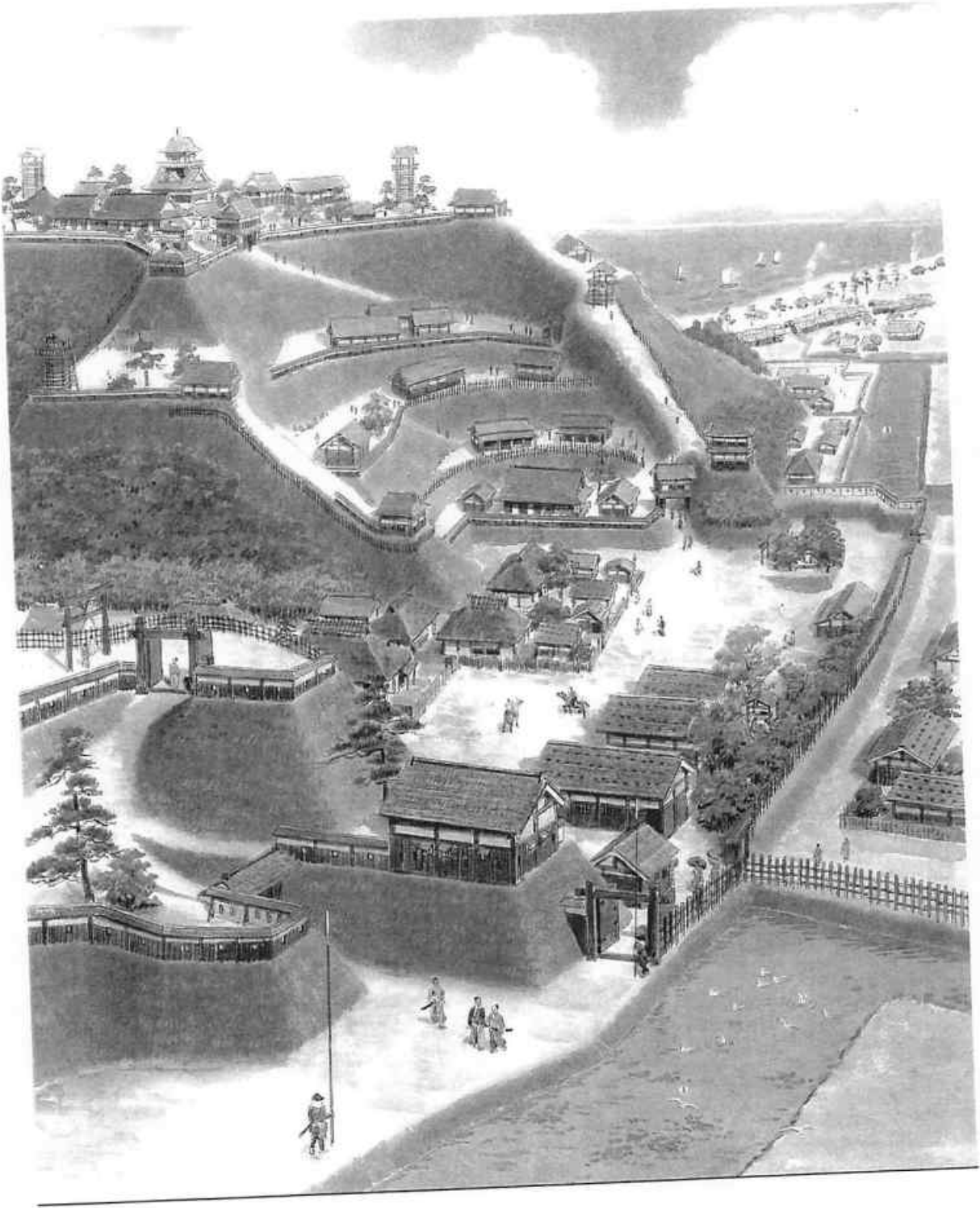


館山城跡の眺望

城跡風の館山博物館分館



館山城 概略図



里見家重臣役所所藏
小谷泉館山城図

主要参考、引用資料
 詳説日本史図録＝山川出版社
 戦国の城＝西ヶ谷恭弘
 戦国大名里見氏の歴史＝川名登
 里見氏改易始末＝千野原靖方
 さとみ物語＝館山市教育委員会
 館山城跡＝千葉耀胤
 館山城の考察＝山岡俊明
 館山城とその城下町＝"
 館山城跡調査概要＝館山城跡調査会

第2回

彩サロシ

平成26年6月14日(土)

バス研修「横浜方面」

講師 石井 勇 氏

行き先 神奈川県立歴史博物館

山下公園

氷川丸

大棧橋



氏名

(行程) 八幡公民館発・横浜歴史博物館・象の鼻公園(昼食)・山下公園
氷川丸・大棧橋・海ホテル(休憩)・八幡公民館 16:30 願館発

幕府はペリー来航により開港し近代化が始まった。

安政1年(1654年)、ペリー2度の来航により幕府は、横浜で日米和親条約を締結、同条約に基づき安政5年(1658年)日米修好通商条約が結ばれ、翌59年横浜が開港された。開港当時神奈川は、東海道の神奈川宿として5000人ほどの人口で栄えていた。

神奈川宿の横の浜と言ひ(横浜村)100戸程の半農半漁の小さな村であった。

安政6年7月、幕府は外国人居留地をつくる布告を出すと、海辺の埋め立てが盛んに行われ、日本人町も造られ横浜の人口は江戸末期で2万人、明治5年には6万4000人を抱える国際貿易港となっていた。横浜港から西洋の物資が輸入され、それだけに止まらず法律・学問、宗教・教育制度などが流入し、日本に文明開化がおとずれた。

一方開港直後から海外に対する輸出が本格化し、日本人貿易商が外国商人に、主として生糸を販売した。慶応3年(明治1年の前)には横浜の全輸出価額の半分を占め、横浜は日本を代表する貿易港となり、明治期を通して生糸の輸出を独占し続けた。

埼玉県(原三溪)・群馬県(茂木惣兵衛)群馬県・吉田幸兵衛などが経営する数件の生糸売込商が生糸貿易の大半を占めていた、又、近代化を成し遂げていくことになる。

横浜正金銀行 (神奈川県立歴史博物館)

明治13年1880年、大隈重信らの主導により設立され、その後、松方正義により外国貿易金融専門銀行として確立された。業務の目的は、日本の貿易振興と正貨(金・銀・金貨・銀貨)の収集であったが、戦後1946年、GHQにより解体縮小され、東京銀行になった。

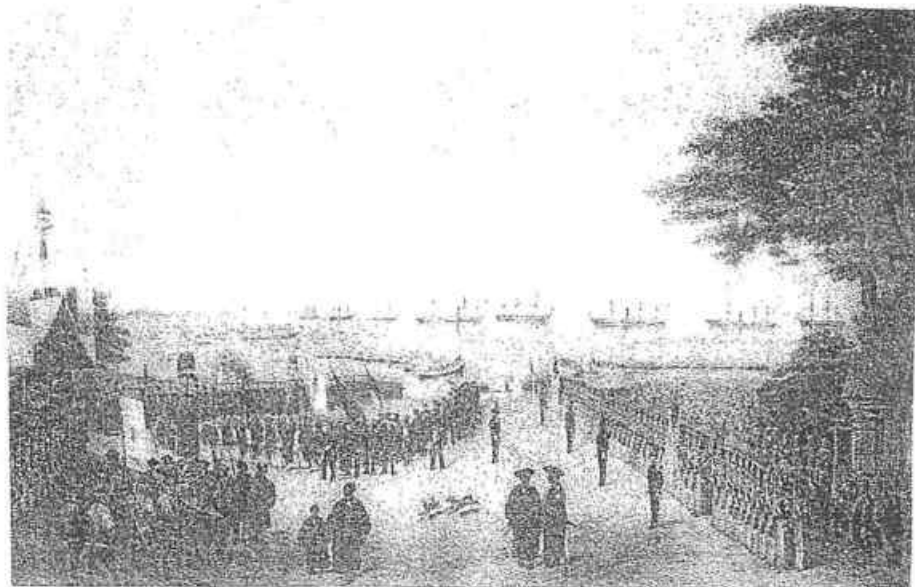
明治37年1904年、妻木頼黄の設計により完成、横浜赤レンガ倉庫なども設計した。グリーン色のドームが目立つネオ・ブロック様式で、関東大震災の火災によりドームは焼け落ちたが、昭和42年(1967年)復元され神奈川県立歴史博物館として開館した。

同年に国の重要文化財に指定された。

象の鼻公園

このあたりは、横浜港発祥の地であり、荷役に使用された鉄道レールと転車台は関東大震災で地中に沈んだが、象の鼻地区の再開発工事の際発見され、ガラス床の下に保存されている。明治5年鉄道建設のため、イギリス人技術者の指導を受け工事が行われました。蒸気機関車、車両や機械はもちろん、セメント、レンガ、ガラスなど輸入し、新橋から横浜間に初めて鉄道(約29km)が敷設され、政府は蒸気機関車を正式に汽車という名前になりました。

当時1日9往復、45分で走り、運賃は下等で35銭5厘現在の約4200円でした。



ペリー艦隊随行者画家ハイネが描いた「ペリーの横浜上陸」(横浜開港資料館蔵)。1854年3月8日の様子。この日、ペリーは約500人の将兵を率いて横浜に上陸した



明治初期の波止場の光景。三代広重の原軸「横浜海岸通之図」(横浜開港資料館蔵)から、手前には荷物を運ぶはしけが描かれている



象の鼻通り



山下公園

関東大震災のがれきを海中に埋め立てて造られた公園です。昭和3年完成、震災後の救援活動に感謝した横浜在住のインド人の団体から寄贈された、インド水塔はじめ、赤い靴をはいた女の子・かもめの水兵さん・日米友好ガールスカウト像・歌碑・山下公園・元町にもたくさんのお慰霊碑等があります。

大さん橋（螺旋杭）

大さん橋は明治27年（1894年）完成した。棧橋を支えるため、人力で海底におじ込まれたのが螺旋杭だった。101年にわたり棧橋を支えた杭が棧橋手前の屋外に展示されています、関東大震災の復旧工事に使用された杭の現物です。

現在の大さん橋は2002年にウッドデッキの造形美がすばらしい国際旅客ターミナルとしてレストラン、カフェ、土産物店が完成した。又、屋上デッキからの夜景も観賞できます。

氷川丸

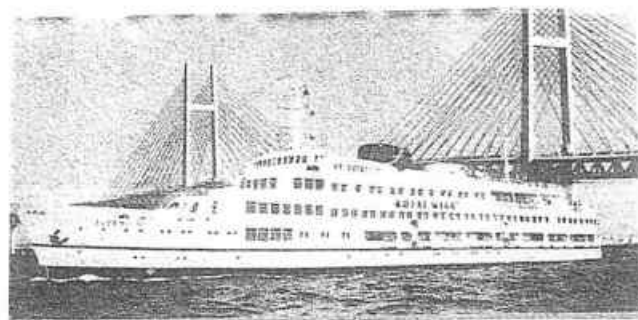
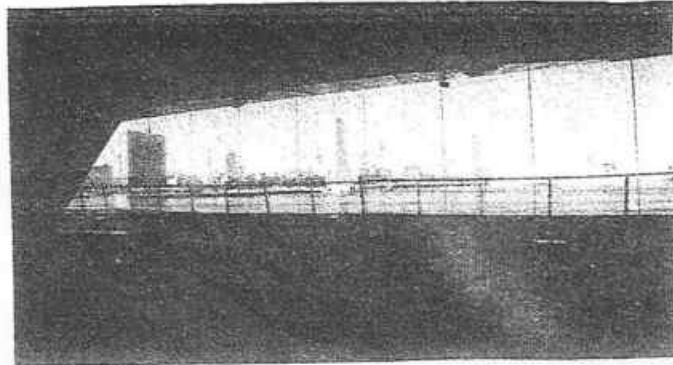
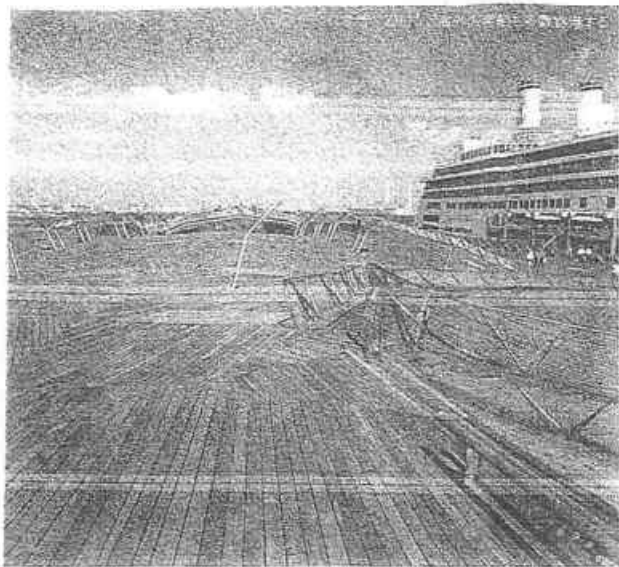
日本郵船が昭和4年1929年三菱重工業で製造した、総トン数12000トン、全長は163.3mの豪華客船で皇族やチャップリンなど名高なゲストを乗せて世界を航行した。氷川丸は、現在は横浜港山下公園棧橋に係留され博物館として使用されている。

横浜三塔を探そう

キング・神奈川県庁（1929年建設高さ49m）

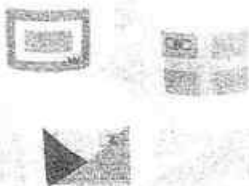
ジャック・開港記念館（1917年建設高さ36m）

クイーン・横浜税関（1934年建設高さ51m）



これが人気! エクスポート おみやげ

海や船にちなんだグッズが豊富なみやげ店。大さん橋の床に使った端材を利用したものなど、おもしろいものが揃っている。



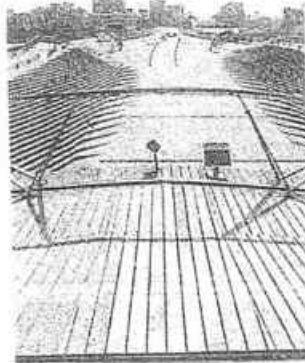
TEL 1491-1425 受付P10 G-2
045-650-8210 時10:30 ~ 19:30
無休 大さん橋国際客船ターミナル 2F

フラッグミニマグ 各840円

船の交信用シグナルフラッグを柄に用いた
小さめサイズのマグ。

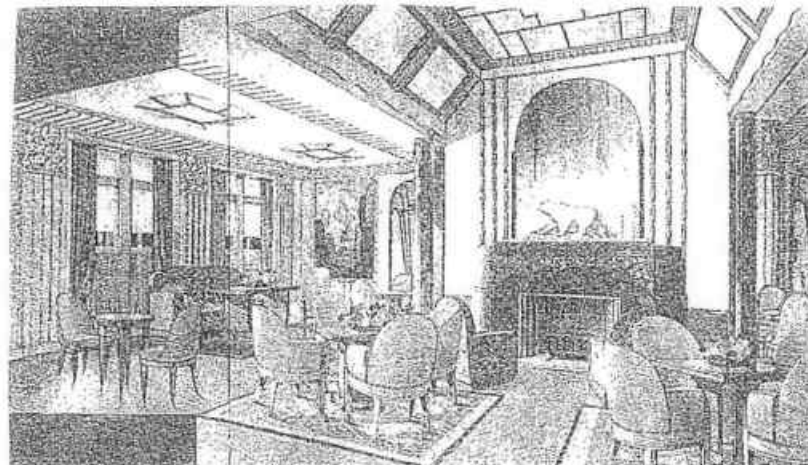
フラッグマグネット 各315円

シグナルフラッグが描かれたかわいいマグネット



三層が見晴せるビューポイント

TOBEKA... (unreadable text)



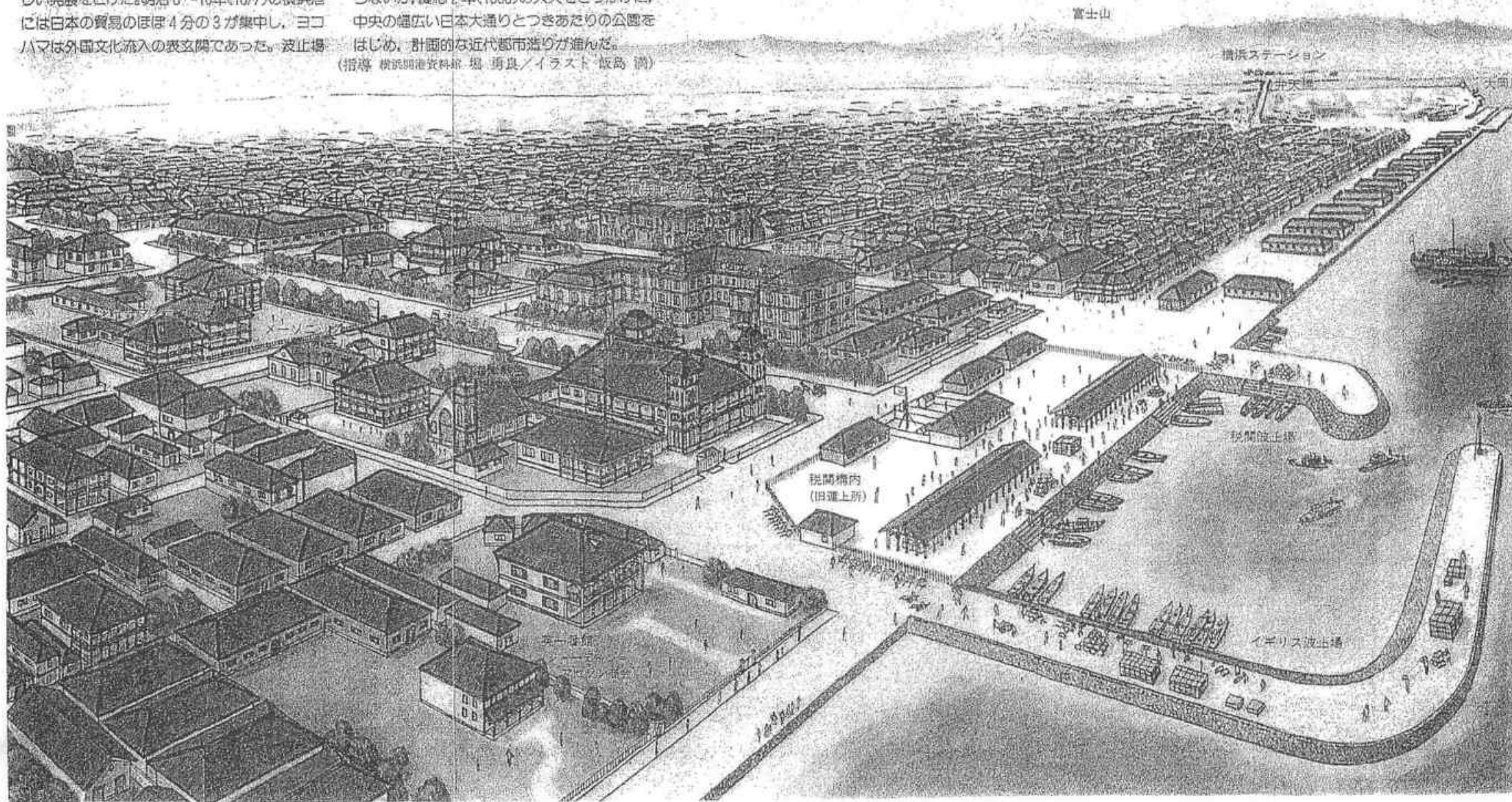
63図 マーケ・シモン社「氷川丸一等社交室」昭和4年(1929)・三菱重工業(株)船舶技術部編「豪華客船インテリア画集」アテネ書房刊より

明治初年の横浜

かつてペリーが上陸して日米和親条約を結んだ
 磯村横浜は、安政6年(1859)の開港以降めざま
 しい発展をとげた。明治8~10年(1877)の横浜港
 には日本の貿易のほぼ4分の3が集中し、ヨコ
 ハマは外国文化流入の表玄関であった。波止場

正面の運上所(税関)を境に、左手(東)が外国人
 居留地、右手(西)が日本人街という区分は変わ
 らないが、慶応2年(1866)の大火をきっかけに、
 中央の幅広い日本大通りとつきあたりの公園を
 はじめ、計画的な近代都市造りが進んだ。

(指導 横浜開港資料館 堀 勇良/イラスト 飯島 潤)



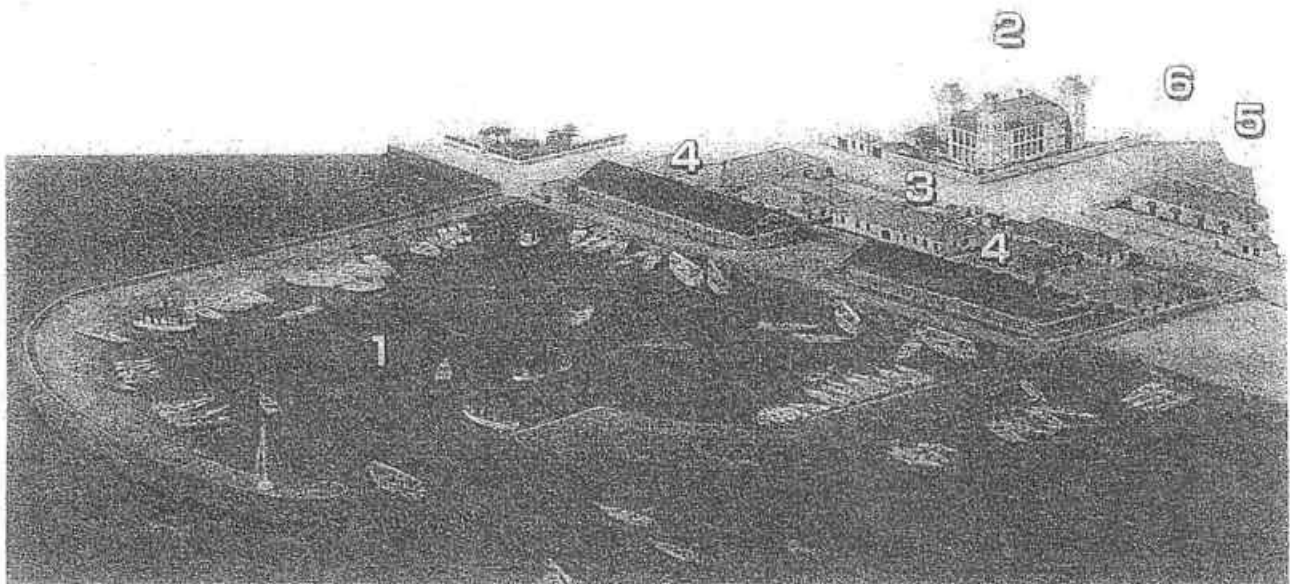
慶応3年(1867)以降の波止場

慶応2年(1866)に関内地区で大火があり、日本人町の約3分の2、外国人居留地の3分の1近くが焼失しました。開港当初の波止場も運上所を焼失するなど、大きな被害を受けました。この復興の際、波止場の様子は大きく変わりました。

波止場の設備が拡充され、2つの突堤は波の影響を受けることなく荷役ができるように延伸されました。先端が食い込むようにカーブを描いた独特な形の突堤は、のちに「象の鼻」と呼ばれるようになります。運上所は、2つの突堤に挟まれた海面の一部を埋め立て、そこに再建されました。新しい運上所は火災防止のため石

積みの外壁を持ち、建物中央に通り抜けられるホールを設けるなど、これまでの日本建築にはない西洋の型式が取り入れられました。運上所の海側には、貨物の一時的な置き場所である上屋が2棟建てられました。また、石積みの保税倉庫が、新しい運上所の両側や焼失した運上所跡に何棟も造られました。

けれども、大型船が接岸できず効率的な荷役ができない、本格的な防波堤がないといった港湾設備の不備は解消されませんでした。近代港湾として設備が整うのは、大棧橋が完成する明治27年(1894)のことです。



イギリス波止場復元模型 1870年代

① イギリス波止場

場所は、現在の神奈川県庁や横浜開港資料館の海側、大棧橋の入口と横浜税関のあいだです。大型船が直接接岸できなかったため、荷役は小船を介して行われました。向かって左の突堤は、その形から「象の鼻」というニックネームがつけました。突堤先端にある灯竿は、英国人技師プラントンが設計しました。

② イギリス領事館

変則的な3本の塔が特徴の建物です。現在横浜開港資料館があるところです。

③ 運上所

運上所は、貿易の事務を取り扱う役所で、現在の税関にあたります。建物は火災防止のため、外壁が石積みで造られました。また、アーチ形の入口や建物中央

部に設けられた通り抜けのホールなど、西洋の建築デザインが取り入れられています。

④ 上屋

船積み前の貨物や陸揚げした貨物を、一時的に置いておく建物です。側面に、広い大きな屋根を支えるための木組みが見えています。

⑤ 保税倉庫

当時の史料には石庫と記されています。輸入手続き中の貨物を保管する倉庫で、火災防止のため石積みで造られました。この場所は現在神奈川県庁の敷地です。

⑥ 日本大通り

英国人技師プラントンが、防火帯を兼ねて設計した街路です。碎石をローラーで固めたマカダム舗装がなされていました。